山梨県笛吹市

竹居古墳群

一中山間地域総合整備事業八代地区竹居2工区ほ場整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2016

山梨県峡東農務事務所留 吹市教育委員会公益財団法人山梨文化財研究所

例 言

- 1. 本書は、山梨県笛吹市八代町竹居 1630 番地外に所在する、竹居古墳群の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2. 発掘調査は、中山間地域総合整備事業八代地区竹居2工区ほ場整備工事に伴い、笛吹市の委託を受けた公益財団法人山梨文化財研究所が発掘調査および整理作業にあたった。
- 3. 発掘調査は、平成26年11月6日から翌27年1月30日まで実施した。
- 4. 本書の執筆は、植月学(山梨県立博物館)、宮澤公雄が行った。
- 5. 本書の編集を宮澤が行った。
- 6. 本書に掲載の遺構写真は宮澤が、遺物写真は中川美治、宮澤が撮影した。
- 7. 発掘調査および整理作業のうち一部の調査・業務について、以下の機関に委託ならびに協力を得た。

基準点・写真測量 株式会社テクノプラニング

鉄器保存処理 公益財団法人山梨文化財研究所

石材鑑定 河西 学(公益財団法人山梨文化財研究所)

骨同定 植月 学(山梨県立博物館)

ガラス小玉材質同定 藤澤 明(帝京大学文化財研究所)

- 8. 本書ならびに発掘調査に関わる記録図面・写真・出土遺物等は、笛吹市教育委員会が保管している。
- 9. 本遺跡の発掘調査および整理作業にあたっては、以下の諸機関・各位から多大なるご指導・ご協力を賜った。ここに記して深く感謝の意を表する次第である。

笛吹市教育委員会、山梨県学術文化財課

池上悟、石神孝子、植月 学、小澤美和子、河西 学、小林健二、塩谷風季、鈴木一有、鈴木敏則、坂本美夫、野崎 進、橋本博文、日高 慎、藤澤 明、村石眞澄、森 和敏

- 10. 参考文献は、執筆者順に第4章末にまとめて掲載した。
- 11. 本墳については、以下の文献において概要を報告しているが、本書をもって正式な報告とする。 宮澤公雄 2015「竹居古墳群」『山梨考古』第137号 山梨県考古学協会

凡 例

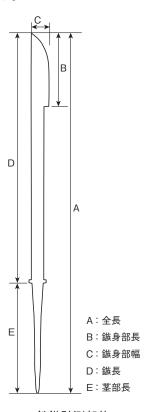
なお、真北方向角は-0度5分18秒となる。

2. 遺構・遺物実測図の縮尺は、以下の通りである。

- 3. 遺構図版中の遺物分布図のマークは以下の通りである。ただし、マークの向きは平面図については北向き、垂直分布図は垂直方向を基準としている。
 - 土師器 須恵器 ★ 縄文土器 ▲ 陶磁器 □ 金属製品 玉類
 - ◆ 石製品 △ 骨 ☆ 黒曜石 ◇ 炭化物
- 4. 遺物図版中で使用したスクリーントーンの凡例は、以下の通りである。

黒彩 須恵器

- 5. 遺構同一図版中の標高は、原則として統一しているが、一部異なるものもあり明記してある。
- 6. 出土遺物分布図中の出土遺物実測図は、任意の縮尺であり統一していない。また、接合関係を表現した 線のうち、実線は接合関係にあるもの、破線は直接接合しないが同一個体と判断されるものを表す。
- 7. 出土遺物のうち、鉄製品についてはさまざまな形状のものがあるため、部位の計測値についてはできるだけ本文中に記載したが、鉄鏃に関する遺物観察表中における計測値は右図による。
- 8. 石室側壁および石室内の報告において、奥壁より石室入口へ向かい、右側を右側壁、左側を左側壁とする。
- 9. 遺構図版中および遺物観察表中の色調名は、農林水産省技術会議事務所監修 1990『新版 標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄)、尚学図書・言語研究所 1986 『色の手帳』 小学館によっている。
- 10. 本書で用いた地図は、国土地理院発行の「石和」(1:25,000)、明治25年測量の1960年刊行「山梨県東八代郡八代町土地宝典 地番地積地図入図」のうち八代町竹居区分間図(1:1,800)、笛吹市「地籍図」(1:1,500)である。



鉄鏃計測部位

目 次

用、例 第1章 序 説 1 第2章	例 言	
第1節 調査任理3経緯 1 1 第2 5 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	凡 例	
第 2 節 調査経過 1 第 3 章 3 章 3 章 3 章 3 章 3 章 3 章 3 章 3 章 3	第1章 序 説	······ 1
第3節 調査方法 3 第4節 遺跡概要 3 3 第5節 基本唇序 5 2 2 遺跡の心理的位置 7 第1節 遺跡の地理的位置 7 第2節 遺跡の地理的位置 7 第3章 遺跡の歴史的環境 7 第3章 遺跡と遺物 12 1 項 元 12 1 項 元 12 2 前庭部 12 2 前庭部 12 2 前庭部 12 3 間寒部 12 4 石 室 13 13 5 遺物出土状況 13 6 出土遺物 14 5 2 節 2 号境 17 1 項 丘 17 2 石 室 17 2 石 室 17 2 石 室 17 2 石 室 17 2 五 章 3 遭物出土状况 17 3 遺物出土状况 17 4 出土遺物 18 第3節 3 号墳 19 1 項 丘 19 2 遺物出土状况 17 3 遺物出土状况 17 3 3 出土遺物 18 第3節 19 前 1 項 丘 19 2 遺物出土状况 19 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	第1節 調査に至る経緯	······································
第4節 産跡標果 3 3 年 2 2 2 2 2 3 2 3 2 3 2 3 2 3 2 3 2	第2節 調査経過	······································
第5節 基本層序 第2章 遺跡の立地と環境 7 第1節 遺跡の地里的位置 7 第3章 遺骸と遺物 12 前	第3節 調査方法	
第5節 基本層序	第4節 遺跡概要	
第2章 遺跡の立地と環境 77 第3章 遺跡の歴史的環境 77 第3章 遺跡の歴史的環境 77 第3章 遺縁と遺物 12 第1節 1号墳 12 前底 12 前庭部 12 前庭部 12 13 前丘 12 前庭部 12 14 丘 15 道物出上状況 13 6 出土遺物 14 丘 17 17 18 丘 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18	第5節 基本層序	
第2節 遺跡の歴史的環境 7	第2章 遺跡の立地と環境	······································
第2節 遺跡の歴史的環境 7 7 第3章 遺構と遺物 12 第1節 1号墳 12 1 墳 丘 12 前庭部 12 2 前庭部 12 3 閉塞部 12 4 石 室 13 5 遺物出土状況 13 5 遺物出土状況 13 6 出土遺物 14 第2節 2号墳 17 1 墳 丘 17 2 石 室 17 2 石 室 17 2 石 室 17 2 五 室 17 2 五 室 17 2 五 室 17 2 五 室 17 4 出土遺物 18 第3節 3号墳 19 1 墳 丘 19 2 遺物出土状況 19 3 出上遺物 18 第3節 3号墳 19 1 墳 丘 19 3 出上遺物 19 第4章 科学分析 64 第1節 竹居古墳群から出土したウマ遺体 65 章 総 括 57 章 総 67 章 総 67 章 総 67 章 と	第1節 遺跡の地理的位置	
第1節 1号墳 12 1 墳 丘 12 2 前庭部 12 3 閉塞部 12 4 石 室 13 5 遺物出土状況 13 6 出土遺物 14 第2節 2号墳 17 1 墳 丘 17 2 石 室 17 3 遺物出土状況 17 4 出土遺物 18 第3節 3号墳 19 1 墳 丘 19 2 遺物出土状況 19 3 出上遺物 19 第4章 科学分析 64 第1節 竹居古卓群から出土したウマ遺体 64 第5章 総 括 67 第1節 竹居1~3号墳の築造年代 67 第2節 象狀鍔について 69 第3節 竹居古卓群の位置づけ 73 参考文献 73 第4表 出土遺物観察表(金属製品) 22 第2表 出土遺物観察表(七器) 20 第5表 出土遺物観察表(金属製品) 22 第3素 出土遺物観察表(石製品) 21 第6表 馬雷計測結果 65 図版目次 第1図 1・2号墳石室区割図 3 第4図 調査区配置図 6 第2図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第5図 遺跡の位置と周辺の遺跡 10	第2節 遺跡の歴史的環境	······································
1 墳 丘 12 前底部 12 3 開寒部 12 4 石 室 13 5 遺物出土状況 13 6 出土遺物 14 第2節 2号墳 17 1 墳 丘 17 2 石 室 17 2 石 室 17 2 石 室 17 2 石 室 17 4 出土遺物 18 第3節 3号墳 19 1 墳 丘 19 2 遺物出土状況 19 3 出土遺物 56 4章 科学分析 66 4 第1節 竹居古墳群から出土したウマ遺体 64 第1節 竹居古墳群から出土したウマ遺体 64 第1節 竹居古墳群の位置づけ 67 第2節 象状鍔について 69 第3節 竹居古墳群の位置づけ 72 参考文献 おわりに 2 第2表 出土遺物観察表 (土器) 2 第5表 出土遺物観察表 (土器) 2 第5表 出土遺物観察表 (土器) 65 図版目次 51 図 1 · 2号墳石室区割図 3 第4区 調金区配置図 6 6 第2図 竹居古墳群別辺の古墳分布 4 第5回 遺跡の位置と周辺の遺跡 10	第3章 遺構と遺物	
1 墳 丘 12 前庭部 12 12 前庭部 12 13 閉寒部 12 14 石 室 13 5 造物出土状況 13 6 出土遺物 14 第2節 2号墳 17 1 墳 丘 17 2 石 室 17 2 石 室 17 2 石 室 17 2 石 室 17 3 遺物出土状況 17 4 出土遺物 18 第3節 3号墳 19 1 墳 丘 19 2 遺物出土状況 19 5 4 章 科学分析 6 4 第5章 総 括 67 第 1節 竹居 1 〜 3 号墳の築造年代 6 4 第 5 章 総 括 67 第 1節 付居 1 〜 3 号墳の築造年代 6 5 章 総 括 67 第 1節 付居 1 〜 3 号墳の築造年代 6 5 第 2 節 を 表 数 一次 5 表 出土遺物観察表 (土曜) 7 ス 5 表 3 表 出土遺物観察表 (土曜) 7 名 第 5 表 出土遺物観察表 (五製品) 2 2 第 5 表 出土遺物観察表 (五製品) 2 2 第 5 表 出土遺物観察表 (五製品) 2 2 第 6 表 馬鷹計訓結果 6 5 図版目次 6 第 2 図 竹居古墳群周辺の古墳分布 3 第 4 図 瀬を区配管図 6 6 第 2 図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第 5 図 遺跡の位置と周辺の遺跡 1 0 6 表 2 図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第 5 図 遺跡の位置と周辺の遺跡 1 0 6 5 2 図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第 5 図 遺跡の位置と周辺の遺跡 1 0 6 5 2 図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第 5 図 遺跡の位置と周辺の遺跡 1 0 6 5 2 図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第 5 図 遺跡の位置と周辺の遺跡 1 0 6 5 2 図 1 2 2 3 3 3 4 2 3 3 4 2 3 3 4 2 3 3 4 2 3 3 4 2 3 3 4 4 2 3 3 4 2 3 3 4 4 3 3 4 4 3 3 4 4 3 3 4 4 3 3 4 4 3 3 4 4 3 3 4 4 3 3 4 4 4 3 4	第1節 1号墳	
2 前庭部 12 3 関密部 12 4 石 室 13 5 遺物出土状況 13 6 出土遺物 14 第 2節 2号墳 17 1 墳 丘 17 2 石 室 17 2 石 室 17 2 石 室 17 3 遺物出土状況 17 3 遺物出土状況 17 3 遺物出土状況 17 3 遺物出土状況 17 4 出土遺物 18 第 3節 3号墳 19 1 墳 丘 19 2 遺物出土状況 19 2 遺物出土状況 19 2 遺物出土状況 19 3 出土遺物 19 第 4章 科学分析 64 第 5章 総 括 67 第 1節 竹居古墳群から出土したウマ遺体 64 第 5章 総 括 67 第 1節 竹居古墳群がら出土したウマ遺体 67 第 2節 象状鍔について 69 第 3節 竹居古墳群の位置づけ 72 参考文献 53 前 竹居古墳群の位置づけ 72 参考文献 54	1 墳 丘	
3 閉塞部 12 4 石 室 13 5 遺物出土状況 13 6 出土遺物 14 第2節 号墳 17 1 墳 丘 17 2 石 室 17 3 遺物出土状況 17 4 出土遺物 18 第3節 3号墳 19 1 墳 丘 19 2 遺物出土状況 17 4 出土遺物 19 3 出土遺物 19 5 首	2 前庭部	
4 石 室 13 5 遺物出土状況 13 6 出土遺物 14 第 2節 2号墳 17 1 墳 丘 17 2 石 室 17 3 遺物出土状況 17 4 出土遺物 18 第 3節 3号墳 19 1 墳 丘 19 2 遺物出土状況 19 2 遺物出土状況 19 3 出土遺物 19 第 4章 科学分析 64 第 1節 竹居古墳群から出土したウマ遺体 64 第 1節 竹居古墳群から出土したウマ遺体 64 第 1節 竹居古墳群から出土したウマ遺体 64 第 1節 竹居古墳群の位置づけ 72 参 考文献 57 まわりに 表 目 次 第 1 第 4 表 出土遺物観察表 (金属製品) 22 第 2 表 出土遺物観察表 (土器) 20 第 5 表 出土遺物観察表 (全属製品) 22 第 3 表 出土遺物観察表 (石製品) 21 第 6 表 馬歯計測結果 65 図版目次 第 1 日 1・2号墳石室区割図 3 第 4 図 調査区配置図 6 6 第 2 図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第 5 図 遺跡の位置と周辺の遺跡 10	3 閉塞部	
5 遺物出土状況 13 6 出土遺物 14 第 2節 2号墳 17 17 1 墳 丘 17 2 石 室 17 2 石 室 17 3 遺物出土状況 17 3 遺物出土状況 17 4 出土遺物 18 第 3節 3号墳 19 1 墳 丘 19 2 遺物出土状況 19 2 遺物出土状況 19 2 遺物出土状況 19 3 出土遺物 19 5 4章 科学分析 64 新 5 節 竹居古墳群から出土したウマ遺体 64 第 5 章 総 括 67 第 1節 竹居 1 ~ 3 号墳の築造年代 67 第 2節 象袱鍔について 69 第 3節 竹居 1 ~ 3 号墳の経造年代 67 第 2節 象袱鍔について 69 第 3節 竹居 1 本 3 号墳の後造づけ 72 参考文献 73 おわりに 74 表 出土遺物観察表 (五製品) 22 第 5 表 出土遺物観察表 (五製品) 22 第 6 表 出土遺物観察表 (石製品) 21 第 6 表 馬歯計測結果 65 図版目次 第 11 1 2 号墳石室区割図 3 第 4 図 調査区配置図 6 第 2 図 竹居古墳群間辺の古墳分布 4 第 5 図 遺跡の位置と周辺の遺跡 10		
6 出土遺物 14 第 2節 2号墳 17 17 1 墳 丘 17 2 石 室 17 2 石 室 17 3 遺物出土状況 17 4 出土遺物 18 第 3節 3号墳 19 1 墳 丘 19 2 遺物出土状況 19 2 遺物出土状況 19 3 出土遺物 19 2 遺物出土状況 19 3 出土遺物 19 5 4章 科学分析 64 57 章 総 括 67 第 1節 竹居古墳群から出土したウマ遺体 64 第 5 章 総 括 67 第 1節 竹居古墳群の位置づけ 7 第 2節 象嵌鍔について 第 3節 竹居古墳群の位置づけ 7 第 2節 象嵌鍔について 7 第 3 節 竹居古墳群の位置づけ 7 第 3 節 竹居古墳群の位置づけ 7 第 3 節 竹居古墳群の位置づけ 7 8 5 8 出土遺物観察表(全属製品) 2 2 第 5 表 出土遺物観察表(全属製品) 2 2 第 5 表 出土遺物観察表(五製品) 2 2 第 5 表 出土遺物観察表(五製品) 2 2 第 6 表 馬歯計測結果 6 5 図	5 遺物出土状況	
第2節 2号墳 17 1 墳 丘 17 2 石 室 17 3 遺物出土状況 17 4 出土遺物 18 第3節 3号墳 19 1 墳 丘 19 2 遺物出土状況 19 3 出土遺物 19 第4章 科学分析 64 第1節 竹居古墳群から出土したウマ遺体 64 第1節 竹居古墳群から出土したウマ遺体 64 第5章 総 括 67 第1節 竹居 1~3号墳の築造年代 67 第2節 象嵌鍔について 69 第3節 竹居古墳群の位置づけ 72 参考文献 73 おわりに 74 表		
1 墳 丘 17 2 石 室 17 3 遺物出土状況 17 4 出土遺物 18 第3節 3号墳 19 1 墳 丘 19 2 遺物出土状況 19 3 出土遺物 19 第4章 科学分析 64 第1節 竹居古墳群から出土したウマ遺体 64 第5章 総 括 67 第1節 竹居1~3号墳の築造年代 67 第2節 象嵌鍔について 69 第3節 竹居古墳群の位置づけ 72 参考文献 73 おわりに 74 本2表 出土遺物観察表(土器) 20 第5表 出土遺物観察表(金属製品) 22 第2表 出土遺物観察表(工器) 20 第5表 出土遺物観察表(玉) 23 第3表 出土遺物観察表(石製品) 21 第6表 馬歯計測結果 65 図版目次 第1図 1・2号墳石室区割図 3 第4図 調査区配置図 6 第2図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第5図 遺跡の位置と周辺の遺跡 10		
2 石 室 17 3 遺物出土状況 18 4 出土遺物 18 第 3節 3号墳 19 1 墳 丘 19 2 遺物出土状況 19 3 出土遺物 19 第 4章 科学分析 64 第 1節 竹居古墳群から出土したウマ遺体 64 第 5章 総 括 67 第 1節 竹居 1 ~ 3 号墳の築造年代 67 第 2節 象嵌鍔について 69 第 3節 竹居古墳群の位置づけ 72 参考文献 73 おわりに 74 麦 目 次 11 第 4 表 出土遺物観察表(金属製品) 22 第 2表 出土遺物観察表(上器) 20 第 5 表 出土遺物観察表(医) 22 第 3表 出土遺物観察表(石製品) 21 第 6 表 馬歯計測結果 65 図版目次 第 6表 馬歯計測結果 65 図版目次 第 4 図 調査区配置図 6 優 2 第 1回 1 · 2 号墳石室区割図 3 第 4 図 調査区配置図 6 優 2 第 2回 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第 5 図 遺跡の位置と周辺の遺跡 10		
3 遺物出土状況 17 4 出土遺物 18 第 3節 3号墳 19 1 墳 丘 19 2 遺物出土状況 19 3 出土遺物 19 第 4章 科学分析 64 第 1節 竹居古墳群から出土したウマ遺体 64 第 5章 総 括 67 第 1節 竹居 1 ~ 3 号墳の築造年代 67 第 2節 象嵌鍔について 69 第 3節 竹居古墳群の位置づけ 72 参考文献 73 おわりに 74 麦 目 次 11 第 4表 出土遺物観察表(金属製品) 22 第 2表 出土遺物観察表(土器) 20 第 5表 出土遺物観察表(玉) 23 第 3表 出土遺物観察表(石製品) 21 第 6表 馬歯計測結果 65 図版目次 第 1図 1 · 2 号墳石室区割図 3 第 4 図 調査区配置図 6 第 2図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第 5 図 遺跡の位置と周辺の遺跡 10	2 石 室	
4 出土遺物 18 第 3節 3号墳 19 1 墳 丘 19 2 遺物出土状況 19 3 出土遺物 19 第 4章 科学分析 64 第 1節 竹居古墳群から出土したウマ遺体 64 第 5章 総 括 67 第 1節 竹居 1 ~ 3 号墳の築造年代 67 第 2節 象嵌鍔について 69 第 3節 竹居古墳群の位置づけ 72 参考文献 73 おわりに 74 麦 目 次 11 第 4表 出土遺物観察表(金属製品) 22 第 2表 出土遺物観察表(土器) 20 第 5表 出土遺物観察表(金属製品) 22 第 3表 出土遺物観察表(石製品) 21 第 6表 馬歯計測結果 65 図版目次 第 1回 1・2 号墳石室区割回 3 第 4回 調査区配置回 6 第 2回 竹居古墳群周辺の吉墳分布 4 第 5回 遺跡の位置と周辺の遺跡 10		
第3節 3号墳 19 1 墳 丘 19 2 遺物出土状況 19 3 出土遺物 19 第4章 科学分析 64 第1節 竹居古墳群から出土したウマ遺体 64 第5章 総 括 67 第1節 竹居1~3号墳の築造年代 67 第2節 象嵌鍔について 69 第3節 竹居古墳群の位置づけ 72 参考文献 73 おわりに 74 第1表 周辺の遺跡一覧 11 第4表 出土遺物観察表(金属製品) 22 第2表 出土遺物観察表(石製品) 20 第5表 出土遺物観察表(医属製品) 22 第3表 出土遺物観察表(石製品) 21 第6表 馬歯計測結果 65 図版目次 第1図 1・2号墳石室区割図 3 第4図 調査区配置図 6 第2図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第5図 遺跡の位置と周辺の遺跡 10		
1 墳 丘 19 2 遺物出土状況 19 3 出土遺物 19 第 4章 科学分析 64 第 1節 竹居古墳群から出土したウマ遺体 64 第 5章 総 括 67 第 1節 竹居 1 ~ 3 号墳の築造年代 67 第 2節 象嵌鍔について 69 第 3節 竹居古墳群の位置づけ 72 参考文献 73 おわりに 74 基 目 次 第 4表 出土遺物観察表(金属製品) 22 第 2表 出土遺物観察表(土器) 20 第 5表 出土遺物観察表(医属製品) 22 第 3表 出土遺物観察表(石製品) 21 第 6表 馬歯計測結果 65 図版目次 第 1図 1 · 2 号墳石室区割図 3 第 4図 調査区配置図 6 第 2図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第 5図 遺跡の位置と周辺の遺跡 10	第3節 3号墳	
2 遺物出土状況 19 3 出土遺物 19 第4章 科学分析 64 第1節 竹居古墳群から出土したウマ遺体 64 第5章 総括 67 第1節 竹居1~3号墳の築造年代 67 第2節 象嵌鍔について 69 第3節 竹居古墳群の位置づけ 72 参考文献 73 おわりに 74 本 11 第4表 出土遺物観察表(金属製品) 22 第2素 出土遺物観察表(石製品) 20 第5表 出土遺物観察表(金属製品) 22 第3表 出土遺物観察表(石製品) 21 第6表 馬歯計測結果 65 図版目次 第1図 1・2号墳石室区割図 3 第4図 調査区配置図 6 第2図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第5図 遺跡の位置と周辺の遺跡 10		
3 出土遺物 19 第4章 科学分析 64 第1節 竹居古墳群から出土したウマ遺体 64 第5章 総 括 67 第1節 竹居1~3号墳の築造年代 67 第2節 象嵌鍔について 69 第3節 竹居古墳群の位置づけ 72 参考文献 73 おわりに 74 第1表 周辺の遺跡一覧 11 第4表 出土遺物観察表(金属製品) 22 第2表 出土遺物観察表(土器) 20 第5表 出土遺物観察表(玉) 23 第3表 出土遺物観察表(石製品) 21 第6表 馬歯計測結果 65 図版目次 第1図 1・2号墳石室区割図 3 第4図 調査区配置図 6 第2図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第5図 遺跡の位置と周辺の遺跡 10		
第4章 科学分析 64 第1節 竹居古墳群から出土したウマ遺体 64 第5章 総 括 67 第1節 竹居1~3号墳の築造年代 67 第2節 象嵌鍔について 69 第3節 竹居古墳群の位置づけ 72 参考文献 73 おわりに 74 麦目 次 11 第4表 出土遺物観察表(金属製品) 22 第2表 出土遺物観察表(土器) 20 第5表 出土遺物観察表(玉) 23 第3表 出土遺物観察表(石製品) 21 第6表 馬歯計測結果 65 図版目次 第1図 1・2号墳石室区割図 3 第4図 調査区配置図 6 第2図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第5図 遺跡の位置と周辺の遺跡 10	3 出土遺物	
第5章 総 括 67 第1節 竹居1~3号墳の築造年代 67 第2節 象嵌鍔について 69 第3節 竹居古墳群の位置づけ 72 参考文献 73 おわりに 74 表 目 次 第1表 周辺の遺跡一覧 11 第4表 出土遺物観察表 (金属製品) 22 第2表 出土遺物観察表 (土器) 20 第5表 出土遺物観察表 (玉) 23 第3表 出土遺物観察表 (石製品) 21 第6表 馬歯計測結果 65 図版目次 第1図 1・2号墳石室区割図 3 第4図 調査区配置図 6 第2図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第5図 遺跡の位置と周辺の遺跡 10	第4章 科学分析	
第1節 竹居1~3号墳の築造年代 67 第2節 象嵌鍔について 69 第3節 竹居古墳群の位置づけ 72 参考文献 73 おわりに 74 表 目 次 74 まわりに 74 表 日 次 75 表 出土遺物観察表 (金属製品) 22 第2表 出土遺物観察表 (土器) 20 第5表 出土遺物観察表 (玉) 23 第3表 出土遺物観察表 (石製品) 21 第6表 馬歯計測結果 65 図版目次 第1図 1・2号墳石室区割図 3 第4図 調査区配置図 6 第2図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第5図 遺跡の位置と周辺の遺跡 10	第1節 竹居古墳群から出土したウマ遺体 …	64
第1節 竹居1~3号墳の築造年代 67 第2節 象嵌鍔について 69 第3節 竹居古墳群の位置づけ 72 参考文献 73 おわりに 74 表 目 次 74 まわりに 74 表 日 次 75 表 出土遺物観察表 (金属製品) 22 第2表 出土遺物観察表 (土器) 20 第5表 出土遺物観察表 (玉) 23 第3表 出土遺物観察表 (石製品) 21 第6表 馬歯計測結果 65 図版目次 第1図 1・2号墳石室区割図 3 第4図 調査区配置図 6 第2図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第5図 遺跡の位置と周辺の遺跡 10	第5章 総 括	67
第2節 象嵌鍔について 69 第3節 竹居古墳群の位置づけ 72 参考文献 73 おわりに 74 表 目 次 11 第4表 出土遺物観察表 (金属製品) 22 第2表 出土遺物観察表 (土器) 20 第5表 出土遺物観察表 (玉) 23 第3表 出土遺物観察表 (石製品) 21 第6表 馬歯計測結果 65 図版目次 第1図 1・2号墳石室区割図 3 第4図 調査区配置図 6 第2図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第5図 遺跡の位置と周辺の遺跡 10		
第3節 竹居古墳群の位置づけ 72 参考文献 73 おわりに 74 表 目 次 (本) 第1表 周辺の遺跡一覧 11 第4表 出土遺物観察表 (金属製品) 22 第2表 出土遺物観察表 (土器) 20 第5表 出土遺物観察表 (玉) 23 第3表 出土遺物観察表 (石製品) 21 第6表 馬歯計測結果 65 図版目次 第1図 1・2号墳石室区割図 3 第4図 調査区配置図 6 第2図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第5図 遺跡の位置と周辺の遺跡 10		
参考文献 73 おわりに 表 目 次 第1表 周辺の遺跡一覧 11 第4表 出土遺物観察表(金属製品) 22 第2表 出土遺物観察表(土器) 20 第5表 出土遺物観察表(玉) 23 第3表 出土遺物観察表(石製品) 21 第6表 馬歯計測結果 65 図版目次 第1図 1・2号墳石室区割図 3 第4図 調査区配置図 6 第2図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第5図 遺跡の位置と周辺の遺跡 10		
表 目 次 第1表 周辺の遺跡一覧 11 第4表 出土遺物観察表 (金属製品) 22 第2表 出土遺物観察表 (土器) 20 第5表 出土遺物観察表 (玉) 23 第3表 出土遺物観察表 (石製品) 21 第6表 馬歯計測結果 65 図版目次 第1図 1・2号墳石室区割図 3 第4図 調査区配置図 6 第2図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第5図 遺跡の位置と周辺の遺跡 10		
第1表 周辺の遺跡一覧 11 第4表 出土遺物観察表 (金属製品) 22 第2表 出土遺物観察表 (土器) 20 第5表 出土遺物観察表 (玉) 23 第3表 出土遺物観察表 (石製品) 21 第6表 馬歯計測結果 65 図版目次 3 第4図 調査区配置図 6 第2図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第5図 遺跡の位置と周辺の遺跡 10		
第1表 周辺の遺跡一覧 11 第4表 出土遺物観察表 (金属製品) 22 第2表 出土遺物観察表 (土器) 20 第5表 出土遺物観察表 (玉) 23 第3表 出土遺物観察表 (石製品) 21 第6表 馬歯計測結果 65 図版目次 3 第4図 調査区配置図 6 第2図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第5図 遺跡の位置と周辺の遺跡 10		
第1表 周辺の遺跡一覧 11 第4表 出土遺物観察表 (金属製品) 22 第2表 出土遺物観察表 (土器) 20 第5表 出土遺物観察表 (玉) 23 第3表 出土遺物観察表 (石製品) 21 第6表 馬歯計測結果 65 図版目次 3 第4図 調査区配置図 6 第2図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第5図 遺跡の位置と周辺の遺跡 10	表	目 冰
第2表 出土遺物観察表 (土器) 20 第5表 出土遺物観察表 (玉) 23 第3表 出土遺物観察表 (石製品) 21 第6表 馬歯計測結果 65 図版目次 第1図 1・2号墳石室区割図 3 第4図 調査区配置図 6 第2図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第5図 遺跡の位置と周辺の遺跡 10		
第3表 出土遺物観察表 (石製品) 21 第6表 馬歯計測結果 65 図版目次 第1図 1・2号墳石室区割図 3 第4図 調査区配置図 6 第2図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第5図 遺跡の位置と周辺の遺跡 10		
図版目次 第1図 1・2号墳石室区割図 3 第4図 調査区配置図 6 第2図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第5図 遺跡の位置と周辺の遺跡 10		
第1図 1・2号墳石室区割図 3 第4図 調査区配置図 6 第2図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第5図 遺跡の位置と周辺の遺跡 10	第3表 出土遺物観祭表(石製品)	21 第 6 表 馬歯計測結果 65
第1図 1・2号墳石室区割図 3 第4図 調査区配置図 6 第2図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第5図 遺跡の位置と周辺の遺跡 10	図	版目次
第2図 竹居古墳群周辺の古墳分布 4 第5図 遺跡の位置と周辺の遺跡 … 10		
	第3図 標準土層 ····································	

第7図	1号墳墳丘・周溝セクション図 31・32	第24図	3号墳遺物出土状況	52
第8図	1号墳前庭部 33	第25図	出土遺物 (1)	53
第9図	1号墳閉塞石 34	第26図	出土遺物 (2)	54
第10図	1号墳閉塞石断面図 35	第27図	出土遺物 (3)	55
第11図	1号墳掘り方 36	第28図	出土遺物 (4)	56
第12図	1号墳石室展開図 37·38	第29図	出土遺物 (5)	57
第13図	1号墳前庭部遺物出土状況(1) … 39	第30図	出土遺物 (6)	58
第14図	1号墳前庭部遺物出土状況(2) 40	第31図	出土遺物 (7)	59
第15図	1号墳主体部遺物出土状況(1) … 41・42	第32図	出土遺物 (8)	60
第16図	1号墳主体部遺物出土状況(2) … 43・44	第33図	出土遺物 (9)	61
第17図	2号墳平面図 … 45	第34図	出土遺物 (10)	62
第18図	2号墳礫床 46	第35図	出土遺物 (11)	63
第19図	2号墳石室展開図 47	第36図	ウマの歯冠長・歯冠高の比較	65
第20図	2号墳遺物出土状況(1) … 48	第37図	ウマ右下顎骨咬合面(上)と頬側面(下)	66
第21図	2号墳遺物出土状況(2) … 49	第38図	竹居 1 号墳出土須恵器分類表	68
第22図	2号墳掘り方 50	第39図	竹居 1 号墳出土象嵌鍔類例集成図	70
第23図	3号墳平面図 51			
	写真図	版目	次	
図版 1	1.1号墳モザイク写真		3.1号墳敷石除去状況 4.1号墳掘り方	
図版2	1.1号墳石室全景 2.1号墳石室		5.1号墳出土人骨保存処理状況	
図版3	1.1号墳調査開始前		6.1号墳調査風景(1) 7.1号墳調査風景	
	2.1号墳調査開始前(除草後)		8. 竹居古墳群遠景	
	3.1号墳奥壁 4.1号墳右側壁	図版8	1.2号墳モザイク写真	
	5.1号墳左側壁 6.1号墳閉塞石	図版 9	1.2号墳礫床検出状況 2.2号墳完掘	
	7.1号墳閉塞石内側 8.1号墳前庭部	図版10	1.2号墳調査開始前	
図版 4	1.1号墳右側壁		2.2号墳調査開始前(除草後)	
	2.1号墳前庭部石列(上層)		3.2号墳閉塞石除去状況	
	3.1号墳前庭部礫検出状況(1)		4.2号墳遺物出土状況(1)	
	4.1号墳前庭部礫検出状況(2)		5.2号墳遺物出土状況(2)	
	5.1号墳第1次閉塞石内側		6.2号墳遺物出土状況(3)	
	6.1号墳第1次閉塞石基底部		7.2号墳遺物出土状況(4)	
	7.1号墳遺物出土状況(1)		8.2号墳遺物出土状況(5)	
	8.1号墳遺物出土状況(2)	図版11	1.2号墳遺物出土状況(6)	
図版5	1.1号墳遺物出土状況(3)		2.2号墳遺物出土状況(7)	
	2.1号墳遺物出土状況(4)		3.2号墳遺物出土状況(8)	
	3.1号墳遺物出土状況(5)		4.2号墳遺物出土状況(9)	
	4.1号墳人骨検出状況(1)		5.2号墳遺物出土状況(10)	
	5.1号墳人骨検出状況(2)		6.2号墳床石除去状況	
	6.1号墳人骨・馬の歯検出状況		7.2号墳掘り方 8.2号墳調査風景	
	7.1号墳第2次閉塞石下遺物出土状況(1)	図版12		
	8.1号墳第2次閉塞石下遺物出土状況(2)		3.3号墳調査開始前(除草後)	
図版 6	1.1号墳第2次閉塞石下遺物出土状況(3)		4.3号墳完掘 5.3号墳墳丘セクション	
	2.1号墳第2次閉塞石下遺物出土状況(4)	図版13		
	3.1号墳第2次閉塞石下人骨検出状況	図版14	出土遺物(2)	
	4.1号墳前庭部遺物出土状況(1)		出土遺物(3)	
	5.1号墳前庭部遺物出土状況(2)		出土遺物(4)	
	6.1号墳前庭部遺物出土状況(3)	図版17	出土遺物(5)	
	7.1号墳西側墳丘 8.1号墳西側周溝		出土遺物 (6)	
図版7			出土遺物 (7)	

第1章 序 説

第1節 調査に至る経緯

山梨県では、農業効率の向上を図るため、ほ場整備事業を実施してきた。笛吹市八代町竹居地区は、モモ、ブドウなどの果樹栽培が盛んであるが、農業用道路などが未整備となっており、中山間地域総合整備事業八代地区竹居2工区ほ場整備工事として事業を進めることとなった。

果樹栽培地における圃場整備事業は、立木があるため大きな改変は不可能であり、農道の建設・拡幅、土地境界の直線化などが計画された。

工事対象地域は、古墳時代後期の古墳が点在することが知られており、笛吹市の遺跡台帳にも竹居 $1\sim9$ 号墳、蝙蝠塚古墳、おこり塚古墳などが登録されている。しかし、これらは分布調査によるものであり、これまでほとんど調査も行われておらず、古墳の分布や内容など不明な部分が多かった。

この計画を受け笛吹市教育委員会では、事業の実施に先立って、平成24年11月19日から12月7日にかけて古墳が存在しそうな土地区画を中心に試掘調査を実施した。試掘調査の結果、古墳と思われる痕跡数箇所と土師器・須恵器などが発見されたことから、事業実施に先立って発掘調査が必要であると判断された。上記事業計画に従い、農道建設、土地境界の改変によって影響を受ける古墳を調査の対象とした。

調査の対象となったのは、土地境界の直線化によって墳丘ならびに主体部の一部が削平を受ける1号墳、墳丘裾と思われる部分が削平される3号墳、農道建設によって削平される2号墳の計3基である。ただし、古墳名は、笛吹市教育委員会の遺跡台帳登録の遺跡名を使用したものではなく、今回の調査によって新たに命名されたものである。

平成27年10月、笛吹市より発掘調査事業の説明があり、入札の結果、公益財団法人山梨文化財研究所が調査を行うこととなった。笛吹市と公益財団法人山梨文化財研究所の間で委託契約を締結し、発掘調査を実施した。

調査体制

調 査 主 体 公益財団法人山梨文化財研究所

調 查 担 当 者 宫澤公雄(公益財団法人山梨文化財研究所)

発掘調査参加者 長田秋文、河西町男、近山辰男、平賀早苗、深沢修、望月一正

整理作業参加者 池田美樹、岩崎満佐子、川口美和、櫛原ゆかり、斉藤ひろみ、佐野眞雪、須田泰美、田中真紀美、中川美千子、中川美治、中島一成、原野ゆかり、平賀早苗、藤原五月、 横田杏子

事務局 林紀子、柳本千恵子(公益財団法人山梨文化財研究所)

第2節 調査経過

発掘調査事業受託後、平成26年10月7日に発掘調査届を提出、発掘調査は平成26年11月6日から平成27年1月30日まで調査を実施した。発掘調査終了後、2月4日に埋蔵物発見届を笛吹警察署宛に、埋蔵文化財保管証を笛吹市教育委員会宛に提出して発掘調査に関わる諸手続きを完了した。

発掘調査に当たっては、農道建設の工事日程から、2号墳の調査を優先して行うよう笛吹市教育委員会より指示があり、2号墳から順次調査を実施した。

調査日誌

平成26年

11月4日 基準点設置作業

- 11月6日 機材搬入、排土置き場整地作業、現況写真撮影、1・2号墳除草作業
- 11月7日 1・2号墳除草後写真撮影、2号墳調査開始、重機による表土掘削
- 11月8日 2号墳周溝検出作業、1号墳石垣撤去作業、
- 11月10日 1号墳重機による表土掘削
- 11月12日 墳丘清掃作業、主体部不明なためトレンチ設定
- 11月13日 2号墳横穴式石室基底部石材確認、石室割付、石室内調査、丸玉、ガラス小玉出土
- 11月14日 1号墳墳丘奥壁側表土掘削、主体部検出作業
- 11月17日 2号墳石室内調查、金環、鉄斧出土
- 11月19日 2号墳遺物出土状況写真撮影、3号墳調査開始前写真撮影・除草作業
- 11月20日 2号墳礫床検出状況写真撮影・エレベーション図作成、3号墳除草後写真撮影・石垣除去
- 11月21日 2号墳礫床除去、3号墳石垣除去
- 11月25日 2号墳礫床除去、金環・丸玉・ガラス小玉出土
- 11月27日 2号墳遺物出土状況写真撮影・周溝調査、1号墳調査区拡張
- 11月28日 2号墳周溝セクション写真撮影
- 12月1日 1号墳石室内調査、2号墳ガラス小玉集中区調査
- 12月2日 2号墳ガラス小玉取り上げ、3号墳掘り下げ
- 12月4日 1号墳石室内調査、2・3号墳写真測量
- 12月6日 1号墳前庭部遺物出土状況写真撮影、2号墳敷石除去
- 12月8日 1号墳石室内調査、2号墳掘り方調査
- 12月9日 1号墳割り付け
- 12月12日 1号墳人骨出土状況写真撮影、2号墳掘り方調査、3号墳墳丘断ち割り
- 12月13日 1号墳入口部調査区拡張、2号墳壁基底部立面図作成
- 12月17日 1号墳石室用材崩落防止措置、2号墳石室用材解体、掘り方掘り下げ
- 12月18日 1号墳前庭部土器出土状況写真撮影、2号墳掘り方写真測量
- 12月19日 1号墳前庭部遺物取上げ、石室内調査、馬の歯出土
- 12月22日 1号墳石室内・前庭部遺物出土状況写真撮撮影
- 12月26日 1号墳前庭部遺物出土状況写真撮影
- 12月27日 1号墳前庭部エレベーション図作成

平成27年

- 1月5日 1号墳石室内遺物検出作業
- 1月7日 1号墳石室内遺物検出作業
- 1月13日 1号墳石室内清掃作業、周溝調査
- 1月14日 1号墳写真測量
- 1月16日 除雪作業
- 1月19日 1号墳第2次閉塞石下調査
- 1月20日 1号墳墳丘断ち割り作業
- 1月21日 1号墳墳丘盛土除去作業、閉塞石実測作業
- 1月24日 1号墳墳丘断面写真撮影·図面作成、八窓鍔·佩砥出土
- 1月25日 1号墳閉塞石図化作業
- 1月26日 1号墳右側壁解体作業、石室エレベーション図作成作業
- 1月27日 1号墳右側壁解体作業
- 1月28日 1号墳奥壁解体作業、掘り方写真撮影・写真測量

- 1月29日 事務所撤収、調査機材撤収作業
- 1月30日 発掘調査器材片付け

第3節 調查方法

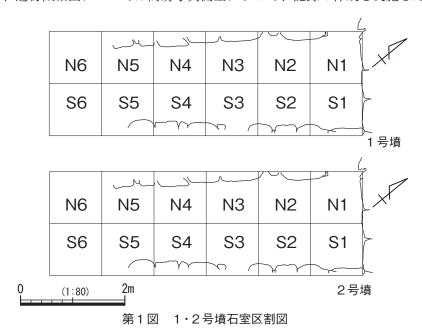
ほ場整備事業によって影響を受ける3基の古墳の調査を実施することとなったが、古墳の現況写真撮影を 行うため、除草前後の現況をポールによる写真撮影を実施した。その後、重機による表土剥ぎおよび畑境に 積まれた石垣の解体作業を行い、墳丘、周溝の確認作業、石室内の調査を行うこととした。工事が石室内に 及ぶ場合は、石室内全体の調査を実施し、石室の解体、掘り方の調査を行うこととし、工事の及ばない石室 用材については、現地で埋設保存することが笛吹市教育委員会より指示されていた。

そのため、工事対象地内となる石室用材については、石室内の調査が終了した段階で、記録図化と並行しながら重機により石室用材の解体を実施した。石室堀り方については、平面図ならびにエレベーション図の作成を行った。

調査対象となった 3基の古墳を被うように国土座標にあわせて南北方向をX軸、東西方向をY軸とするグリッドを設定し、南西隅を基点とした、世界測地系平面直角座標第 \mathbb{W} 系の X=-43850.000、Y=13770.000(北緯 35 度 36 分 16 秒、東経 138 度 39 分 07 秒)を基点(X=0、Y=0)とした。

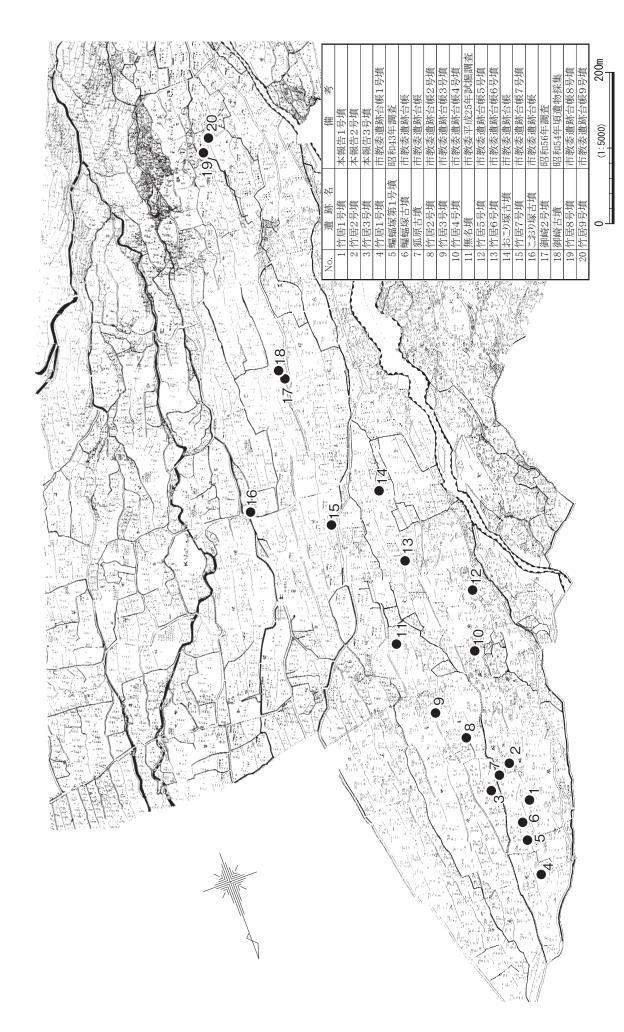
出土した遺物は、原位置が明らかなものは、写真測量によって微細図を作成し、光波測量機器を用いて個別に取り上げを行った。また、石室内は国家座標によって設定したグリッドとは別に、石室主軸ラインを基準として1mのメッシュで区割りを行い、区画毎に床面覆土の回収を行い、土壌洗浄によって微細遺物の回収に努めた(第3図)。

遺構図の作成は、写真測量を基本としたが、セクション・エレベーション図などの一部図面は手作業による実測などで補完し、遺物微細図については簡易写真測量によって、記録の作成を実施した。



第4節 遺跡概要

笛吹市八代町竹居に所在する竹居古墳群は、浅川によって形成された扇状地扇央部に広く分布する古墳時代後期の群集墳であるが、笛吹市教育委員会の遺跡台帳においても、竹居古墳群の名称は使用しておらず、古墳群としての認識はされてこなかった遺跡である。この点在する後期古墳については、開墾等によって削



平を受けているものがほとんどであり、分布状況も明らかにできず、考古学的な調査もほとんど実施されて いないことから、その実態は不明な部分が多い。

『八代町誌』によれば、竹居地区には15基ほどの古墳があったとされる。そのうちの1基であるおこり塚 は前方後円墳で、周囲に瓢箪形の周溝があったとされる(第2図14)。勾玉、管玉が出土したようであるが、 昭和30年頃全壊したという(八代町1975)。その他については、古墳時代後期の横穴式石室墳だとされるが、 耕作により削平されたものが多く、出土遺物もほとんど知られていない。

笛吹市の遺跡台帳には、竹居地区において 16 基の古墳が登録されているが、その内容は明らかではない。 竹居古墳群の名称は、本調査を契機として命名されたもので、過去に遺跡台帳に登録された遺跡との整合 性については、今後の課題である。

竹居地内で最も下位に位置する蝙蝠塚第1号墳は、昭和43年に八代町誌編さん事業の一環で発掘調査が 実施されている (第2図5)。南西に開口する横穴式石室墳で、石室全長 6.7 m、奥壁幅 2.1 m、入り口幅 1.4 mを測る。墳丘は削平されており、主体部も石室の基底部しか残存していなかった。石室内からは、土師器・ 須恵器、馬具、金環、刀子、北宋銭、かわらけなどが出土している。

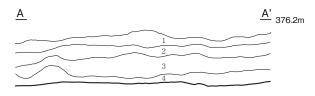
現状では、古墳と認識できる古墳は1基あり、笛吹市の遺跡台帳では竹居4号墳とされている(第2図)。 天井石も残存する。その他は、土地形状や石垣の状態から古墳と推測されるものが数カ所確認できるだけで ある。

第2章第2節でも触れるが、竹居地区の中では上位に位置する御崎古墳は、豪華な飾り馬具を出土してお り、7世紀後半代の築造とされる(第2図18)。竹居古墳群は命名されたばかりでどこまでを範囲とするの か定められていないが、竹居地区の古墳を総称するのであれば、御崎古墳も竹居古墳群のうちの1基といえ る。

今回発掘調査を実施した3基の古墳は、竹居古墳群の中では下位に位置しており、その下位には岡地区が 隣接している。岡地区内においても、浅川右岸沿いに古墳の分布が確認されており、竹居古墳群から分布が 続く状況から、本来一体の群集墳であったことが想定される。

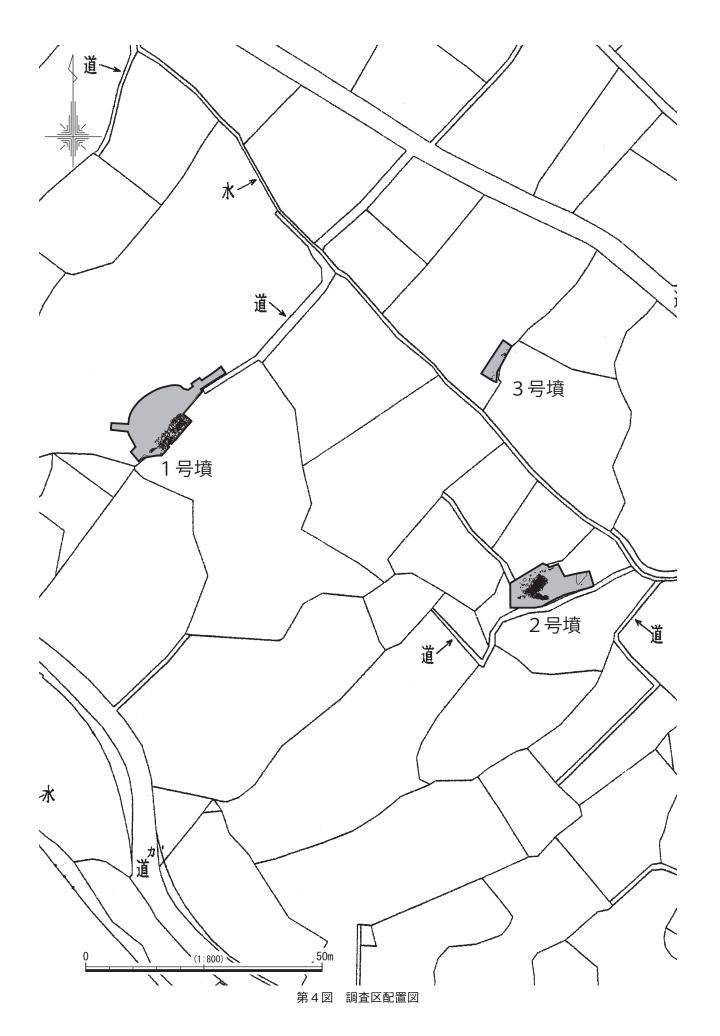
第5節 基本層序

調査区は、浅川扇状地上にあり、南西に向かう緩傾斜面となっている。緩斜面のため、遺構確認面までの 表土層は浅く、耕作土である表土直下が遺構確認面となっている。第1図に示したのは、1号墳墳丘下の土 層堆積である。墳丘盛土下には、墳丘構築時の表土層と思われる黒褐色土層が残存していた。第1層は黒褐 色砂質土層で、旧地表土。第2層は同じく黒褐色砂質土層であるが、王褐色土ブロックを多く含む。第3層 は極暗褐色砂質土層である。第4層は黒褐色砂質土層で、周溝などの遺構確認面である。



- 黒褐色砂質土層(5YR2/1) 黒色粒子と褐色粒子、および赤褐色粒子を多く含む。0.5cm大の礫を少量含む。(旧表土層)
- 黒褐色砂質土層(7.5YR2/2) 黄褐色土ブロックを多く、カーボンを僅かに含む。しまり強い。
- 極暗褐色砂質土層(7.5YR2/3) 0.5cm~1cm大の礫を少量と赤褐色粒子を含む。 黒褐色砂質土層(7.5YR3/2) 3cm大前後の礫を多く、ローム粒を少量含む。

第3図 標準土層



第2章 遺跡の立地と環境

第1節 遺跡の地理的位置

竹居古墳群の所在する山梨県笛吹市は、甲府盆地東部に位置する。

平成16年10月に東八代郡石和町・御坂町・一宮町・八代町・境川村、東山梨郡春日居町が合併して笛吹市として発足。平成18年8月には東八代郡芦川村を編入して現在に至っている。秩父山地鶏冠山西麓に発する東沢と国師ヶ岳南東麓に発する西沢を源流に持つ笛吹川が市域の北側を北東から南西へ流れており、市名の由来ともなっている。市域の多くは、釈迦ヶ岳、黒岳をはじめとして、1,500m級の山々からなる御坂山地の山裾および山地から流れ出たいくつかの河川によって形成された扇状地上に立地する。

笛吹市八代町は、笛吹川左岸に位置し、北は笛吹川を挟んで旧石和町、東は天川を挟んで旧八代町、西は 浅川とその支流竜安寺川を境として旧境川村、南は鳥坂峠を境として旧芦川村と接している。旧町域の南東 は御坂山塊に属し、北西部はこの山塊の神座山から流れ出した浅川によって形成された扇状地上に広がり、 町の主要部を成している。この浅川扇状地は、肥沃な農地を形成し、笛吹川沿岸および先端部は水田、扇央 部は桑園として利用されてきたが、近年は、桃・ぶどうなどの果樹栽培が盛んに行われている。

竹居古墳群の立地する八代町竹居は、浅川によって形成された扇状地の扇央部付近に位置している。

第2節 遺跡の歴史的環境

本遺跡の所在する笛吹市八代町周辺は、山梨県内においても遺跡が多い地域として知られており、260 カ 所を超える遺跡が確認されている(八代町教育委員会 1990)。

町域南側に展開する御坂山麓は、山梨県内でも有数の縄文時代の遺跡が濃密に分布しており、縄文時代前期後半を主体とする花鳥山遺跡は著名であり、大正時代からその名は知られていた。昭和29・30年には国学院大学によって発掘調査が実施され、3軒の竪穴住居と多量の遺物を発見している。また、昭和62・63年度に実施された調査では、幅3m、長さ270mほどの調査であったが、20軒余りの竪穴住居とともに多量の遺物が発見された。住居内からは栽培種と考えられるエゴマをはじめ、球根類やドングリ、シカ・イノシシなどの獣骨、魚骨なども検出されている(第5図187)。

弥生時代になると、扇状地先端部に多くの遺跡が知られるようになる。身洗沢遺跡は、低湿地性の後期の遺跡で、弥生時代の水田跡が山梨県下において初めて検出され、農具などの多くの木製品や種子なども発見された。発見されたクワ、エブリ、膝柄クワの柄、又クワなどの農具は、県指定の文化財となっている。その他、向田遺跡、屋敷内遺跡、沢の木遺跡などの弥生時代遺跡が知られる。

八代地域では、63 基の古墳が確認されている(八代町教育委員会 1990)。本地域は、中道地域とともに唯一、古墳時代前期より古墳が造営された地域でもある。浅川左岸に位置する丘陵は、三珠地域から連なる曽根丘陵の東端にあたり、多くの遺跡が知られている。

岡銚子塚古墳は、本地域において最初に築造された前方後円墳である。全長92mを測り、後円部上に粘土槨の主体部をもつ。宝暦13年に発掘され、遺物は現存しないが鼉龍鏡、仿製二神二獣鏡など3面の青銅鏡が出土した(同268)。中道地域以外で最初に築造された古墳であり、墳形、埴輪、副葬品などから、甲斐銚子塚古墳との関係が注目されている。

米倉の通称竜安寺には、一辺 52 mを測る竜塚古墳が立地する(同 283)。大形の方墳で、これまで築造時期が不明であったが、発掘調査によって墳頂から土師器が出土し、5世紀前半の築造であることが明らかとなり、八代地域では岡銚子塚古墳に続く首長墓といえる。この古墳が、墳形として方墳を採用したのかは、明らかではない。

岡銚子塚古墳の前方部側に杯塚古墳がある。径 23 mの円墳で、竪穴式石室を有するとされ、5世紀中頃

に築造されたものである(同267)。

これ以降、後期後半に至るまで丘陵上に古墳が造られることはなく、平坦地に古墳がみられるようになる。 狐塚古墳は、全長 52 mほどの前方部が縮小した前方後円墳で、墳丘には埴輪を巡らす。後円部上の主体部 は不明であるが、昭和初期に前方部上に土俵を造る際、鉄剣、鉄刀、鉄鉾などが出土しており、5世紀後半 代の築造だとされる(同 154)。狐塚古墳に続く古墳としては、団栗塚古墳が知られる。前方後円墳とされるが、 現在は後円部だけが残存している。全長 30 mほどの帆立貝形の古墳と考えられ、後円部上に竪穴式石室と 組合せ石棺が並列している(同 139)。

荘塚古墳は偶然発見され、土師器、須恵器、直刀、金環、勾玉、管玉などが出土し、須恵器は MT15~ TK10 に比定されるもので、本県では初現期の横穴式石室墳と考えられている。荘塚古墳の東側には石室全長 10.1 mの左片袖型横穴式石室を有する地蔵塚古墳がある(同 246)。副葬品は知られていないが、6世紀末から7世紀初頭に比定できる甲府盆地でも有数の有力墳である。

古柳塚古墳からは、銀象嵌円頭大刀柄頭、金銅製透彫心葉形鏡板付轡、壺鐙など豪華な副葬品が出土している(同 255)。

竹居 $1 \sim 3$ 号墳周辺にも古墳が点在したことが知られており、竹居古墳群のおおよその範囲は第5図1に示した。しかし、分布範囲の把握もできておらず、どの程度の広がりをもつのかも明らかにできない無いため、あくまでも暫定的なものである。

御崎古墳は、長さ8mほどの横穴式石室墳をもち、農作業によって須恵器、鉄釧、鉄鏃、馬具、丸玉、ガラス小玉などが出土した(同199)。なかでも、馬具類は金銅製で毛彫りが施される「毛彫馬具」で希少なものである。7世紀後半に位置づけられ、位置的には本古墳群に隣接しており、同一の古墳群とみることもできる。

本地域をはじめとして、天川、金川周辺には多くの後期古墳群が群集している。天川右岸には下野原古墳群があり、蝙蝠塚古墳(同81)、弾誓窟古墳(同109)などが大形墳として知られる。

金川扇状地扇端に位置する錦生古墳群は、大小の古墳からなるが、その中核を成すのは全長 17.54 mの大形横穴式石室を主体部にもつ姥塚古墳である(同 59)。姥塚古墳は、直径 40 mほどを測り、南西に開口する左片袖の横穴式石室墳である。古くから開口していたようで、出土遺物は明らかではないが、石室形態から6世紀後半の築造と考えられている。姥塚古墳に隣接する姥塚遺跡(後畑遺跡)においても、4 基の古墳が調査されている(同 69)。そのうちの2 基は横穴式石室が残存しており後期古墳であるが、石室の痕跡を残さない1 基からは、古式の須恵器高坏が出土しており、5世紀代に遡る低墳丘古墳であると考えられる。同井之上地内からは陶棺が出土している。陶棺は幅1間、長さ2間ほどの礫床の石室から出土しているらしい。山梨県内においては唯一の例となるが、胎土や脚の装着方法から在地のものとされ、その大きさからは火葬骨や小児の埋葬施設と考えられている(小野 1999)。

金川両岸には多くの古墳が分布している。左岸の長田古墳群は、自然堤防上に立地し、金川工業団地建設に先立って平成元年 (1989) 11 月 1 日より発掘調査を開始し、35 基の古墳を調査した (同 76)。すべて円墳で、南西に開口する横穴式石室であった。石室形態は基本的には有袖型と無袖型の二つに大別されるが、主体部のほとんどを地下に構築する半地下式の主体部、T字形石室などもみられ、形態的にはバラエティーに富んでいる。金川周辺に分布する古墳群の中では造墓開始が比較的早く、6世紀中頃より造墓活動を開始している。

長田古墳群の下位に位置する四ツ塚古墳群は、昭和56年に中央自動車道開設に先立って22基が、平成7年に「山梨県森林公園金川の森」建設に先立って5基の後期古墳が発掘調査されている(同44)。直径15mから16mほどの円墳が多く、川原石乱石積みの横穴式石室が主体を占める。副葬品には、土師器・須恵器のほか、勾玉・管玉・切子玉、円頭把頭、八窓鍔、象嵌柄縁金具、鉄鏃、鎌、刀子などが知られる。6世紀末頃から7世紀後半まで造墓を行っていたものと思われる。

金川右岸の国分築地古墳群は、110基ほどの古墳が知られる大規模な群集墳である。分布にいくつかのま

とまりがみられ、下流域から国分築地・国分南森・塩田木地蔵・塩田大新田の支群に分けることができる。 調査例はわずかであるが、主体部は、自然石の乱石積みで、ほとんどが横穴式石室を有し、無袖式と両袖式 のプランが知られる。

国分築地古墳群に隣接する楽音寺古墳群は、塩田古墳群とも呼ばれ、稲荷塚古墳、狐塚古墳、蝙蝠塚古墳、 八幡塚古墳が知られる。

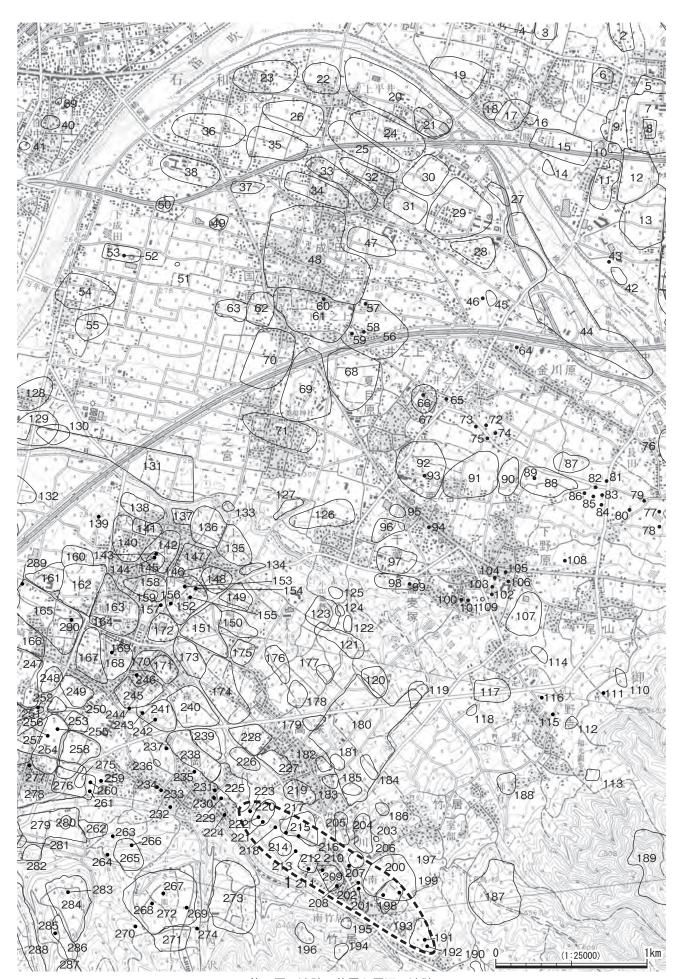
経塚古墳は、金川右岸に位置する。金川の森公園建設に先立って復元整備を目的として発掘調査が実施された(同43)。主体部は自然石乱石積みの両袖式横穴式石室で胴張りの玄室長3.0 m、羨道部長3.6 mの小形墳である。出土遺物は鉄斧が知られるのみであるが、石室プランなどから7世紀前半に築造れたものだと考えられている。墳形は八角形墳とされるが、問題も多い。

浅川扇状地上には古墳時代の集落遺跡も数多く知られている。堀ノ内遺跡(同 163)、五里原遺跡、三光神遺跡、下長崎遺跡(同 247)、保ノ下遺跡(同 162)などが、浅川扇状地扇端部から扇央部にかけて広く分布している。

浅川扇状地上には、奈良時代以降の遺跡も多数知られ、堀之内遺跡、八王子遺跡(同 172)、金地蔵遺跡(同 151)などがある。平安時代には、遺跡数も増加し、八代地域は「和名類聚抄」記載の八代、長江の郷にあたるものと考えられている。甲斐四郡のうちの一つである八代郡という郡名もこの八代にちなんでいることから、郡家の所在地であったものと考えられている。

竹居古墳群の東側を甲斐と駿河を結ぶ若彦路が通っている。若彦路は、平安時代末の『吾妻鏡』を初見として、中世以降には軍事的に重要な役割を果たしてきた。古道が通る竹居地区にはヤマトタケルにちなんだ口碑や伝承が遺されている。岡銚子塚古墳に代表される古墳時代以降の八代地域の発展を考慮すれば、この古道が古墳時代当初より機能していたことが想定される。

以上のように、本地域は古墳時代前期以降、後の八代郡の中心地として繁栄を続けてきた地域といえ、古 代甲斐国において本地域が果たした役割は大きかったものと考えられる。



第5図 遺跡の位置と周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡一覧

2 金後 2 金後 2 金後 3 後 4 坪	并条里達跡 前雨用遺跡 前雨用遺跡 前面原理跡 前原理跡 前原理跡 造跡 大潤遺跡 大潤遺跡 大潤遺跡 大潤遺跡 大潤遺跡 一面 一面 一面 一面 一面 一面 一面 一面 一面 一面	古墳 編文 奈良·平安 古墳 奈良·平安 古墳 奈良·平安 古奈良·平安 奈良·平安 奈生·奈良·平安 古秀生·李庆 赤生·东县 赤生·东县 赤生·东县 赤生·东县 赤生·东县 赤生·东县 赤生·东县 赤生·西墳 赤生·西墳 赤生 古墳 赤生 古墳 赤中世 近世 三古墳 一世 三古墳 三古墳 三中世 三世 三古墳 三中世 三世 三世 三世 三世 三世 三世 三世 三世 三	101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 117 119 120 121 122 123 124 125	稲荷塚古墳 無名墳 市六古墳 市六古墳 全勢塚古墳 全勢塚古墳 千体遺跡 無名墳	總文 平安 古墳	197 198 199 2000 2011 198 2020 2021 2021 2022 203 204 205 207 208 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218	欠沢遺跡 御竹居・御店遺跡 一番 一番 一	選文 古墳 選文 古墳 選文・ 古墳 選文・平安・ 選文・平安・ 選文・平安・・ 選文・平安・・ 近世 選文・平安・・ 近古墳 こ は 選文・平安・・ 近世 選文・・ は 選文・・ は は は は は は は は は は は は は は は は は は
3 後坪 5 5 5 6 6 8 5 6 6 8 5 7 7 5 5 6 6 8 5 6 8 5 6 8 5 6 8 5 6 8 5 6 8 5 6 8 5 6 8 5 6 8 5 6 8 5 6 8 5 6 8 5 6 8 5 6 8 5 6 8 5 6 8 5 6 8 5 6 8 5 6 8 6 8	田遺跡 井前田立遠跡 市前原建跡 前前原建跡 前前原建跡 並 造跡 大畑遺跡 大畑遺跡 大畑遺跡 大畑遺跡 大畑遺跡 大畑遺跡 大畑遺跡 大畑遺跡 大畑遺跡 大畑遺跡 西田 西田 西田 西上遺跡 西田 西上遺跡 西田 西上遺跡 西路 西上遺跡 西路 西路 西路 西路 西路 西路 西路 西路 西路 西路	古墳 平安 安东良·平安 古	100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 121 122 123 124 125 126 127 127 128 129 120 120 120 120 120 120 120 120	無無方式 墳	古墳 古	198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218	竹居 御崎遺跡 御崎古墳 三光遺跡 無名墳 東名墳 東名墳 連跡 植田木遺跡 植田木遺跡 大保畑遺跡 極悪名墳 大保畑遺跡 無名墳 大保畑遺跡 無名墳 東名墳 東名墳 東名墳 東名墳 東名墳 東名墳 東名墳 東名墳	選文 古墳 通文・平安 通文・平安 建文・平安・中世・近世 建文・平安・・近世 建文・古墳・平安・近世 西墳 建文・古墳・平安・近世 古墳 建文・古墳・平安・近世 古墳 建文・古墳・平安・近世 古墳 建文・平安・中世・近世 は は は は は は は は は は は は は
4 坪筑 6 多字 7 9 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	并条用 建立	奈良·平安 京生· 东京 · 平安 市省· 奈良 · 平安 市省· 东京 · 平安 京县 · 平安 京县 · 平安 京里安 京里安 京里安 京里安 京里安 京里安 京里安 京	101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126	無名墳 市六名墳 伊勢輝塚古墳 千田代遺跡 經報古墳 在名質展古墳 在名質展古墳 時期 原本 斯 東 市 京 中 市 家 東 古 城 時 一 城 時 市 城 時 市 城 時 市 城 時 市 城 時 市 城 時 市 城 時 市 城 時 市 城 時 市 市 城 海 時 市 城 時 市 時 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 き 市 市 市 き 市 き	古墳 西墳 西墳 龍文・平安 古墳 縄文・平安 通文・平安 通文・平安 通文・平安 通文・平安 通文・平安 通文・平安 通文・平安・中世・近世 縄文・奈良・平安・中世・近世 縄文・奈良・平安・中世・近世 縄文・奈良・平安・中世・近世	199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218	御崎古墳 三光名墳 無名有墳 無名有墳 連跡 藤田遺遺跡 藤田遺遺跡 神田 建砂 東名 中間 東名 中間 東名 中間 東名 中間 東名 中間 東名 中間 東名 中間 東名 中間 東名 中間 東本 年間 東本 年間	古墳 通文·平安 縄文·平安・中世·近世 縄文·平安・中世·近世 縄文·平安・近世 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳
6 多	雨田遺跡 前用潭跡 前用潭跡 遠跡 空遺跡 生內遺跡 全田町遺跡 大畑遺跡 会田町遺跡 所田遺跡 田田町遺跡 田田町遺跡 田田町遺跡 田田町遺跡 田田町遺跡 田田町遺跡 田田町遺跡 田遺跡 田田町遺跡 田遺跡 田遺跡 田園 遺跡 田田町遺跡 田園 遺跡 田園 一面 遺跡 田田町 遺跡 田田 田田 田田 田田 田田 田田 田田 田田 田田 西 上遺跡 田田 田田 西 上遺跡 田田 西 上遺跡 田田 西 上遺跡 田田 西 上遺跡 田 田田 西 上遺跡 田 田 田 西 西 上 遺跡 田 西 上 遺跡 田 一 の に し の に し の に し の に の に の に の に の に の	古墳、奈良·平安・中世・近世 弥生、古墳、奈良・平安・中世・近世 弥生、古墳、奈良・平安・中世・近世 奈良・平安・中世・近世 奈良・平安・中世・近世 不良・京良・平安・中世 石子安・中世 平安・近世 奈良・平安・中世 平安・中世 平安・中世 平安・東京・平安・中世 東京・東京・平安・東京・平安・東京・平安・東京・平安・東京・平安・東京・平安・東京・平安・東京・平安・東京・平安・東京・平安・東京・平安・中世 古墳、平安・平安・平安・平安・平安・平安・平安・平安・平安・平安・平安・平安・平安・平	103 104 105 106 107 108 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126	無名墳 伊勢塚古墳 金千年代遺跡 無弾京古墳 田名舊館古墳 田田名舊館古墳 向原塚遺跡 護湖 地遺跡 上坊原遺跡 上坊原塚中遺遺跡 上坊原塚中遺遺跡 八ヶ山山 一下。 一下。 一下。 一下。 一下。 一下。 一下。 一下。 一下。 一下。	古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 北文・平安 北文・平安・中世・近世 北文・奈良・平安・中世・近世 北文・奈良・平安・中世・近世 北文・奈良・平安・中世・近世 北文・奈良・平安・中世・近世	201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218	無名墳 青木田遺跡 後藤田遺跡 植木遺跡 抽木遺跡 無名墳 はこり塚古墳 久保畑遺跡 無名墳 南原遺跡 頼鬼宿墳 南東遠跡 無名墳 東塚道跡 無名墳	古墳 古墳 出資・平安 縄文・平安・中世・近世 縄文・平安・中世・近世 縄文・平安・近世 縄文・平安・近世 建文・古墳・平安・近世 古墳 建文・古墳・平安・近世 古墳 縄文・平安・中世・近世 古墳 縄文・平安・中世・近世 古墳
7 筑筑	前原遺跡 遺跡 遺跡 前面 空遊 遺跡 计型 经重额 电弧 医二甲甲二甲二甲二甲二甲二甲二甲二甲二甲二甲二甲二甲二甲二甲二甲二甲二甲二甲二	弥生: 古墳·奈良・平安・中世·近世 弥奈良・平安・中世·近世 奈良・平安・中世・近世 奈良・平安・中世・近世 東奈良・平安・近世 京京・平安・中世 平安・京・中世 平奈・平安・・中世 平奈・平安・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126	伊勢塚古墳 金條在遺跡 無強力 一大田代遺跡 無強力 一大田代遺跡 無強力 一大田 一大田 一大田 一大田 一大田 一大田 一大田 一大田 一大田 一大田	古墳 古墳 建文・平安 古墳 縄文・平安 古墳 縄文・平安 古墳 縄文・平安 古墳 建文・平安 古墳 縄文・平安 古古墳 縄文・平安 北方墳 縄文・平安 北方墳 縄文・平安 北方墳 縄文・平安 北方墳 縄文・平安・中世・近世 縄文・帝良・平安・中世・近世 縄文・奈良・平安・中世・近世	202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218	無名垣 青春藤遺跡 前田遺跡 徳前田遺跡 柚名墳 電岩の塚古墳 おこり塚古墳 現名墳 電角原遺墳 無名項遺跡 無紹石墳 電場 類本遺墳 場名は 東海原遺墳 場名は 東海原遺墳 場名は 東海原遺墳	古墳 縄文・平安 縄文・平安・中世・近世 縄文・平安・近世 縄文・平安・近世 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 西墳 祖文・平安・近世 古墳 古墳 祖文・平安・中世・近世 古墳 縄文・奈良・平安・中世 縄文・奈良・平安・中世 縄文・平安・中世
8	前原是跡遺跡 立堂水門遺跡 立堂水門遺跡 知倉田町遺跡 田田町遺跡 師前田遺跡 西田遭跡 師田遺跡 西田遺跡 西田遺跡 西田遺跡 西田遺跡 西田遺跡 西田遺跡 西田遺跡 西	弥生、古墳、奈良、平安・中世・近世 不良・平安・中世・近世 不安・中世・近世 不安・中世・近世 不安・中世・近世 不安・平安・中世 古墳、奈良・平安・中世 不安・平世・近世 赤平安・中世・近世 赤平安・平世・近世 赤平安・東安・中世 古墳、春、安安 京皇・平安 古古泉、東安 古古泉、東安 古古泉、東安 古古泉、東安 古古泉、東安 古岩泉、平安 赤田・平安 本田・平安 本田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田	105 106 107 108 109 110 111 111 112 113 114 115 116 117 112 121 122 123 124 125 126	金等塚古墳 年体技造跡 無名籍古跡 無名籍古跡 原塚宣跡 東京上東京 東京上東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京	古墳 古墳 酒文・平安 古墳 酒文・平安 古墳 元	203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218	青木田遺跡 後藤田遺跡 柚木遺跡 柚木遺跡 無こり塚古墳 久保畑遺跡 無名墳 無名墳 中原名墳 蝙蝠名墳 電車の 電場の 電場の 乗乗名墳 無編名墳 電場の 乗乗名墳	縄文・平安 縄文・平安・中世・近世 縄文・平安・中世・近世 縄文・平安・近世 古墳 地文・古墳・平安・近世 古墳 進文・平安・近世 古墳 縄文・平安・中世・近世 古墳 縄文・奈良・平安・中世 縄文・平安・中世・近世 古墳
9 橋鷲2 11 北 校 12 校 13 矢西 16 滿東西 16 滿東西 17 東西 18 西 19 南 19 南 20 22 東 22 東 22 東 22 天 25 赤 26 下 27 花 27 花 28 茶 29 3 30 卿 31 雪 32 中 19 3 31 3 32 中 19 3 31 3 32 日 33 日 34 一 35 日 36 出 37 日 37 日 37 日 38 日 38 日 38 日 38 日 38 日 38 日 38 日 38	立遺跡 堂太内遺跡 造進內遺跡 倉町町遺跡 倉町町遺跡 南田田野造跡 市田田遺跡 西田遺跡 西田遺跡 連進 一世 一世 一世 一世 一世 一世 一世 一世 一世 一世	奈良・平安・中世・近世 平平安・近世 京良・平安・中世 平京良・平安・中世 平京良・平安・中世 平京良・平安・中世 平安を、平安・中世 平安を、平安・中世 平弥生 平弥生 平安安・中世 平安安・京良・平安 京良・平安安 古墳良・平安安 古墳泉・平安安 古墳安・平安 古墳安・平世 古墳安・中世 古墳安・中世 古墳安・中世 古墳安・平安 古墳・平平安 古墳・平平安 古墳・平平安 古墳・京平安・中世 古墳・京平安 ・平安 ・平安 ・平安 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1066 1077 1088 1099 110 1111 1122 1133 1144 1155 1166 1177 118 1199 1200 1211 1222 1233 1244 1255 1266	千体遺古墳 田代遺跡 無難留古墳 向原家造跡 藤原遺跡 上玩原遺跡 上玩原遺跡 上玩原遺跡 上玩原遺古墳 山神田下。龍光 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、	古墳 縄文・平安 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 北文・平安 北文・平安 北文・平安 北文・平安 北文・平安 北文・平安 北文・平安 北文・平安 北文・平安・中世・近世 北文・奈良・平安・中世・近世 北文・奈良・平安・中世・近世 北文・奈良・平安・中世・近世 北文・奈良・平安・中世・近世	204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217	後藤遺跡 前田遺跡 相木遺跡 無名墳 おごり家古墳 久久保畑遺跡 無名墳 南原遺跡 無名墳 電幅塚遺跡 梨木遺跡 無名墳	縄文・平安・中世・近世 縄文・平安・近世 縄文・平安・近世 古墳 縄文・古墳・平安・近世 古墳 縄文・古墳・平安・近世 古墳 縄文・平安・中世・近世 古墳 縄文・平安・中世・近世 古墳 縄文・平安・中世・近世 古墳
11 北 12 桜/ 13 矢/ 14 西西 西 16 滴東西 17 東西 宮 20 大 21 大 22 御東坪 25 赤 26 下 27 花茶 28 茶 30 御宮 31 宮 27 本 33 中 33 中 34 一 35 出 37 出 37 出 38 石 37 石 38 石 39 石 30 石 31 石 31 石 31 石 32 日	大内遺跡 州倉遺跡 自出町遭跡 腫前田遭跡 西田遭跡 西田遭跡 西田遭跡 西田遭跡 西田遭跡 西田遺跡 田田遺跡	平安、近世 香達、平安・中世 平安、平安・中世 東京、平安・中世 平安、平安・中世 東京、平安・近世 弥生、平安・近世 弥生、平安 奈平、平安 古古良、京平、平安 古古良、京平、平安 京古、京、安、平、平安 京古、京、安、平、安、 京古、京、安、安、 京、安、安、平、安、 京、安、安、平、安、 京、安、安、平、安、 京、安、安、平、安、 京、安、安、平、安、 京、安、安、平、安、 京、安、平、安、 京、安、平、安、 京、安、平、安、 京、京、平、安、 京、京、京、京、京、京、京、京、京、京、京、京、京、京、京、京、京、京、京	108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 121 122 123 124 125	無名墳古墳 南原塚古墳 原塚古墳 原塚市 東原遺跡 東原遺跡 東小山向官下後 東小山の遺跡 東小山の遺跡 東小山の遺跡 東小山の遺跡 東小山の遺跡 東小山の遺跡 東小山の遺跡 東小山の遺跡	古墳 古墳 緬文・平安 古墳 縄文・平安 古墳 縄文・平安 通文・平安 通文・平安 通文・中安 通文・中安 通文・中世・近世 縄文・方墳・奈良・平安・中世・近世 縄文・奈良・平安・中世・近世 縄文・奈良・平安・中世・近世	206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218	抽木遺跡 無名墳 まこり塚一 大保畑遺跡 無名墳 簡厚遺跡 蝙蝠塚遺跡 蝙蝠塚遺跡 梨木遺跡 無名墳	縄文・平安・近世 古墳 建文・古墳・平安・近世 古墳 建文・古墳・平安・近世 古墳 建文・平安・中世・近世 は、平安・中世・近世 は、奈良・平安・中世 縄文・平安・中世・近世 は 古墳 古墳
12 校	短遺跡 倉 田町 遺跡 自 田町 遺跡 面田 田町 遺跡 面田 遺跡 西田 遺跡 西田 遺跡 電遺跡 電遺跡 電遺跡 電遺跡 電遺跡 電遺跡 電遺跡 電	奈良·平安 古墳·平安·中世 平安・平安・中世 平安 奈良·平安・中世 平安 奈良·平安・中世 平弥生 平安 京良·平安 古墳·奈良·平安 古墳·奈皮 京。平安 古墳·平安 京良·平安 京良·平安 京良·平安 京貞·平安 京貞・平安 古墳 京平安 京中 丁 丁 丁 丁 丁 丁 丁	109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126	弹響館古墳 向原建跡 原建 原建 原建 京 京 京 京 京 京 京 京 京 京 京 京 京 京 京	古墳 縄文・平安 縄文・平安 縄文・平安 縄文・平安 地文・平安 古墳 縄文 奈良・平安・中世・近世 縄文・奈良・平安・神世・近世 縄文・奈良・平安・中世・近世 縄文・奈良・平安・中世・近世 縄文・赤良・平安・世・近世	207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218	無名墳 おこり塚古墳 入保畑遺跡 無名墳 南原遺跡 無名墳 塩幅塚遠跡 梨木遺跡 無名墳	古墳 古墳 古墳 古墳 超文·平安·中世·近世 古墳 縄文·平安·中世·近世 古墳 縄文·平安·中世 縄文·平安·中世 通 道 墳 毛 道
13 矢(14 西西 14 西西 15 西西 16 高湖 17 東 16 高湖 17 東 16 西湖 18 西西 19 南南 19	倉遺跡 田町市遺跡 田町で遺跡 前田田遺跡 前田田遺跡 前田田遺跡 所田遺跡 原産遺跡 田遺跡 田遺跡 田遺跡 田遺跡 田遺跡 田遺跡 田遺跡 田遺跡 田遺跡 田	古墳安 平安·中世 中安 平安·中世 平安 平安·中世 平安 中世 平安 中世 平安 中世 平安 中世 平安 中世 平安 古墳 奈良・平安 古墳 奈良・平安 古貴良・平安 古貴良・平安 古景良・平安 古景と 東安 中世 古東 奈良・平安 東安 中世 古東 奈良・平安 東京 中世 古東 平安 東京 中世 古東 平安 東京 中世 古東 平安 東京 中世 古東 平安 和東文・奈良・平安 和東文・奈良・平安 和東文・奈良・平安・中世	110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126	向原遺跡 藤原遺跡 藤原遺跡 上坊地遺跡 北原遺跡 北原遠跡 京原古墳 向宮下・龍光寺遺跡 宮/東遺跡 東小山G遺跡 東小山G遺跡 東小山坂跡遺跡	縄文・平安 古墳 縄文・平安 建文・平安 建文・平安 造墳 古墳 を良・平安・中世・近世 には、一次・一次・一世・近世 になった。と、平安・中世・近世 には、一次・奈良・平安・中世・近世 には、一次・奈良・平安・中世・近世 には、一次・奈良・平安・中世・近世 には、一次・奈良・平安・近世	208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218	おこり塚古墳 久保 保 東名墳 無名墳 無名墳 南原遺跡 編蝠塚遺跡 編蝠塚遺跡 製木遺跡 無名墳	古墳 縄文・平安・・近世 古墳 造墳 縄文・平安・中世・近世 古墳 縄文・奈良・平安・中世 縄文・平安・中世 縄文・平安・中世 近墳 土墳 大寸 大寸 大寸 大寸 大寸 大寸 大寸 大寸 大寸 大寸
14 西西 15 西 16 河東 16 河東 18 西 16 河東 18 西 19 南 19	田町南遺跡 田町遺跡 願守遺跡 前田遺跡 西田遺跡 西田遺跡 「空遺跡 「空遺跡 「空遺跡 「空遺跡 「空遺跡 「空遺跡 「空遺跡 「空	平安	111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125	藤塚古墳 原遺跡 上坊地遺跡 北原遺跡 京塚中塚古墳 向田遺跡 官三後遺跡 中丸遺跡 東小山G遺跡 東小山B遺跡 東小山坂跡遺跡	古墳 縄文・平安 縄文・平安 古墳 古墳 縄文 森良・平安・中世・近世 縄文・斉良・平安・中世・近世 縄文・奈良・平安・中世・近世 縄文・奈良・平安・中世・近世 縄文・赤良・平安・中世・近世	209 210 211 212 213 214 215 216 217 218	久保畑遺跡 無名墳 南原遺跡 無名墳 蝠蝠塚遺跡 梨無名墳 無名墳 無名墳	選文・古墳・平安・近世 古墳 選文・平安・中世・近世 古墳 選文・奈良・平安・中世 選文・奈良・平安・中世 選文・平安・中世・近世 古墳 古墳
16 満東 17 東 16	願寺遺跡 前田遺跡 西田遺跡 の児遺跡 里遺跡 田遺跡 田遺跡 田遺跡 田遺跡 田遺跡 田遺跡 田遺跡 田遺跡 田遺跡 田	平安·中世·近世	113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126	上坊地遺跡 北原遺跡 京塚古墳 山中塚古墳 向田遺跡 宮宮/後遺跡 中丸遺跡 東小山の遺跡 東小山の遺跡 東小山城跡遺跡 小山城跡遺跡	潤文・平安 古墳 古墳 瀬文 平安・中世・近世 縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世 縄文・奈良・平安・中世・近世 縄文・奈良・平安・中世・近世 縄文・赤良・平安・世・近世	211 212 213 214 215 216 217 218	無名墳 南原遺跡 無名墳 蝙蝠塚遺跡 梨無名墳 無名墳	古墳 縄文·平安·中世·近世 古墳 縄文·奈良·平安·中世 縄文·平安·中世・近世 古墳 古墳
17 東東 18 西河 20 宮宮 21 大川 20 宮宮 21 大川 22 東東 22 東東 24 坪平 25 茶 26 下 28 茶 29 狐 31 宮 27 花 28 茶 30 御 31 宮 27 初 33 中 3 34 一 35 7 出 3 36 小 37 出 3 38 石 3 39 Λ 3 4 3 4 3 4 3 4 3 4 3 4 3 4 3 4 3 4 3	前田遺跡 前田遺跡 の上遺跡 の上遺跡 の上遺跡 田遺上遺跡 田遺上遺跡 田遺上遺跡 田遺造跡 所遺遺跡 所遺遺跡 所遺遺跡 所見遺跡 所見遺跡 所見遺跡 所見遺跡 所見遺	 弥生 平安 平安 古墳・奈良・平安 奈良・平安 奈良・平安 奈良・平安 奈良・平安 奈良・平安 京京・平安 古墳・平安 京平中世 古墳・平安 京良・平安 京良・平安 京東・平安 京東、平安 京東、平安 京東、平安 京東、平安 京東、平安 京東、平安 京東、平安・中世 	114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126	北原遺跡 京塚古墳 山神塚古墳 同田遺跡 宮下・龍光寺遺跡 宮ノ後遺跡 中丸遺跡 東小山C遺跡 東小山B遺跡 小山城跡遺跡	古墳 插文 奈良·平安·中世·近世 繩文·若墳·奈良·平安 繩文·奈良·平安·中世·近世 繩文·若墳·平安·中世·近世 繩文·若墳·平安·世世	212 213 214 215 216 217 218	南原遺跡 無名墳 蝙蝠塚遺跡 梨木遺跡 無名墳 無名墳	縄文・平安・中世・近世 古墳 縄文・奈良・平安・中世 縄文・平安・中世・近世 古墳 古墳
18 西南 19 南南 19 南南 20 宮宮 21 大瓜 22 御 23 東東 24 坪 元 25 赤	前田遺跡 西田遺跡 の月遺跡 の月遺跡 「鬼遺跡」 「鬼っかった。 「鬼っかった。 「鬼っかった。」 「鬼っかった。 「鬼っかった。」	平安 平安 古墳、奈良·平安 古墳、平安 奈良·平安 奈良·平安 奈良·平安 古墳、平安 奈安安 平古墳、平安 东京中世 古墳、平安 东良·平安 東京、平安 東京、平安 東京、平世 古墳、平安 東京、平安 和堂、奈良・平安 和堂、奈良・平安 和堂、李安 和堂、李安 和堂、李安	115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126	京塚古墳 山神塚古墳 同田遺跡 宮下・龍光寺遺跡 宮ノ後遺跡 中丸遺跡 東小山C遺跡 東小山B遺跡 小山城跡遺跡	古墳 插文 奈良·平安·中世·近世 繩文·若墳·奈良·平安 繩文·奈良·平安·中世·近世 繩文·若墳·平安·中世·近世 繩文·若墳·平安·世世	213 214 215 216 217 218	無名墳 蝙蝠塚遺跡 梨木遺跡 無名墳 無名墳	古墳 縄文·奈良·平安·中世 縄文·平安·中世·近世 古墳 古墳
20 宮 (字)	の上遺跡 原堂遺跡 生遺跡 田遺跡 井遺跡 前田遺跡 前田遺跡 がん遺跡 原遺跡 季道遺跡 東道遊跡 原遺跡 季道遺跡 平道遊跡 平道遊跡 平道遊跡 平道遊跡 一門遊跡 新井遺跡	古墳、奈良・平安 古墳、奈良・平安 奈良・平安 奈良・平安 奈良・平安 奈良・平安 奈良・平安 奈良・平安 京・平安 平安 中世 古墳、奈良・平安 種文・奈良・平安 ・平安 ・平安 ・東安・中世 古墳、奈良・平安 ・東安・中世 古墳、東奈良・平安 ・東安・中世 古墳、東安・中世	117 118 119 120 121 122 123 124 125 126	向田遺跡 宮下・龍光寺遺跡 宮ノ後遺跡 中丸遺跡 東小山凸遺跡 東小山B遺跡 小山城跡遺跡	縄文 奈良・平安・中世・近世 縄文・方墳・奈良・平安・ 縄文・奈良・平安・中世・近世 縄文・奈良・平安・中世・近世 縄文・古墳・平安・ 立世	215 216 217 218	梨木遺跡 無名墳 無名墳	縄文・平安・中世・近世 古墳 古墳
21 大瓜 22 御軍 23 東坪 25 赤子 26 下戶 28 茶 29 狐仰 30 御 31 宮 32 中卯 33 中卯 34 一 満 36 小 37 出 38 石 38 石 39 石 39 石 39 石	原遺跡 監遺跡 井道跡 井道跡 井道跡 中面遺跡 か原遺跡 原遺遺跡 の施遺跡 原遺遺跡 の前遺跡 の前遺跡 の前遺跡 の前遺跡 の前遺跡 の前遺跡 でっず の前 でっず でっず でっず でっず でっず でっず でっず でっず	古墳、奈良·平安 奈良·平安 奈良·平安 古墳、平安 平安 中世 古墳、正世 平安 理安・京良・平安・中世 古墳、奈良・平安・中世 古墳、奈良・平安 桑良、平安 桑皮、平安 秦良・平安	118 119 120 121 122 123 124 125 126	宮下・龍光寺遺跡 宮ノ後遺跡 中丸遺跡 東小山C遺跡 東小山B遺跡 小山城跡遺跡	奈良·平安·中世·近世 縄文·古墳·奈良·平安 縄文·奈良·平安·中世·近世 縄文·奈良·平安·中世·近世 縄文·古墳·平安·近世	216 217 218	無名墳 無名墳	古墳 古墳
22 御東 23 東東 25 東 26 下 27 花花 28 茶 30 御宮 31 宮 9 33 中 35 満 36 小 37 出 38 石 38 石 39 石 39 石	登遺跡 田遺跡 井遺跡 前田遺跡 田遺跡 田遺跡 田遺跡 野道遺跡 三幸道遺跡 一年道遺跡 新井遺跡 中田遺跡	奈良·平安 奈良·平安 奈良·平安 奈良·平安 奈良·平安 奈皮·中世 古墳·东世 平安 繩文·奈良·平安・中世 古墳·주史 奈良·平安 奈良·平安 奈良·平安 奈良·平安 奈良·平安 奈良·平安	119 120 121 122 123 124 125 126	宮ノ後遺跡 中丸遺跡 東小山C遺跡 東小山B遺跡 小山城跡遺跡	縄文・古墳・奈良・平安 縄文・奈良・平安・中世・近世 縄文・奈良・平安・中世・近世 縄文・古墳・平安・近世	217 218	無名墳	古墳
23 東平 24 坪子 25 下 26 下 27 花日 28 茶次 29 狐即 31 宮中 33 中却 35 満小 35 満小 37 出自 38 石末 39 石和	田遺跡 井道上遺跡 井道跡 前田遺跡 田遺跡 原遺跡 季道前 一型 一型 一型 一型 一型 一型 一型 一型 一型 一型	奈良・平安 古墳・平安 奈良・平安 奈良・平安 平安・中世 古墳・近世 平変・奈良・平安・中世 古墳・平安 縄文・奈良・平安 縄文・奈良・平安 縄文・奈安・平安	120 121 122 123 124 125 126	中丸遺跡 東小山C遺跡 東小山B遺跡 小山城跡遺跡	縄文・奈良・平安・中世・近世 縄文・奈良・平安・中世・近世 縄文・古墳・平安・近世	218		
25 赤 26 下 27 花に 28 茶次 29 狐儿 30 御 31 宮 32 中 33 中 34 一 35 満年 36 小 37 出日 38 石 39 石 39 石	井遺跡 前田遺跡 田遺跡 かん遺跡 原遺遺跡 っの前遺跡 の前遺跡 川松本遺跡 新井遺跡 中田遺跡	奈良·平安 平安・中世 古墳・近世 平安 縄文・奈良・平安・中世 古墳・奈良・平安 奈良・平安 奈良・平安 縄文・奈良・平安・中世	122 123 124 125 126	東小山B遺跡 小山城跡遺跡	縄文·古墳·平安·近世	219		古墳
26 下i 27 花i 28 茶/ 29 狐J 31 宫 31 宫 32 中J 33 中i 34 一 35 満 36 小 37 出 37 出 38 石i 39 石i	前田遺跡 田遺跡 かん遺跡 原遺跡 幸道遺跡 の前遺跡 川松本遺跡 新井遺跡 ・ 丁田遺跡 中田遺跡	平安·中世 古墳·近世 平安 縄文·奈良·平安·中世 古墳· 平安 長・平安 秦良·平安 秦良·平安・中世	123 124 125 126	小山城跡遺跡			田中田遺跡	縄文·平安·近世
27 花店 28 茶点 29 狐瓜 30 御 31 宮 32 中月 33 中系 34 一 35 満 36 小 37 出日 38 石和 39 石和	田遺跡 かん遺跡 原遺跡 宇道道跡 の前遺跡 の前遺跡 の前遺跡 一の前遺跡 ボー遺跡 ボー遺跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	古墳·近世 平安 縄文·奈良·平安・中世 古墳·奈良·平安 奈良·平安 奈良·平安 続良·平安 縄文・奈良・平安・中世	124 125 126	東小山A遺跡	中世		中原遺跡 蝙蝠塚古墳	縄文・古墳・奈良・平安・近世 古墳
28 茶/ 29 狐/ 30 御 31 宮 32 中/ 33 中 35 満 36 小 37 出 38 石 39 石	かん遺跡 原遺跡 幸道遺跡 の前遺跡 川松本遺跡 五井遺跡 丁田遺跡	平安 縄文·奈良·平安·中世 古墳·奈良·平安 奈良·平安 縄文·奈良·平安·中世	125 126		縄文・近世	222	蝙蝠塚五頃 蝙蝠塚第1号墳	古墳
30 御 31 宮 32 中J 33 中系 34 一 35 満 36 小 37 出 38 石彩 39 石彩	幸道遺跡 の前遺跡 川松本遺跡 新井遺跡 丁田遺跡 中田遺跡	古墳·奈良·平安 奈良·平安 縄文·奈良·平安·中世		丸山遺跡	縄文·古墳·平安	223	無名墳	古墳
31 宮 32 中J 33 中第 34 一 35 満 36 小 37 出日 38 石和 39 石和	の前遺跡 川松本遺跡 新井遺跡 丁田遺跡 中田遺跡	奈良·平安 縄文·奈良·平安·中世	197	宮ノ後遺跡	縄文·古墳·奈良·平安	224	無名墳	古墳
32 中J 33 中系 34 一 35 満年 36 小 37 出日 38 石和 39 石和	川松本遺跡 新井遺跡 丁田遺跡 中田遺跡	縄文·奈良·平安·中世	128	綿獘斗遺跡 上堀遺跡	弥生・古墳・奈良・平安・近世 奈良・平安	225 226	岡·村上遺跡 浅見原遺跡	縄文・古墳・平安・中世・近世 奈良・平安
33 中 34 一 35 満 36 小 37 出 38 石 39 石	新井遺跡 ・丁田遺跡 i中田遺跡			大庭遺跡	古墳・平安・中世		茂兄原退跡 清水遺跡	平安·近世
35 満 36 小 37 出 38 石和 39 石和	i 中田遺跡	縄文·奈良·平安	130	北日向遺跡	奈良·平安	228	大久保遺跡	縄文・古墳・平安・近世
36 小 37 出口 38 石利 39 石利		奈良・平安・中世		北条里制遺構	奈良•平安		無名墳	古墳
37 出1 38 石材 39 石材		縄文·奈良·平安 奈良·平安	132	三原沢遺跡 絵毛遺跡	古墳・平安・中世・近世 縄文・近世	230	無名墳 無名墳	古墳
38 石材	口遺跡	平安		川後塚遺跡	平安		無名墳	古墳
	和高校周辺遺跡	弥生	135	大橋遺跡	縄文·古墳·奈良·近世	233	無名墳	古墳
	和陣屋跡	近世		芝草遺跡	平安		蝙蝠塚古墳	古墳
	音寺前遺跡 開町東遺跡	平安平安		下小下遺跡 和泉遺跡	縄文・奈良・平安・近世 古墳・・奈良・平安・近世		芋塚古墳 沢添遺跡	古墳 平安·近世
42 西木	林遺跡	古墳	139		古墳	237	無名墳	古墳
43 経均	塚古墳	古墳	140	大庭遺跡	古墳·平安·中世	238	北割遺跡	縄文·古墳·平安·近世
	ツ塚古墳群	古墳	141	武田信守館跡	中世 - 大喜、正字、泛世		南・村上遺跡	縄文·古墳·奈良·平安·中世
	舞場遺跡 川原古墳	古墳	142	奴白遺跡 能成寺塚古墳	古墳·奈良·平安·近世 古墳		宮川遺跡 山ノ神遺跡	縄文・古墳・平安・中世・近世 縄文・奈良・平安・中世
	動河原遺跡	平安		信守塚古墳	古墳		猿子塚古墳	古墳
48 半1	:行寺遺跡	平安	145	能成寺跡	中世	243	馬見塚古墳	古墳
	耕免遺跡	弥生・古墳・奈良・平安	146		中世		山神塚古墳	古墳
	成田遺跡 田滝沢遺跡	古墳·奈良·平安	147 148	上小下遺跡 久保A遺跡	古墳·平安 古墳·奈良·平安·中世		森ノ上南遺跡 地蔵塚古墳	古墳·奈良·平安·近世 古墳
52 亀	甲塚古墳	古墳		久保B遺跡	奈良·平安·近世		下長崎遺跡	縄文·古墳·奈良·平安
53 亀	.甲遺跡	古墳·平安	150	掘川遺跡	奈良・平安・中世	248	宮之後遺跡	古墳·奈良·平安
	:下町遺跡 :南遺跡	縄文·平安 縄文·奈良·平安	151 152	金地蔵遺跡 伊勢ノ宮遺跡	古墳・奈良・平安・中世 古墳・奈良・平安・近世		向原遺跡 長慶寺遺跡	古墳·平安 奈良·平安
	神前遺跡	神文·宗良·平安 平安	153	真根子塚古墳	古墳		豊気遺跡	縄文・古墳・奈良・平安・中世
57 無	名墳	古墳	154	団栗塚古墳	古墳	252	瑜伽寺	平安
58 無		古墳	155		古墳		下原遺跡	縄文·古墳·平安·近世
	 おお墳 おおまり	古墳	156 157	伊勢塚古墳 無名墳	古墳		今宮遺跡 古柳塚古墳	古墳·奈良·平安·中世·近世 古墳
	加遺跡	古墳·奈良·平安	158	竹之内遺跡	古墳・奈良・平安・中世・近世		大塚古墳	古墳
62 山	王遺跡	平安	159	飯田氏屋敷跡	中世	257	町屋遺跡	古墳·奈良·平安·中世·近世
	目田遺跡	古墳・平安		神田遺跡	奈良·平安		天神原遺跡	古墳.·平安·近世
64 無2		古墳 古墳	161	真道澤遺跡 侭ノ下遺跡	平安 縄文·古墳·平安·近世		石塚古墳 無名墳	古墳
66 宮	の前遺跡	縄文·平安	163	堀ノ内遺跡	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世	261	無名墳	古墳
67 無	名墳	古墳	164	下新兵衛屋敷跡		262	夜長遺跡	縄文·古墳·奈良·平安
		平安 古墳·奈良·平安		五里原遺跡 長崎遺跡	縄文·古墳·奈良·平安 縄文·古墳·平安·近世		大仏塚古墳 鳩峰古墳	古墳
		古墳·平安		原遺跡	古墳・奈良・平安・中世		/嗚咩百頃 八幡遺跡	縄文
71 中i	通遺跡	古墳·平安	168	二子塚遺跡	縄文·古墳·奈良·平安·中世·近世	266	無名墳	古墳
72 無		古墳		双子塚古墳	古墳		盃塚古墳 図 4k スピナ様	古墳
73 狐は		古墳		森/上北遺跡 浪人屋敷跡	平安·中世·近世 近世		岡·銚子塚古墳 無名墳	古墳
75 無	名墳	古墳		八王子遺跡	縄文・古墳・奈良・平安・近世		無名墳	古墳
76 長日	田古墳群	古墳	173	下神之木遺跡	縄文·古墳·奈良·平安·近世	271	稲山原遺跡	縄文
77 無		古墳		上神之木遺跡	舞立, 士持, 立か 古典 15.00		銚子塚遺跡	旧石器・縄文・古墳・平安・中世
78 無2		古墳 古墳		御崎林遺跡 高家・御崎遺跡	縄文・古墳・平安・中世・近世 縄文・古墳・平安・近世		大覚林遺跡 無名墳	縄文·中世 古墳
80 無		古墳	177	横堰遺跡	奈良・平安・中世	275	土居原遺跡	奈良・平安
81 蝙蝠	蝠塚古墳	古墳	178	塚田遺跡	縄文·古墳·平安·近世	276	米倉氏館跡	近世
		古墳		早稲田遺跡	近世 奈良·平安		無名墳 米倉B条里制遺構	古墳
83 無/		古墳 古墳		高家条里制遺構 法花田遺跡	余良・平安 古墳・近世		米倉B条里制遺構 米倉C条里制遺構	奈良·平安 奈良·平安
85 シャ	ヤフキ塚古墳	古墳	182	高屋三郎屋敷跡	中世	280	大仏塚遺跡	古墳·平安·近世
86 蝙蝠	蝠塚古墳	古墳	183	八反田A遺跡	縄文・中世	281	花田遺跡	古墳·近世
	新田遺跡 川遺跡	縄文·平安 平安		一町田遺跡 八反田B遺跡	平安・近世 縄文・古墳・平安・中世・近世		金山遺跡 竜塚古墳	奈良·近世 古墳
		古墳		バ及田B退跡 梅ノ木田遺跡	縄文・白墳・平安・中位・近位		<u>电塚白頃</u> 上ノ平A遺跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安
90 カニ	ニ田遺跡	平安	187	花鳥山遺跡	縄文	285	富士塚古墳	古墳
		奈良•平安		三ツ沢遺跡	奈良•平安		上ノ平B遺跡	縄文・古墳
92 橋記	詰遺跡 名墳	平安 古墳		小物成山 無名墳	古墳		大谷沢A遺跡 竜安寺川西遺跡	縄文・弥生・古墳
94 御紀	経塚古墳	古墳	192	無名墳	古墳	289	弁財天古墳	古墳
95 柿/	ノ大遺跡	縄文	193	土原遺跡	縄文		鎧塚古墳	古墳
96 赤村	根田遺跡 中根遺跡	縄文·平安 縄文·平安	194	切付平遺跡 深沢道上遺跡	縄文·古墳·平安 縄文·平安			

第3章 遺構と遺物

第1節 1号墳

3基の古墳のうち最も下位に立地する1号墳は、X = 45、Y = 16 グリッドを中心として位置している。

1 墳 丘 (第6·7図)

本墳の墳丘は大きく削平を受け、平坦化され、モモ畑として使用されていた。ただし、墳丘の西側は畑が一段低くなっており、1.2 mほどの比高差が存在した。そこには石垣が積まれ、石垣は弧状となっており、古墳の存在が明確であった。

表土である耕作土および石垣を撤去し、残存する墳丘の検出作業を実施した。表土から 0.15 mほど掘り 下げた段階で墳丘盛土が確認された。

墳丘の残存高さは 1.2 mほどで、径 16 mほどであった。

墳丘西側と奥壁側において周溝確認のためのトレンチ調査を実施した。その結果、西側の第 1 トレンチでは、現存墳端より 1.28 mのところで、幅 0.86 m、深さ 0.15 mほどの浅い落ち込みを確認したため周溝であると判断した。奥壁側の第 2 トレンチでは、残存状況は良好ではなかったが、現存墳端より 2.9 mのところで、幅 0.96 m、深さ 0.1 mほどの浅い落ち込みを確認したためこちらも周溝であると判断した。 2 ヵ所で確認された周溝の痕跡から、径 2 20 mほどの墳丘を有していることが推定された。

墳丘の断ち割り調査も実施し、盛土の状況も確認した(第7図)。墳丘東側は調査区外となっているため、主体部主軸並行線上と直交線上に設定した。直交線上では、第27層が古墳構築時の表土層であり、第30層までが自然堆積層である。旧地表から墳丘残存部の盛土は0.6 mほどが確認された。暗褐色砂質土と黒褐色砂質土を水平方向に互層状に積み上げ、墳丘を構築している。平行線上においても同様な状況が確認された。主体部構築のための掘り込みは、墳丘盛土と同時並行で行われたものと考えられる。

2 前庭部(第8図)

南西方向に開口する横穴式石室墳の入口部には入口部側壁より平坦な礫を墳丘に貼りつけるようにして、「八字状」に開く前庭部を形成していた。前庭部には細片となった須恵器とともに、多量の礫が確認された。これらの礫がいつ頃投棄されたものかは明らかではない。

投棄された礫を取り除くと、石室入口部から弧状に並行する石列がみられた。築造時以降の入口部の改変 に伴うものだと判断された。

築造時の前庭部は、墳丘に礫を貼ったような状態であった。左側は3石ほどで調査区外となっていたため、どのように延びていたのか不明であるが、右側は墳丘端へ向かい弧状に広がりをもつことから、墳丘へ巻き込むように広がりを持っていたものと考えられる。前庭部底面には礫などを敷いた痕跡は確認できず、0.4×0.3 mほどの平石が1石のみ埋め込まれていた。

3 閉塞部 (第9·10図)

閉塞石は、奥壁から 5.47 mのところに位置し、基底部で奥行 2.13 mを測る。長さ $0.3 \sim 0.5$ mほどの細長い礫を 3 段ほど主軸と並行に並べていた。閉塞は、石室側から 0.75 mほどのところで、石積みが明瞭に区分できることから、石室内方向への拡張積み直しが行われていたようである。石室側から 2 列の石積みは拡張閉塞部のものである。第 2 次閉塞石下から、礫床および遺物が出土したことからも裏付けられよう。閉塞部の石室側立面は、綺麗な面を形成はしていなかった。第 1 次閉塞は、入り口側に小形の礫を乱雑に配し、その内側に細長い礫を 2 列並べており、奥行きは入り口閉塞部より 1.35 mほどある。入口部に小礫を配していたため、正面の景観は端正なものではない。

4 石 室 (第12図)

主体部は南西に開口する無袖型の横穴式石室墳である。側壁の残存状況が悪く、断定は出来ないが、残存する側壁からは、玄室と羨道を区分するような側壁の積み方は確認できない。主軸をN-39°-Eに採り、石室全長7.41 m、幅は奥壁で1.95 m、石室中央部で1.60 m、入口部で1.09 mを測り、奥壁から入口に向かい石室幅が半分ほどになる極端な羽子板状を呈する。側壁は弧状とはならず直線的である。

床面には $0.05 \sim 0.15$ mほどの礫を乱雑に敷き詰めていた。本来、石室内全体に敷かれたものであろうが、後世の攪乱によって礫がみられない部分が多い。奥壁から $1 \sim 2$ mの範囲には $0.3 \sim 0.4$ mほどの扁平な礫を据え置いたものが数点みられる。

側壁のうち右側壁は入口から 1.2 mほどは基底部の 1 段のみ残存し、それより奥側は 3 段ほどが残存する。石室用材は、0.5 ~ 0.8 mほどの比較的扁平な花崗岩の自然石を横口を石室内に向け積むのを基本としている。 大形の用材の隙間は小形の亜円礫で充填している。

左側壁は、入口部から 3.5 m ほどは大きく破壊を受け、 $1 \sim 2$ 段のみ残存し、それより奥側は 3 段ほどが残存する。用材の積み方は、右側壁と同様である。両壁とも床面からの残存高は、1.1 m ほどである。

奥壁は、幅 $0.7 \sim 1.0 \, \text{m}$ ほどの扁平な礫を広口に積んでおり、2段が残存していた。基底部では3石、2段目は2石を用いて石室幅を満たしている。

天井石は残存せず、石室内への崩落も確認できなかった。

5 遺物出土状況 (第13~16 図)

前庭部における遺物出土状況は、多量に投棄された礫の下層より須恵器を中心とした土器類が多量に出土した。いずれも小破片となっており、故意に破砕したものと考えられる。出土した須恵器には、甕を中心として坏身、坏蓋、腿、瓶などがある。前庭部西側に積まれていた石垣を解体したところ、裏込めの中から多量の須恵器片が出土した。前庭部を削平し、石垣を積んだ際に埋め込まれたものであろう。

前庭部や閉塞石上からは土器類のほかに、鍔、鉄鏃なども出土しているが、盗掘時に石室内より持ち出されたものであろう。

石室内における遺物出土状況は、盗掘等による撹乱によってあまり良好ではなく、石室中央部付近では床石もほとんど残存してなかった。出土遺物としては、須恵器、武器(刀装具(鍔・鎺・切羽・責金具)・鉄鏃)、装身具(金環・勾玉・ガラス小玉)、石製品(砥石)などがある。

須恵器は、石室内に置かれたような状況は認められず破片が少量出土したに過ぎない。ただ、右側壁付近の第2次閉塞石下には、提瓶の胴部がまとまってみられ、前庭部出土の破片と接合関係にある。閉塞石下ということもあり、破砕後、石室入口部と前庭部付近に投棄された可能性が高い。

刀装具のうち、鍔は4点出土しているが、そのうち八窓鍔および多円孔の鍔は、第2次閉塞石下にあり、 閉塞部を解体した際に出土している。無窓鍔のうち大形のものは、閉塞石上から出土しており、石室内より 持ち出されたものだと考えられる。小形のものは、石室右側の閉塞石寄りから出土している。鎺は、八窓鍔 に隣接して第2次閉塞石下から出土している。切羽は、奥壁左隅付近から鉄鏃、刀子などとともに出土して いる。象嵌装大刀は、入口部に置かれたものと考えるより、切羽が奥壁付近より出土したことから、本来奥 壁付近に置かれたものが、追葬による片付けによって入口部に置かれ、その後、第2次閉塞下になったもの と考えられる。

責金具は、多くが石室内閉塞性付近ないし第2次閉塞石下から出土している。

鉄鏃は、先触れたように、奥壁左隅付近と、第2次閉塞石下に分布が大きく分かれる。

金環は2点出土しているが、1点は閉塞石中より発見され、勾玉も同様な状況にあったことから、第2次 閉塞時に閉塞石下に埋まったものか盗掘の際持ち出されたものであろう。もう1点の金環は、奥壁石隅付近のN-1区より出土している。ガラス小玉は10点ほどあり、 $N-1\cdot2$ 、S-6区からの出土が多い。

砥石は2点出土しているが、1点は墳丘上、提砥は八窓鍔とともに、第2次閉塞石下より出土した。

また、石室内の全域から人骨が出土しているが、散乱しており、埋葬状態を示す状況にはなかった。とくに奥壁寄りに多くみられ、 $S-1\cdot 2$ 区において集中傾向にある。石室中央付近からは、馬の歯も出土している。馬の歯については、年代測定も実施したが、計測不能ということであり、古墳に伴うものかどうか明らかには出来ない。

以上のように、発見された遺物は、本来の副葬状態を保ったような状況にはなく、かろうじて奥壁左隅付近に遺された遺物と、第2次閉塞石下になった遺物が盗掘を免れ、残存したに過ぎないことが明らかとなった。

6 出土遺物 (第25~32図)

本墳からは、土師器・須恵器のほか、金属製品として刀装具・鉄鏃などの武器、装身具としての金環・勾玉・ガラス小玉、刀子、提砥などがある。

a土器

土器では、土師器と須恵器が出土しているが、土師器はわずかで須恵器が圧倒的数量を誇る。

土師器 (第25図)

第25図 $1\sim5$ は、土師器である。同 $1\cdot2$ は碗形になる坏で、1は口縁部の内外面に煤の痕跡がある。同 $3\cdot4$ は、いわゆる須恵器模倣坏で、外面に稜を有する。3は口縁部が稜から外方に大きく開き、4はそれほど外反せず、立ち上がる。同5は高坏で、身部と脚部下半を欠損する。みこみ部は丹念な磨き、外面はヘラナデによって調整されている。

須恵器 (第25~30図)

第 25 図 6 ~ 49・第 30 図 1 ~ 5 は須恵器で、出土量も多く、器種も豊富である。第 25 図 6 ~ 30 は坏身である。器径、立ち上がりの高さ等によっていくつかに分類できる。器径 11cm 前後を測り、立ち上がりが比較的高いもの(同 6 ~ 8)、器径 10cm 前後を測り、立ち上がりは低いが、若干の直立傾向がみられるもの(同 9 ~ 20)、器形は半球形を呈し、器径 9 cm 前後を測る。立ち上がりは退化し、受部より上にわずかに突出するのみのもの、器径 11.7cm とやや大形であるが、立ち上がりは退化が著しく、受部より上には突出せず、焼成がややあまいもの(同 29)、器径 10cm 前後でやや扁平な器形を呈し、腰折れになる。立ち上がりは斜め上方に立ち上がり、受部より上にわずかに突出するもの(同 30・31)、器形は半球形を呈し、立ち上がりをもたないもの(同 32)に分けることができる。

坏蓋にもいくつかのタイプが存在する。器高が高く、半球形を呈するもの(同 33)、半球形を呈するものの、器高が低くなり、口縁部が内傾するもの(同 34 ~ 38)、半球形を呈し、器径が 8.5cm とやや小ぶりであるが器径に対して器高が高くなるもの(同 39・40)、扁平な半球形を呈し、口縁部は外反するもの(41)、やや扁平な器形を呈し、肩部に稜をもつもの(同 42)、つまみをもち、かえりを有するもの(43)がある。

同 $44 \sim 47$ は短頸壺で小形のもの。いずれも肩部はなで肩で、口縁部が直線的に立ち上がるもの(同 $44 \cdot 45$)、わずかにしか口縁部をもたないもの(同 $46 \cdot 47$)がある。

同48・49 は 20 は 30 は 30 は、口縁部を欠損し、体部と 30 部が接合関係にないが同一個体でろう。 肩部は欠損するが張るものとものと思われる。 体部に 30 はに 30 に 30 は、口縁部、体部ともに 50 損する。

第26図1は、提瓶である。球胴形の体部に直線的に長く立ち上がる口縁部をもつ。肩部に環状把手を付す。 同2は、長頸瓶の口縁部資料。同3は、フラスコ瓶の体部資料だと思われる。同4・5は広口壺の頸部か ら口縁部にかけての資料。

第26図6~第30図5は、甕である。第26図6・第27図1・2は、口縁部を沈線によって3区画にし、 櫛歯状刺突文を施す大形のものである。第28図1~第30図5は甕の胴部資料で、いずれも外部は並行叩き 目文をもち、内面は丁寧にナデ調整をし、整形痕を消している。第30図1~4は、甕の胴部破片であるが、 外面は並行叩き目痕、内面には青海波文を明瞭に残す。いずれも胎土中に石英、花崗岩、緑色変質火山岩などの粒子を多く含み、器壁は荒く、焼きもあまい。表面の色調は、通常の褐灰色ではなく、黄灰から褐色系のものが多い。同5は、焼成良好な甕胴部の破片であるが、内面に青海波文を明瞭に残す。

b装身具

装身具類としては、勾玉、ガラス小玉、金環が出土しているが、総量はそれほど多くはない。

勾玉 (第30図6)

軟玉製と思われる勾玉で、やや扁平な形態を呈するものである。孔は通常よりやや下がった位置に穿たれ、 穿孔は両面から行っている。

ガラス小玉 (第30図7~19)

合計で 13 点出土している。径 $3.38 \sim 4.25$ mm、厚さ $2.0 \sim 2.75$ mm、重さ $0.02 \sim 0.07$ g を測る。色調はいずれもブルー系である。

金環 (第30図20・21)

2点出土しており、いずれも鍍金されている。径 2.8cm のものと 1.3cm の小さいものがみられる。

c 金属器 (第 30 図 22 ~ 第 32 図 29)

装飾品類である金環を除き、金属器としては武器である刀装具類、鉄鏃、工具として刀子、飾り金具類などが出土している。

武器

1号墳より出土した武器類には、刀装具、鉄鏃がある。刀装具は豊富に出土しているものの、刀身は破片 も確認されていない。

刀装具

鍔(第30図22・第31図1~3)

第30図22・第31図1~3鍔である。第30図22は、表裏面および耳に銀象嵌を施した八窓の鍔である。 倒卵形で、長径7.4cm、短径5.8cm、厚さ0.5cmである。透し孔は台形である。両面とも透し孔の間に渦巻 文を連結させたS字状の渦巻文を1単位ずつ配し、透し孔外縁には巻き数の多い渦巻文を巡らす。渦文は両 面とも右巻きを主体とするが、時計でいうところの2時から4時付近の渦巻文は左巻きである。耳には交互 二重半円文を全体に巡らせている。刃側の外縁部渦巻文はやや大きくなる。象嵌表出作業は、面、側面とも 一部のみしか実施しておらず、側面は象嵌表出作業を行った部分のみを図化し、面の象嵌文様はX線写真の 実体視によって、表裏文様を分離したものを図化したものである。

第 31 図 1 は無窓の鍔である。上半を欠損する。倒卵形を呈し、現存値で長径 5.65cm、短径 6.0cm、厚さ 0.6cm である。断面は長方形を呈する。象嵌はみられない。

同 2 は、多円孔の鍔である。半分ほどを欠損する。倒卵形になるものと思われるが、やや円形に近い形態を呈するようである。現存値で長径 5.55cm、短径 5.5cm、厚さ 0.3cm、孔径は $0.25 \sim 03$ cm ほどである。断面は長方形とはならず、縁部分を肥厚させT字形に仕上げている。

同3は倒卵形を呈する小形の無窓鍔である。長径5.7cm、短径4.2cm、厚さ0.6cmを測る。鍔の大きさに 比して厚さは厚い。

鎺 (第30 図23・第31 図6)

鎺は、2点出土している。第30図23は、閉塞板を伴う閉塞式鎺で、閉塞板および側面に象嵌を施している。倒卵形を呈し、長径3.3cm、短径2.0cm、側面幅1.5cmを測る。鍔1同様、象嵌表出作業を一部しか実施しておらず、X線写真より象嵌文様を判断している。閉塞板には左右とも二重の弧状の象嵌が施されている。側面には、二列の波状文と弧側を波状文側に向けたやや楕円を呈する半円文を巡らせている。第31図6は、閉塞板を伴わないもので、象嵌はみられない。2/3ほどを欠損するが、倒卵形になるものと思われる。

長径現存で 2.7cm、短径現存で 2.4cm、幅 1.2cm、厚さ 3 mmほどである。 切羽 (第 30 図 24)

切羽は、楕円形を呈する形態であるが、1/3 ほどを欠損する。現存値で長径 5.3cm、短径 4.4cm、厚さ 1.1cm を測る。断面は方形を呈する。側面には楕円状の半円文を巡らせている。象嵌表出作業を一部実施したが、象嵌の残存状況が悪く、肉眼で象嵌を確認することは出来ていないため、X線写真より象嵌の図化作業を行った。

鞘尻金具(第31図4・5)

鞘尻金具は数点出土しており、すべて同一個体と思われるが全体像は不明である。そのうちの2点を図化した。鉄製で、倒卵形になるものと思われるが、径などは不明である。厚さ0.3cm で、象嵌はみられない。 責金具(第31 図 $7\sim13$)

責金具は7点出土している同 $7\sim10$ は、倒卵形で、やや大形のもの。同11 は、長径3.9cm、短径3.3cm で中型のもの。同12 は、長径3.85cm、短径2.9cm と大きさは同11 とそれほど変わらないが、断面径が厚く内径は小さくなる。同13 は青銅製で、倒卵形を呈し、長径3.2cm、短径2.3cm。断面形は蒲鉾形を呈し、0.2cm を測る。

鉄鏃 (第31 図14~18・第32 図1~18)

鉄鏃には、平根系と尖り根系がみられる。平根系は、五角形式(第 31 図 $14 \sim 17$)と三角形式鏃(同 18)がある。五角形式鏃の断面には平造のもの(同 $14 \sim 16$)と両丸造りのもの(同 17)がみられる。茎関部は棘関(同 14)と台形関(同 15)のものがある。同 18 の三角形式鏃は茎部を欠損する。尖根系鏃はそれほどバラエティーに富んではおらず、片刃箭式のみ確認されている(第 32 図 $1 \sim 11$)。同 1 は、片丸造無関片刃箭式で茎部は撫関である。同 $2 \sim 10$ は片平造無関片刃箭式で、茎部が棘関となるもの(同 2)、台形関となるもの(同 2)、無関となるもの(同 2)、無関となるもの(同 2)、がある。同 20 は片丸造鑿箭式鏃である。同 21 は鏃身部を欠損する資料であり、茎関は棘関(同 21 に無関(同 22 に無関(同 23 がある。

工具

刀子 (第32図19~22)

刀子は5点が確認できる。第32図19は完形品で全長14.3cmを測り、均等な両関造となっている。茎部には木質痕跡を残す。同20は刃部先端と茎部端を欠損する。接合関係にはないが2点は同一個体である。背側に撫関が認められるが、刃部側には関は認められない。同21は刃部破片、同22は茎部破片である。 柄縁金具(第32図23)

鉄製の柄縁金具で、倒卵形を呈し、長径 1.85cm、短径 1.2cm、幅 0.7cm を測る。大きさから刀子に伴うものだと思われる。

飾金具類 (第32 図24~27)

本墳からも、飾り金具類がわずかながら認められる。同 24 は端部が弧状となる板に鉄鋲が残る。鋲は太く断面方形を呈する。同 25・26 は板状金具に $1 \, \mathrm{mm}$ 前後の穿孔がされている。 $2 \, \mathrm{点}$ ともに表裏面が剥離しており、本来の厚さは不明である。同 27 は鋲である。

不明鉄製品 (第 29 図 28 · 29)

第29図28は、茎状の形態を呈した部位をもつ鉄製品。刀子のような形態をするが、刃部になるべき部位が断面方形を呈しており、性格不明である。同29は、板状の鉄製品であるが、片面は剥離が激しく本来の厚さは不明。刃部なども形成しておらず性格不明である。

d石製品

石製品としては、砥石が12点出土している。

砥石 (第32図30・31)

第32図30は、緑色凝灰岩製の提砥で、長さ6.0cm、幅上辺で3.3cm、下辺で2.4cm、厚さ1.4cmを測る。

上辺付近に径 0.04cm の孔を有する。同 31 は、四面を使用した緑色凝灰岩製の砥石であるが、墳丘上からの 出土であり、近代の遺物である可能性もあり本墳に伴うものかどうか明らかではない。

第2節 2号墳

2号墳は、1号墳の北東、X=13、Y=95グリッドを中心として位置している。

1 墳 丘 (第17図)

本墳は大きく削平を受け、墳丘はまったく残存していない。おそらくは石室用材だと思われる礫を用いて 主体部を囲むような土地区画となっていた。この礫を除去し、表土を 0.2 mほど掘り下げたところで、側壁 と思われる石列が確認された。

墳丘は削平され、石室用材外側にわずかな高まりを認めたに過ぎない。

主体部奥壁寄りの東側で、幅 1.93 m、深さ*mほどの溝状の掘り込みを確認したが、調査区端から 2.70 mほどで終息してしまう。位置的には周溝の可能性もあるあるが、断定は出来ない。

2 石室(第18:19図)

主体部は、南西に開口する無袖型の横穴式石室墳である。南西傾斜面に立地することから、石室入口側が 斜面下方となっており、前庭部が形成されていたかどうか明らかではない。

奥壁より 4.12 m付近まで礫床が敷かれ、礫床下の床石も主軸方向と直交した列状をなすことから、これより南西に残存する 2石は閉塞石だと判断したが、 2石とも扁平なため床石の可能性も残る。現存部では閉塞部の奥行きが短すぎることになり、閉塞石ではなく床石だとしても入口部の側壁が削平されていることには変わりはない。

主軸を $N-41^{\circ}-E$ に採り、石室現存長 4.73 m、幅は奥壁側で 1.78 m、石室中央部で 1.62 m、入口側で 1.44 mを測り、奥壁から入口に向かい石室幅をやや減じている。両側壁とも弧状とはならず直線的である。

床面には、 $0.2 \sim 0.4$ mほどの扁平な礫を平坦に敷いている。石室北隅と中央付近は攪乱によって、床面が削平されている。この床石の上には、 $0.05 \sim 0.1$ mほどの亜円礫を敷いて礫床を形成していた。

石室は奥壁、側壁とも基底部石の残存していた。

側壁のうち右側壁は、奥壁と接する側壁と中央付近の側壁が取り去られていた。石室用材は、0.5~0.8 mほどの比較的扁平な花崗岩の自然石を横口ないし小口を石室内に向けて積んでいる。左側壁は、中央付近の側壁が1石取り去らている。用材の積み方は、右側壁と同様である。

奥壁は、幅 0.5 ~ 0.6 mほどの方形に近い礫を広口に積んでいる。3石を用いて石室幅を満たしている。

左側壁の裏込め側に、溝状の掘り込みに、拳大の礫を充填した施設がみられた。石室に関連する遺構の可能性もあったため、平面図作成後掘り上げたところ、掘り込み底部付近から近世以降の磁器が出土したため、後世の掘り込みであることが確認された。

3 遺物出土状況 (第 20·21 図)

石室入口および前庭部は削平されていために、土師器および須恵器はほとんど確認されていない。石室内における遺物はそれほど多くはなく、装飾品類、わずかな金属製品がみられる程度である。土器類は、奥壁付近において須恵器提瓶の破片がわずかに確認されているに過ぎない。

装飾品類のうち金環は、奥壁寄りの $N-1\sim3$ 区にみられ、丸玉、切子玉は奥壁に近い $N\cdot S-1$ 区に集中していた。ガラス小玉は多数出土しているが、 $N-2\cdot3$ 区の石室中央付に集中していた。

金属製品のなかで、鉄鏃類は、S-1区である奥壁左隅に集中しているが、ほとんどが細片となっており、ある程度の原形を留めるものはほとんどない。鉄斧はN-3区側壁付近から、轡は入口側の中央部分より出土している。

4 出土遺物 (第33~35 図)

本墳からは、須恵器片の外、装身具(金環・切子玉・丸玉・ガラス小玉)、武器(鉄鏃)、馬具(轡)、工具(鉄 斧)などが出土している。

a 土器類

石室入口部付近が削平されているために、出土は少なく、すべて須恵器である。

須恵器 (第33図1~6)

第 33 図 $1 \sim 3$ は瓶の胴部および肩部破片資料で、3 点ともにカキメ痕跡がみられる。同 $4 \sim 6$ は甕胴部 資料である。

b装身具

装身具類は量的に豊富で、切子玉、丸玉、ガラス小玉、金環がある。なかでもガラス小玉は 400 点近くが 出土している。

玉類 (第 33 図 7 ~ 207 · 第 34 図 1 ~ 201)

第33図7は水晶製切子玉である。長さ21.3mm、幅15.0mmである。

第 33 図 8 ~ 27 は、丸玉で、長径 9.5mm ~ 12.7mm、厚さ 5.8mm ~ 10.2mm、0.75g ~ 2.36g を測る。いずれも石製であるが、材質により 3 種類ほどに分けることができる。同 8 ~ 14 は、苦鉄質岩製で、色調は黒色系を呈するもの。同 15 ~ 21 は苦鉄質岩製で、色調が灰白~黄褐色系を呈するもの。同 22 ~ 26 は、砂礫状苦鉄質岩製でやや風化が進み、褐色系を呈するもの。同 27 は、はんれい岩製で黒色系を呈する。

第 33 図 $28 \sim 207$ ・第 34 図 $1 \sim 201$ は、ガラス小玉で、破片も含めると 380 点以上が出土している。長径 $7.75 \sim 5.13$ mm、厚さ $3.15 \sim 1.50$ mmを測る大形のグループと長径 4 mm以下、厚さ 2 mm以下を測る小形のグループに分けることができる。ほとんどがブルー系であるが、一部に緑色系の色調を呈しているものがみられる。金環(第 34 図 $202 \sim 207$)

金環は、6点が出土している。大きさから3つに分類できる。第34図202·203は大形で、径2.1cm·2.0cm、重量は7.61g·7.55gである。同204·205は中形で、径1.9cm·1.8cm、重量5.27g·5.13gである。同206·207は、ともに径1.4cm、重量2.09g・1.99gである。これらの組合せは大きさ、重量とも近似しており、一対であったものと思われる。いずれも、青銅に鍍金したものである。

b 金属器 (第 34 図~第 35 図)

装飾品類である金環を除いた金属製品には、刀装具、鉄鏃、馬具、鉄斧などがみられる。

武器

責金具 (第34 図 208)

第34図208は、責金具の破片である。断面楕円形を呈し、倒卵形になるものと思われる。その他に刀装具は出土していない。

鉄鏃 (第34図209~2018)

鉄鏃は、尖り根式鏃だけが確認されている。第34図209は、片丸造撫関三角形式鏃であり、茎部を欠損する。同210は、片丸造片刃箭式鏃である。頸部を欠損する。同211・212は、平片刃造片刃箭式鏃である。前者は鏃身先端部を欠損する。同213~216は鏃身部を欠損する資料で、棘関(同213・214)、台形関(同215)、撫関(同216)のものがある。同217・218は、鏃身部のみの資料で、いずれも平片刃造片刃箭式鏃である。

馬具

轡 (第35図1)

2号墳からは、馬具関連の遺物として轡のみ出土している(第35図1)。鉸具立聞素環鏡板付轡で、片側の環状鏡板および両側の引手を欠損する。銜は二連式で、遊環を介さず鏡板と連結している。銜の連結部および銜先環は円形を呈する。引手軸はほとんど残存しないが、銜先環に引手の端環および引手軸の一部が錆びて固着しており、引手は銜先環と連結されていたことが分かる。銜先環は2.25cm ほどを測る。鏡板の環状部分は、5.6cm × 4.8cm ほどの楕円形を呈し、幅2.1cm、高さ最長で0.9cm の板状の立聞に環状と思われる鉸具を付している。鉸具の環状部は一部のみ残存する。差し金を付す孔は幅0.5cm、高さ0.3cm ほどの楕円形状を呈し、差し金の一部も残存する。

工具

2号墳からは工具として、刀子、鉄斧が各1点出土している。

刀子 (第35図2)

第35図2は、湾曲した面に刃部をもつ。裏面は剥離しており本来の厚さは不明であるが、残存部からは 片刃のようにみえる。ここでは、刀子として扱ったが、刃幅もあり、厚さもかなりあることから、別の道具 である可能性もある。

鉄斧 (第35図3)

第35図3は、厚さ0.2cm ほどの鉄板の端部を折り曲げた袋状鉄斧である。長さ6.8cm、袋部の厚さ1.7cm、袋部の幅2.1cm を測る。錆の進行により残存状況が良好ではなく、明瞭ではないが、刃部は弧状を呈しているようにみえる。袋部の端部の片側は広がっており、左右対称ではない。

第3節 3号墳

本墳は現存する墳端が工事によって削平を受ける可能性があるということで調査を実施した。調査地点は X=60、 Y=86 グリッドを中心とする。長さ 8.3 m、幅 2.5 mほどの調査区を設定し遺構確認を行った。

1 墳 丘 (第23図)

調査区内の石垣を解体し、掘り下げを行ったところ、調査区中央の東側において盛土らしい痕跡を確認したが、試掘調査によるトレンチが設定してあり、盛土らしい痕跡はほとんど残存していなかった。

平面図作成後に盛土らしい土層の断ち割り調査を実施した。暗褐色砂質土と黒褐色砂質土の水平堆積が確認されたが、互層状と断定できるような状況にはなく、自然堆積の可能性もあり、墳丘の盛土であるとの確証は得られなかった。

2 遺物出土状況 (第24図)

調査区内において出土したのは、須恵器片が数点、黒曜石片が多く認められた。その他に古墳時代の遺物は出土しておらず、周辺の表面採集によって須恵器片が数点採集されている。

3 出土遺物 (第35図4~8)

調査区内における出土遺物ではないが、周辺から採集された須恵器である。第35図4は、須恵器高台付坏の底部資料であり、猿投産である。同5は、平瓶ないし広口壺の底部だと思われる。同6は外面に並行叩き目文を残すが、薄い作りであり、瓶の可能性がある。同7は外面に並行叩き目文、内面に青海波文を明瞭に残す。胎土中に花崗岩、緑色変質火山岩などの粒子を多く含み、器壁は荒く、焼きもあまい。内面にはひび割れの痕跡も残す。同8も甕の破片資料で、外面には並行叩き目文、内面には青海波文を残す。胎土は密で、焼成は良好な資料であり、同7の資料とは異なる。

第2表 出土遺物観察表(土器)

	備表			内外黒色土器]外黒色土器	底部に線刻あり	A COD CELL LINE		底部に線刻あり	底部に練刻あり																									い 同 一 個 休 ア 田 わ カ る No 1009 炎 あ タ	10 Hz Hz 1254/40 2010: 1005/2-00]一個体と思われるNo. 564, 687がある				一個体と思われるNo. 693, 入石垣2点があ -
1	張存率 ③	10			20 8	T		15	40	1000 麻	55	70	30	10	25	10	10	15	20	55	20	70	40	20	15	Q7 8	90	20	10	20	08	09	40	50	25 10		25 国	20	90	25	20
	斑	型	武	山	長日	ľ d	(===	民	長	型	型	484	民	K a	ζ -πζ	政	-IIX -I	K uk	型	良	良	良	型	山	長日	K &	あまい	民	武	山	型	型	型	長	ıK ıı	X EX	長	良	良	型	型
	胎士 合有物	密 黒色粒子	密 黒色粒子 雲母		密 黒色粒子 ※ 本各粒ス/タ)	からを記しています。		碗	密白・黒色粒子	密白・黒色粒子	密白色粒子	~	後 6 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7		和		密 白色粒子 かんない		~	絕	密白色粒子	~	~	Ш	密 白色粒子 密 方 甲分粒フ	部 日・黒田和十 チャップ・アイクス ファック		密 白色粒子	密 白色粒子	御	稅	密 小礫混入	御	御	邻 後	1 後1	~	稅	~	組	桷
出土遺物観察表(土器)	色調	にぶい褐(7.5YR5/3)	灰褐 (7. 5YR4/2)	にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい赤褐(5YR5/4)	に ふい (位 (51K6/4))灰 (7, 5Y6/1)	灰(5Y6/1)	灰(7.5Y5/1)	灰(5Y6/1)	灰(7.5Y6/1)	灰(5Y5/1)	灰(5Y6/1)	灰(5Y5/1)	灰(515/1) 压(6V6/1)	灰(7, 5Y5/1)	灰(5Y5/1)	展(5Y6/1)	(大(518/1) (天(5Y6/1)	灰 (5Y4/1)	灰(5Y5/1)	灰(7.5Y5/1)	灰(7.5Y5/1)	灰(10Y4/1)	灰(5Y5/1)	灰(5Y5/1)	灰(575/1) 医(505/1)	(X (515/ I)	灰(7.5Y6/1)	灰(5Y6/1)	灰黄(2.5Y6/2)	灰 (5Y4/1)	黄灰(2.5Y6/1)	灰(5Y5/1)	黄灰(2.5Y5/1)	灰(5Y5/1) 压(5V4/1)	X (514/1) 灰 (514/1)	灰(5Y4/1)	黄灰(2.575/1)	灰(5Y5/1)	灰(5Y6/1)	貴灰(2.5Y5/1)
	兩		1	_) () () () () ()	/ / / / / / h	-	-	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	回覧ペンクイン	1	-	_	1 1	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	1	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	_	-	= 1 1 1 1 1 1		ロクロナデ	1	-	ı	ı	1	1	1 1	1	1	1	1	1	回転ヘラケズリ
	上 本 国 平 国 和 国 和 国 和 国 和 国 国 和 国 国 和 国 和 国 国 国 和 国 国 国 和 国	7	ナデ みがき		十二 みがゆ 11十二 4114		ロクロナデ	ロナデ	ロクロナデ 回転ヘラケズリ	ロクロナデ 回転ヘラケズリ	ロクロナデ 回転ヘラケ ズリ	ロクロナデ 回転ヘラケ ズリ	ロクロナゾ	ロクロープ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナゾ	ロクロナデ	ロクロナデ 回転ヘラケズリ	ロクロナデ 回転ヘラケズ リ	ロクロナデ	ロクロナデ 回転ヘラケ ズリ	ロクロナデ 回転ヘラケズリ	ロクロナデ		ロクロナア ロクロナデ 回転ヘラケ	3	1-1-1	ロクロナア 回転ヘフグズリ	ュナデ	ヘラケズリ ロ	回転ヘラケズリ ロクロ ナデ	回転ヘラケズリ ロクロ ナデ	ロクロナデ	ロクロナイ		回転ヘラケズリ ロクロ ナデ	// 回転ヘラケズリ ロクロ ナデ	回転ヘラケズリ ロクロ ナデ	ュナデ	回転ヘラケズリ ロクロ ナデ
	区		ナデ		1 1 1 1	,	7 1	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナゾ	ロクロンナ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	クロナ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	7 1	7 0	ロクロナイ		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナイロカロナギ	1 1	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ
	部	[2.3	[1.7]	[3.5]	[2, 7]	4.6	[2.7]		3.1	2.9	3.0	3.7	2.3	1.4	[1, 55]	[1.7]	[1.5]	[1.8]	2.7	2.8	[2.4]	2.6	2.4	[1.8]	[1.2]	[1.4]	3.5	2.4	[2.3]	[2.8]	4.4	3.3	[3.5]	[3.7]	[3.2]	3.0	[3.5]	3.2	3.4	[5.8]	[6.55]
	重(cm) 底 径	1	1	-	ı	(4.1)		- (4.6	1	(4.2)	4.5	(4.0)	+	-			1 1	3.2	(3.4)	1	(4.0)	(4.0)	-	1	' 0	7.7	-	1	1	1	1	-				1	-	-	1	(5.6)
]は現存値である	张 器		- (0.		1	10.8		H	9.7	3 10.2	1 10.0	6 11.0	(10.6)	+	(10.7)	\vdash	(10.1)	+		2) (8.8)	(9.6)		0) (8.4)	(6)	(9.		-	0) (10.7)	(6.7)	2) (8.4)	11.2	10.2	(11.3)	(11.	(10.9)	8	(9.1)	(10.4)	(10.4)	(9.2)	4) (9.4)
]は現有	□	(11.	(11)	(10.0)	1				(8.0)	∞.	8.]	∞	(8)		(9.0)		(8.4)			(7.	(8.0)		(7.0)		(7.6)			(0.6)	(8.0)	(8.	l list	l total	1		1 1	1	- I	1	1144	(7.0)	(4.
<測値、[類器標品	上師器 坏	近器 坏	上師器 坏	上師器 坏上館器 古柱	国坛			須恵器 坏身	須恵器 坏身	須恵器 坏身	須恵器 坏身	須恵器 坏身		須恵器 坏身		須恵器 坏身			須恵器 坏身	須恵器 坏身	須恵器 坏身	須恵器 坏身	П	須恵器 坏身			須恵器 坏身	須恵器 坏身	須恵器 坏身	須恵器 坏蓋	須恵器 坏蓋	須恵器 坏蓋	須恵器 坏蓋	司 特 中 財 下 財 下 財 下 財 下 財 下 財		須恵器 坏蓋	須恵器 坏蓋	須恵器 坏蓋	須恵器 坏蓋	須恵器 短頸壺
)は復元実測値	図版No. 種	- 1	- 2	- 3	- 4	9 -	- 7	8	6 -	25 - 10 須恵	. 11	- 12	- 13			25-17 須恵			- 21	- 22	25 - 23 須恵	24	- 25	26	25 - 27 須見	20 0	62	25 - 30 須見	- 31	25-32 須恵	. 33	- 34	. 35	25 - 36 須恵	37	39	- 40	- 41	- 42	- 43	- 44
() () ()	遺構名 図	1号墳 25			1号墳 25				1号墳 25	1号墳 25	1号墳 25	1	1号墳 25							1号墳 25	1号墳 25	1号墳 25	1号墳 25		1号墳 25		_	1号墳 25	1号墳 25	1号墳 25	1号墳 25.	1号墳 25	1号墳 25-	+	1 号項 25 1 号槽 95		1号墳 25	1号墳 25	1号墳 25	1号墳 25	1号墳 25
.,[-				1			-					_				1														-			1	-		-		

ŧ	画					他に同一個体と思われる入石垣1点がある	内外面共に緑色自然釉あり 底部内面に緑色 自然釉落下あり	内面自然釉									内面底部自然釉																		
残存率	8	25	20	20	20	70	7.0	30	30	25	1	1	1	ı	30	ı	ı	ı	1	1	ı	ı	I	1	1	-	ı	1	ı	1	1	ı	1	ı	1
	斑及	赵	山	型	民	武	型	赵	旦	型	型	型	闰	虫	赵	武	虱	武	良	良	型	良	型	良	良	旦	虱	武	型	民	乓	闰	型	型	虱
4	山 参						黒色粒子(少)				白・黒色粒子	白色粒子	白色粒子	白・黒色粒子	白・黒色粒子	白・黒色粒子	白・黒色粒子	白・黒色粒子	白・黒色粒子	白·黒色粒子 石英 花 崗岩 緑色変質火山岩	白·黒色粒子 石英 花 崗岩 緑色変質火山岩	白·黒色粒子 石英 花 崗岩 緑色変質火山岩	白·黒色粒子 石英 花 崗岩 緑色変質火山岩	白・黒色粒子	白色粒子	白・黒色粒子	白・赤・黒色粒子	白色粒子	白·赤·黒色粒子 石英 花崗岩 緑色変質火山岩	白色粒子	白色粒子	白・黒色粒子	白・赤・黒色粒子	日・黒色粒子 石英 花 菌岩 緑色変質火山岩	白・黒色粒子
	H EE	网	粉	絕	色	倁	絕	网	棿	絕	倁	棿	棿	柳	网	倁	棿	倁	倁	対	棿	絕	₩ -	倒	彻	艇	彻	倁	絕	倁	倁	彻	絕	檻	細
	印	黄灰(2.5Y5/1)	灰黄(2.5Y6/2)	灰黄(2.5Y6/2)	暗灰黄(2.5Y5/2)	黄灰(2.574/1)	灰白 (5Y7/1) ~灰オリーブ (7. 5Y6/2)	黄灰(2.5Y6/1)	黄灰(2.5Y6/1)	灰(5Y5/1)	黄灰(2.574/1)	灰白(5Y7/1)	黄灰(2.5Y5/1)	灰黄(2.5Y6/2)	灰白(2.5Y7/1)		内:暗灰黄(2.5Y5/2) 外: 黄灰(2.5Y4/1)	灰黄(2.5Y6/2)	灰(7.5Y6/1)	内:にぶい黄褐(10YR5/4 外:暗灰黄(2.5Y5/2))	内:灰黄褐(10YR4/2) 外: 黄灰(2.5Y4/1)	内:灰褐(7.5YR4/2) 外: 褐灰(10YR5/1) 断:黄灰 (2.5Y6/1)	内:灰褐(7.5YR4/2) 外: にぶい褐(7.5YR5/3) 断: 灰(7.5Y4/1)	灰(5Y5/1)	灰(7.5Y6/1)	灰(7.5Y6/1) 釉:灰オ リーブ(7.5Y5/3)	灰(5Y6/1)	灰(5Y5/1)	灰(7.5Y5/1)	灰(5Y5/1)	黄灰(2.5Y5/1)	灰(7.5Y5/1)	灰白(5Y7/2)	暗灰黄(2.5Y5/2)	灰(7.5Y5/1)
	麻幣	_	_		1	1	ロクロナデ	-	回転ヘラケズリ	1	1	1		ı	ナデ	-	1	1	-	_	1	ı	ı	ı	1	-	-	1	ı	1	ロクロナデ	ナデ	ı	1	1
整	外回	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ ヘラナデか	ロクロナデ	回転ヘラケズリ ロクロ ナデ	ロクロナデ		ロクロナデ 権状工具による連続刺突文	タタキ ナデ 櫛状工具 による連続刺突文	ロクロナデ 櫛状工具による連続刺突文	タタキ	タタキ	タタキ 沈線	タタキ	タタキ	タタキ	タタキ カキ目	タタキ カキ目	タタキ カキ目	タタキ ナデ	タタキ カキ目	カキ目	タタキ カキ目	タタキ カキ目	タタキ	タタキ	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	ロクロナデ 回転ヘラケズリ	タタキ	タタキ	タタキ
	器画口	[4.5] ロクロナデ	[3.0] ロクロナデ		ロクロ	[6.0] ロクロナデ	22.6 ロクロナデ	[5.7] ロクロナデ	[8.15] ロクロナデ	[4.3] ロクロナデ	[6.2] ロクロナデ	[15.7]	[24.5] ナデ	[21.5] ナデ	ナデ、	[22.0] ナデ 指頭痕	[22.8] ロクロナデ	[22.5] ナデ	[17.3] ナデ	[10.5] 青海波文	[5.8] 青海波文	[6.6] 青海波文	[6.7] 青海波文	[3.7] 青海波文	[4.0] 青海波文	[6.0] ロクロナデ	[3.0] タタキ後ナデ		[5.5] タタキ後ナデ	[3.0] 青海波文		[1.8] ロクロナデ	[1.3] タタキ	[4.6] 青海波文	[4.2] 青海波文
(cm)	底径	-	_	1	1	ı	ı	-	-	1	1	1	1	1	-	ı	1	1	1	1	1	ı	1	1	1	-	1	1	ı	-	(0.0)	(2.0)	1	ı	1
	器径	(8.8)	(8.6)	(8.6)	(11.1)	[7.8]	14.7	-	(16.6)	[17.4]	(36.6)	ı	[41.6]	1		[27.9]	[41.0]	[9.66]	1	_	ı	ı	ı	1	1						1				
	口	-	(2.8)	(5.2)	1	ı	6.9	(10.2)	-	ı	(14.9)	(30.0)	(34.8)	(46.2)	-	ı	1	1	-	_	1	ı	1	1	1	1	1	1	ı	-	1	_	1	ı	1
器種・	器	短頸壺	短頸壺	短頸壺	ハソウ	ハソウ	提類	長頸瓶	フラスコ瓶	広口歯	広口歯	影	雞	影	雞	獲	刪	魙	湯	꽲	影	編	嶽	影	凝	凝	栅	車	影	珊	かけが	瓶	쏌	影	雞
10.75	種類				m14-	須恵器	須恵器	須恵器	援軍器	Т	須恵器	須恵器	須恵器	須恵器		須恵器	須恵器		須恵器	須恵器	須恵器	須恵器	須恵器	須恵器	須恵器	須恵器	須恵器		須恵器	須恵器			須恵器	須恵器	須恵器
I I I I	区 版 NO.	25 - 45		25 - 47	25 - 48	1号墳 25-49 3	1号墳 26-1 刻	1号墳 26-2 多	1号墳 26-3 刻	1号墳 26-4 3	26 - 5	1号墳 26-6 多	1号墳 27-1 刻	27 - 2	28 - 1	1号墳 28-2 多	1号墳 29-1 刻	29 - 2	1号墳 29-3 3	1号墳 30-1 刻	1号墳 30-2 多	1号墳 30-3 3	1号墳 30-4 多	30 - 5	1 与墳 - 2 号墳 33 - 2 多	2号墳 33-1 刻	33 - 3	33 - 4	2号墳 33-5 刻		35 - 4	35 - 5	3号墳 35-6 多	3号墳 35-7 多	3号墳 35-8 刻

第3表 出土遺物観察表(石製品)

괚 備 色調 灰白(7.5Y8/1) 暗灰黄(2.5Y5/2) 重量(g) 49.74 73.62 (mo) マ首 幅 (cm) 3.3 2.8 長さ (cm) 6.0 5.5 材質 緑色凝灰岩 緑色凝灰岩 泪]は現存値である。 | <mark>図版No. 種 5</mark>
 法量[
] は現存値である

 遺構名
 図版No
 種

 1号墳
 32 - 30 提低

 1号墳
 32 - 31 磁石

第4表 出土遺物観察表(金属製品)

法量[]は現存値である。

法量[遺構名	図版No.	値である。 種 別					法	量(cm)				重量	備考
			Α	В	С	D	Е		長さ・径	幅	厚さ	(g)	A Artiful
1 号墳 1 号墳	30 - 20 30 - 21	金環金環							2.8		0. 55 0. 2	18. 90 2. 24	金銅製金銅製
									高さ:7.4	5. 8			
1 号墳	30 - 22	八窓鍔						鍔茎孔	高さ:3.1	1.95	0.5	66.68	象嵌
1 号墳	30 - 23	鎺							高さ:3.3	2. 0	1.5	11.34	象嵌
1号墳	30 - 24	切羽							高さ:[5.3]	4. 4	1.1	19.16	象嵌
1号墳	31 - 1	鍔							高さ:[5.65]	[6. 0]	0.6	15. 75	
1号墳	31 - 2	鳄							高さ:[5.55] 高さ:5.7	[5. 50] 4. 3	0.3	19. 39	
1 号墳	31 - 3	鍔						鍔茎孔	高さ:2.9	1. 7	0.6	35. 72	
1 号墳	31 - 4	鞘尻金具						- 7 70	[4. 3]	[2.05]	0.3	4. 73	
1 号墳	31 - 5	鞘尻金具							[3. 55]	[2.4]	0.2	5. 63	
1号墳	31 - 6	鎺							[2. 4]	[2.7]	1.2	5. 22	
1 号墳 1 号墳	31 - 7 31 - 8	責金具 責金具							[4. 5] [3. 75]	[3.0]	0.4	4. 51 3. 42	
1号墳	31 - 9	責金具							[2. 7]	[1.4]	0. 33	2. 17	
1号墳		責金具							[2.75]	[1.8]	0.6	1. 21	
1 号墳	31 - 11								3. 9	3. 3	0.4	4.46	
1号墳	31 - 12	責金具							3.85	2. 9	0.4	6.04	A America
1号墳	31 - 13	刀装具	[7 1]	[0.75]	[0, c]	0.00	[0.05]		3. 2	2. 3	0.2	3. 31	金銅製
1 号墳 1 号墳	31 - 14 31 - 15	鉄鏃	[7. 1] [6. 95]	[3. 75] [3. 35]	[2. 6]	3. 20 2. 25	[0. 35]				0.45	8. 96 13. 45	
1号墳	31 - 16	鉄鏃	[8.8]	4. 45	3. 1	[2.70]	1.00				0. 4	13. 45	
1 号墳	31 - 17	鉄鏃	[4.5]	4. 5	3. 3	[0. 20]					0.75	14. 32	
1 号墳	31 - 18	鉄鏃	[3.2]	3. 2	3.0						0.35	7. 65	
1号墳	32 - 1	鉄鏃	[11.8]		0.65		[1.95]				0.35	9. 40	
1号墳	32 - 2	鉄鏃	[15. 85]		0.5		[4.0]				0.4	8. 40	並如17十所成 方
1 号墳 1 号墳	32 - 3 32 - 4	鉄鏃	[11. 6] [15. 1]		0.65		[1. 55] 4. 45				0.35	8. 81 9. 84	茎部に木質残存
1号墳	32 - 5	鉄鏃	14. 5		0.6		4. 05				0.4	10.68	
1 号墳	32 - 6	鉄鏃	[11.3]		0.6		[1.3]				0.4	7. 17	
1号墳	32 - 7	鉄鏃	[12.05]		0.65						0.4	5.72	
1号墳	32 - 8	鉄鏃	[11.65]		0.7						0.3	8. 93	
1 号墳 1 号墳	32 - 9 32 - 9	鉄鏃	[8. 1] [6. 2]		0.55		[2.95]				0.4	4. 63 4. 68	
1号墳	32 - 10	鉄鏃	[10.85]		0.75		[2. 90]				0. 45	5. 86	
1号墳	32 - 11	鉄鏃	[6.2]	4.0	0.9	[2. 2]					0.55	6. 14	
1 号墳	32 - 12	鉄鏃	[3.6]	2.7	0.6	[0.9]					0.4	1.76	
1号墳	32 - 13		[8.9]			[3. 5]	[5. 4]				0.3	4. 42	
1 号墳 1 号墳	32 - 14 32 - 15	鉄鏃	[7. 3] [7. 55]			[6. 0] [0. 85]	[1. 3] [6. 7]				0.5	6. 71 5. 51	木質残存
1号墳	32 - 16	鉄鏃	[6. 35]			[0.5]	[5. 85]				0. 85	2. 90	木質残存
1号墳	32 - 17	鉄鏃	[6.7]			[3. 4]	[3.3]				0.55	5. 52	木質残存
1号墳	32 - 18	鉄鏃	[9.9]								0.4	5. 47	
1号墳	32 - 19	刀子							14. 8	0.5~1.6	0.5	17. 28	木質残存
1号墳	32 - 20	刀子						刃部 莱郊	[5. 1]	[1.2]	0. 35	8. 09	
1 号墳	32 - 21	刀子						茎部	[3. 7] [8. 5]	[0.8] 0.7~1.1	0.3	3. 02 6. 16	
1号墳	32 - 22	刀子							[5. 0]	[1.0]	0.5	2.99	
1 号墳	32 - 23	柄縁金具							1.85	1. 2	0.7	1.20	
1号墳	32 - 24	留金具							[1. 95]	1. 7		2. 59	
1号墳	32 - 25	飾金具 飾金具							[2. 1]	[2. 2]	0.4	3.99	孔あり 両面剥離
1 号墳 1 号墳	32 - 26 32 - 27	即 至 具 鋲							[2.85] 長さ:1.5 夏	[1.5]	0. 25 0. 25	2. 01 0. 47	孔あり 両面剥離 木質残存
1号墳	32 - 28	不明鉄製品							[7. 3]	[1.0]	1.0	10. 20	木質残存
1 号墳	32 - 29	鉄片							[6. 7]	[3. 25]	0.7	20.71	剥離片
	34 - 202								2. 1		0.45	7. 61	金銅製
	34 - 203								2. 0		0.45	7. 55	金銅製
	34 - 204 34 - 205								1. 8 1. 9		0.35 0.35	5. 13 5. 27	金銅製金銅製
	34 - 206								1. 4		0. 33	1. 99	金銅製
2号墳	34 - 207	金環							1.4		0. 25	2.09	金銅製
	34 - 208								[4. 05]	[1.3]	0.6	3.58	
	34 - 209		[7. 50]	[1.60]	[0.9]						0.3	5. 10	
	34 - 210 34 - 211		[7. 45] [8. 50]	2. 6	0.8						0.5	7. 96 8. 72	銹によるふくれ顕著
2号墳		鉄鏃	[8.7]	[2.4]	0. 85						0. 6	4. 89	かれらか ひのへもり织有
2 号墳	34 - 213	鉄鏃	[8.5]			[4. 9]	[3. 6]				0. 4	5. 98	
	34 - 214		[10.55]			[5. 85]	[4.7]				0. 5	7. 77	茎部棘関
2号墳			[8.0]			[6. 0]	[2.0]				0.5	5. 82	
2号墳	34 - 216 34 - 217		[7.8]		0. 9						0.4	6. 12	銹によるふくれ顕著
2 号墳 2 号墳	34 - 217		[4. 35] [3. 90]		0. 9						0. 5	4. 14 3. 11	奶によるかく私興者
			[0.00]		0.0			環体	5. 55×4. 85		0.0		
2号墳	35 - 1	轡						銜	[7. 2]			50. 18	<u> </u>
2号墳	35 - 2	刀子か							[6. 3]	1.9	0.45	12.86	
2号墳	35 - 3	鉄斧						刃部 徐如	6. 8	[2.8]	2. 2	49. 81	剥離が激しい
			1					袋部		[2.4]		1	

第5表 出土遺物観察表(玉)

法量[]は現存値である。

法量[1197011	を値である。									
遺構名	図版NO.	種別	Grid	径(孔径		厚さ(mm)	重量(g)	色調	材質
				長径	短径	長径	短径				
1 号墳	30 - 6	勾玉	閉塞	長:2.40	m 幅:1	.0cm		6. 5	3.55	暗オリーブ(5Y4/3)~灰(7.5Y6/1)	軟玉か
1号墳	30 - 7	ガラス玉	N-1	3.50	3.50	1.00	1.00	2.00		納戸(4B4/6)	
1号墳	30 - 8	ガラス玉	N-2	4.25	4.00	1. 25		2. 75		藍(2PB3/5)	
1号墳	30 - 9	ガラス玉	N-2	3.88	3.63	1. 25	1.13			納戸(4B4/6)	
1号墳		ガラス玉	N-2	3.75	3.75	1. 13		2. 25	0.04	藍(2PB3/5)	
1号墳		ガラス玉	N-4	4. 13	4.00	1. 25	1. 25	2.50	0.04	褐返し(7.5B2/3)	
1号墳		ガラス玉	S-6	3.75	3.75	1.00	1.00	2. 25	0.05	納戸(4B4/6)	
1 号墳	30 - 13	ガラス玉	S-6	3.88	3.75	1. 25	1. 13	2.38	0.04	褐返し(7.5B2/3)	
1 号墳	30 - 14	ガラス玉	S-6	3.75	3.63	1. 13	1.00	2. 25	0.03	藍(2PB3/5)	
1 号墳	30 - 15	ガラス玉	閉塞	4. 13	4.00	1. 25	1. 25	2. 38	0.04	藍(2PB3/5)	
1号墳	30 - 16	ガラス玉	閉塞	3.38	3, 38	1. 13	1.00	2. 25	0.03	ピーコックグリーン(7.5BG4.5/9)	
1号墳	30 - 17	ガラス玉	N-2	[4.00]	-	[2.00]	[1.50]	2. 13	0.03	藍(2PB3/5)	
1号墳	30 - 18	ガラス玉	N-2	-	-	-	-	2. 25		藍(2PB3/5)	
1号墳	30 - 19	ガラス玉	N-2	-	-	[1. 25]		2. 75		藍(2PB3/5)	
2号墳	33 - 7	切子玉	S-1	長:21.3	mm 幅:		1.6			スノーホワイト (N-9.5)	石英(水晶)
2号墳	33 - 8	丸玉	NS-1	12.7	-	3. 7	3. 1	9.0~10.0		暗灰(N3/0)	苦鉄質岩
2号墳		丸玉	S-1	11.4	_	3.8		8.3~9.4		黒(7.5Y2/1)	苦鉄質岩
2号墳		丸玉	N-1	11. 5	10.8	3. 3		8.1~9.6		黒(7.5Y2/1)	苦鉄質岩
2号墳		丸玉	N-1	11. 0	10. 3	3.8		7.4~8.5		明褐(7.5YR5/6)~黒褐(7.5YR3/1)	苦鉄質岩
2号墳		丸玉	N-1	11. 3	11. 0	4. 3		7.6~8.4		オリーブ黒(5Y3/1)	苦鉄質岩
2号墳		丸玉	N-1	11. 3	10.8	4. 1		7. 1~8. 1		褐(10YR4/4)	苦鉄質岩
2号墳		丸玉	S-1	10. 1	9. 2	3. 5		7. 9~8. 6		オリーブ黒(5Y3/1)	苦鉄質岩
2号墳	33 - 15		NS-1	12. 0	10. 9	3.8		9. 3~10. 2		スゥーク黒(513/1) 灰白(10YR8/2)	苦鉄質岩(風化)
2号墳		丸玉	N-1	11. 3	-	3. 4		7. $7 \sim 9.4$		灰白(5Y8/1)~黄褐(2.5Y5/3)	苦鉄質岩(風化)
2号墳		丸玉	N-1	11. 0	_	3. 5		$6.4 \sim 7.7$		灰白(2.5Y7/1)~黄褐(2.5Y5/3)	苦鉄質岩
2号墳		丸玉	N-1	11. 1	_	3. 2		8. 2~9. 1			苦鉄質岩
2号墳			N-1 S-2	9. 7	_	3. 2		$8.2 \sim 9.1$ $5.8 \sim 7.9$			古鉄質石
		丸玉									
2号墳		丸玉	N-1	9.8	9.4	3.4		7.3~8.5		にぶい黄橙(10YR6/3)	苦鉄質岩
2号墳	33 - 21	丸玉	N-1	9.5	9.1	3.5		7.4~8.1		暗灰黄(2.5Y5/2)~にぶい褐(7.5YR5/4)	苦鉄質岩 砂礫状苦鉄質岩
2号墳	33 - 22	丸玉	N-1	11.5	_	3. 5	-	9.5~10.2		にぶい黄褐(10YR5/3)	砂礫状古麩質岩
2号墳	33 - 23	丸玉	N-1	12. 5	_	3.4	3. 1	8.5~9.3	1.81	にぶい黄橙(10YR6/4)~オリーブ灰	砂礫状苦鉄質岩
										(5GY5/1)	
2号墳		丸玉	N-1	11.7	11. 1	3.4		9.4 \sim 10.1		褐(10YR4/6)	砂礫状苦鉄質岩
2号墳		丸玉	N-1	10.5	-	2.9		7.5~8.7		にぶい褐(7.5YR5/4)	砂礫状苦鉄質岩
2号墳		丸玉	S-1	10.2	9.6	3.5		6.9~8.8			砂礫状苦鉄質岩
2号墳		丸玉	S-1	11.7	-	3.6		7.8~8.5		にぶい褐(7.5YR5/4)~黒(N1.5/0)	はんれい岩
2号墳		ガラス玉	N-3	7.50	6.75	3. 13		7. 38		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-2	7.75	7. 13	2.63		5. 50		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	7.75	7. 13	2. 25		5. 25		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	7. 25	7.00	2.00		5. 25		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	6.75	6.38	3. 25		5. 63		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-2	7. 25	6.75	2.50		5. 50		青藍(4.5PB3/7)	
2号墳		ガラス玉	N-3	6.13	6.13	1.63	1. 25	4. 50		藍(2PB3/5)	
2号墳	33 - 35	ガラス玉	N-3	5. 13	4.25	2. 25	1.75	5. 25	0.17	プルシャンブルー(5PB3.5/9)	
2号墳		ガラス玉	N-2	5. 25	4.38	2. 13		4. 50	0.16	褐(7PB2.5/3)	
2号墳	33 - 37	ガラス玉	N-2	5.63	5.50	1.50	1.50	3. 25	0.15	鉄紺(7.5PB1.5/2)	
2号墳	33 - 38	ガラス玉	N-2	4. 25	4. 25	1.38	1. 13	2.50	0.06	藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-2	3.88	3.63	1.75	0.88	2. 25	0.05	縹(3PB4/7.5)	
2号墳	33 - 40	ガラス玉	N-2	3.88	3.75	1.88	1. 13	2.75	0.05	縹(3PB4/7.5)	
2号墳		ガラス玉	N-2	3.63	3.50	1.38	1.00		0.04	縹(3PB4/7.5)	
2号墳		ガラス玉	N-2	4.00	3. 75	2.38		2. 25		サックスブルー(1PB5/4.5)	
2号墳		ガラス玉	N-2	4.38	4. 13	1. 75		2. 25		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	3.50	3.38	1. 75	1.00		0.06	縹(3PB4/7.5)	
2号墳		ガラス玉	N-2	4. 25	3.88	1. 75		2. 38		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 13	4.00	1.63	1. 13			縹(3PB4/7.5)	
2号墳		ガラス玉	N-2	4.50	4.00	2.00		2.50		サックスブルー(1PB5/4.5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	3.75	3. 75	1. 75		2.00		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 13	3. 88	1.50		2. 75		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 25	3.88	1. 63	1. 13			藍(2PB3/5) 赤色含有物あり	
2号墳		ガラス玉	N-3	3.88	3. 63	1. 38		3. 00		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4.50	4. 38	1. 63		2. 63		藍(2PB3/5)	
2号墳	33 - 53	ガラス玉	N-2	4. 63	4. 38	1. 50		2. 38		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-2	4. 38	4. 38	2.00		2. 75		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	3.88	3. 75	1. 25		2. 88		サックスブルー(1PB5/4.5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 25	4. 13	1. 75		3. 00		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-2	4. 25	4. 13	1. 75		2. 50		藍(2PB3/5)	1
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 00	3. 75	1. 63		2. 25			
2号墳		ガラス玉	N-3	4.00	3. 88	1.00		2. 75		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	3.50	3. 38	1. 38		2. 13		藍(2PB3/5) 藍(2PB3/5)	1
2号墳		ガラス玉	N-2	4. 50	4. 25	2. 00		2. 38		藍(2PB3/5) 藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉		3.88				2. 75		<u>監(2FD5/5)</u> サックスブルー(1PB5/4.5)	
			N-3		3. 75	1.63					
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 25	4. 25	1.63	1.13			藍(2PB3/5) 藍(2PB2/5)	
2号墳		ガラス玉	N-2	3. 75	3. 75	1. 13		3. 50		藍(2PB3/5) 藍(2PB2/5)	
2号墳		ガラス玉	N-2	4. 25	3.88	1.63		2. 13		藍(2PB3/5)	
2号墳	33 - 66	ガラス玉	N-3	3. 75	3. 50	1.50		2. 25		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-2	5.00	4. 75	1. 75		3. 75		ピーコックブルー(10BG4/8.5)	-
2 号墳		ガラス玉	N-2	3.50	3.50	1.50	1. 13			鉄納戸(1083.5/2.5)	
					3 63	1.25	0.75	2.75	0.06	藍(2PB3/5)	1
2 号墳 2 号墳		ガラス玉 ガラス玉	N-2 N-3	4. 00 3. 50	3. 63	1. 25		2. 75			

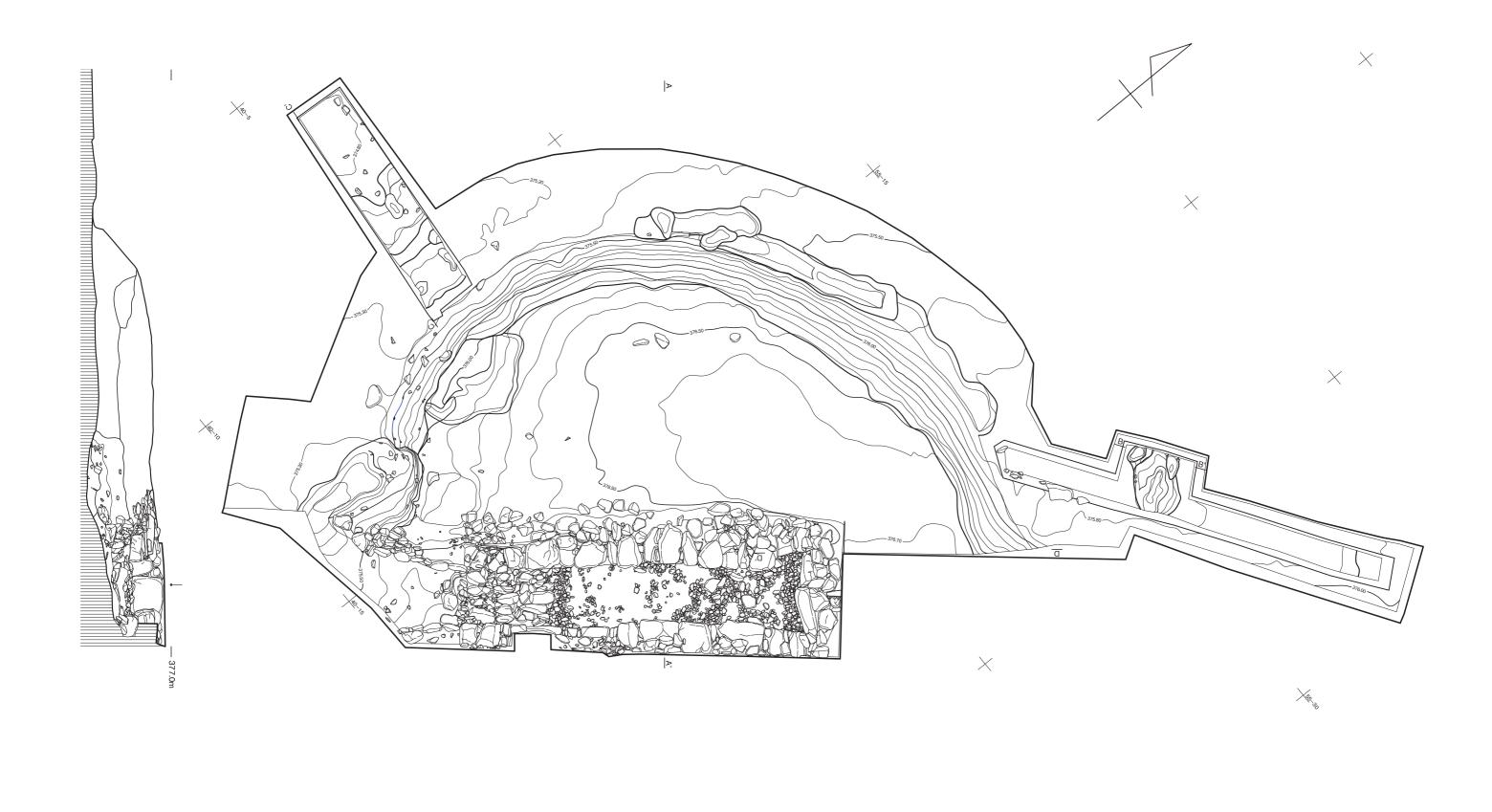
害世夕	図版NO.	1番 日山	Crid	径(mm)	孔径	(mm)	同 ナ (mm)	重量 (g)	色調	材質
遺構名		種別	Grid	長径	短径	長径	短径	厚さ(mm)			州 貝
2号墳	33 - 71	ガラス玉	N-2	4. 25	3. 88	1.50	1.00	2.50		藍(2PB3/5)	
2号墳	33 - 72	ガラス玉	N-3	4. 38	4. 25	1. 63	1. 25	3. 13		サックスブルー(1PB5/4.5)	
2号墳	33 - 73	ガラス玉	N-3	4. 13	4. 00	1. 25		2. 75		サックスブルー(1PB5/4.5)	
2 号墳 2 号墳	33 - 74 33 - 75	ガラス玉 ガラス玉	N-3	4. 25 3. 75	4. 25 3. 63	2. 25	1. 38	2.50		褐返し(7.5B2/3) 薄縹(1.5PB5/6.5)	
2 号墳	33 - 76	ガラス玉	N-3	4. 63	4. 50	2. 00	1. 13	3. 00 3. 13		磨(2PB3/5)	
2 号墳	33 - 77	ガラス玉	N-3	4. 25	4. 00	2. 88	1. 25	2. 38		藍(2FB3/5) 藍(2PB3/5)	
2 号墳	33 - 78	ガラス玉	N-3	4. 00	4. 00	1. 63	1. 25	2. 50		藍(2PB3/5)	
2 号墳	33 - 79	ガラス玉	N-3	4. 00	3. 88	1. 75	1. 13	2. 38		福返し(7.5B2/3)	
2号墳	33 - 80	ガラス玉	N-2	4. 13	4. 00	1. 75		2. 25		薄縹(1.5PB5/6.5)	
2号墳	33 - 81	ガラス玉	N-3	3. 38	3. 25	1. 38		2. 13		褐返し(7.5B2/3)	
2号墳	33 - 82	ガラス玉	N-2	4. 13	4. 00	2. 13	1. 13	2. 13		藍(2PB3/5)	
2号墳	33 - 83	ガラス玉	N-3	4. 13	4. 13	1.63	1. 25	2. 25		褐返し(7.5B2/3)	
2号墳	33 - 84	ガラス玉	N-3	3.50	3.38	1.88	1.13	2.75	0.05	納戸(4B4/6)	
2号墳	33 - 85	ガラス玉	N-3	3.50	3. 25	1.75		2.50		納戸(4B4/6)	
2号墳	33 - 86	ガラス玉	N-2	4.50	4. 38	2.50		2. 38		藍(2PB3/5)	
2号墳	33 - 87	ガラス玉	N-3	3. 75	3.63	2. 13		3. 00		納戸(4B4/6)	
2号墳	33 - 88	ガラス玉	N-3	4. 88	4. 13	1. 63	1. 13	2.50		ピーコックブルー(10BG4/8.5)	
2号墳	33 - 89 33 - 90	ガラス玉	N-2	4. 25	4. 25	2. 25		2. 63		鉄 (2. 5BG2. 5/2. 5)	
2 号墳 2 号墳	33 - 90	ガラス玉	N-2	4. 63	4. 50	1.88	1.38	2.63		藍(2PB3/5) 藍(2PP3/5)	
2 号墳	33 - 91	ガラス玉 ガラス玉	N-3	4. 38 3. 63	4. 13 3. 63	1. 75 1. 63	1. 00	2. 50 3. 00		藍(2PB3/5) 藍(2PB3/5)	
2 号墳	33 - 93	ガラス玉	N-3	4. 50	4. 38	1. 75	1. 13	2. 25		藍(2PB3/5) 藍(2PB3/5)	
2 号墳	33 - 94	ガラス玉	N-3	3. 75	3. 75	2. 88	1. 13	3. 38		藍 (2PB3/5)	
2 号墳	33 - 95	ガラス玉	N-2	4. 38	4. 25	1. 75	1. 25	2. 75		藍(2PB3/5)	
2号墳	33 - 96	ガラス玉	N-3	4. 25	4. 25	2. 25	1. 25	2. 38		藍(2PB3/5)	
2号墳	33 - 97	ガラス玉	N-2	4. 25	4. 25	1. 75		2. 50	0.06	藍(2PB3/5)	
2号墳	33 - 98	ガラス玉	N-3	4. 50	4. 38	1. 50	1.13	2.63		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4.38	4. 25	1.88	1.13	2.50	0.06	藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-2	3.63	3.50	1.38	1.00	2. 13		藍(2PB3/5)	
2号墳			N-3	4. 25	4. 25	1.63	1. 13	2. 50		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-2	3. 63	3. 38	1.88	1. 38	2. 25		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-2	4. 13	4. 13	1.88	1. 25	2.50		藍(2PB3/5)	
2 号墳 2 号墳		ガラス玉 ガラス玉	N-3 N-2	3. 75 3. 75	3. 63	1. 50 2. 00	1. 00	2. 13 2. 75		藍(2PB3/5) 藍(2PB3/5)	
2 号墳		ガラス玉	N-2	4. 00	3. 88	1. 63	1. 13	2. 75		藍(2FB3/5) 藍(2PB3/5)	
2 号墳		ガラス玉	N-3	4. 00	3. 88	2. 13	1. 38	2. 75		<u> </u>	
2 号墳		ガラス玉	N-3	3. 75	3. 63	1. 25	1. 13	2. 25		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 75	4. 25	1. 88	1. 38	2. 38		褐返し(7.5B2/3)	
2号墳		ガラス玉	S-3	3. 50	3. 50	1. 63	1. 25	1. 50		褐返し(7.5B2/3)	
2号墳		ガラス玉	N-3	3.75	3.50	1.38	1.38	2. 25		青褐(6PB2.5/2.5)	
2 号墳	33 - 112	ガラス玉	N-3	3.50	3.50	1.50	0.88	2.00	0.04	藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	S-3	3.75	3.75	1. 25	1. 13	2.50		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 38	4. 38	2. 25		2. 25		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 25	4. 25	1. 75	1. 25	2. 50		褐返し(7.5B2/3)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 25	4. 25	1. 63	1.00	2.63		藍(2PB3/5)	
2 号墳 2 号墳		ガラス玉 ガラス玉	N-3	4. 63	4. 63	1. 38 2. 00	1.00	1.88		縹(3PB4/7.5) 藍(2PB3/5)	
		ガラス玉	N-3	4. 13 4. 38	4. 13 4. 13	1. 63	[1. 25]	2.50		藍(2FB3/5) 藍(2PB3/5)	
		ガラス玉	N-3	4. 38	4. 25	2. 13	1. 13			藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 38	4. 13	1. 38		2. 88		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 25	4. 25	1. 75		2. 50		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	3. 88	3. 75	1. 50		3. 00		藍(2PB3/5)	
2号墳	33 - 124	ガラス玉	N-3	4. 75	4.63	1.50		3.38		深緑(5G3/7)	
2号墳		ガラス玉	N-3	3.38	3.38	1.50		2.00		納戸(4B4/6)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 25	4. 13	1.63		2. 38		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	3.88	3. 75	1. 75	1. 13	2. 13		納戸(4B4/6)	
2号墳		ガラス玉	N-3	2. 13	2.00	1.50		2. 13		藍(2PB3/5)	
		ガラス玉	N-3	4.00	3. 75	1.50		3. 25		浅葱 (2.5B5/8)	
2 号墳 2 号墳		ガラス玉 ガラス玉	N-3	3. 63	3. 38	1.63		2. 88 2. 38		ピーコックブルー(10BG4/8.5) 藍(2PB3/5)	
2 号墳 2 号墳		ガラス玉	N-3	3. 88 4. 13	3. 88	1. 63		2. 38		監(2PB3/5) 藍(2PB3/5)	
2 号墳		ガラス玉	N-3	3. 88	3. 88	1. 63		2. 20		藍(2FB3/5) 藍(2PB3/5)	
2 号墳		ガラス玉	N-3	3. 88	3. 88	1. 75	1. 13	2.00		藍(2PB3/5)	
2 号墳		ガラス玉	N-3	4. 50	4. 38	2. 00		2.50		藍(2PB3/5)	
2 号墳		ガラス玉	N-3	4. 38	4. 00	1. 75		2. 38		藍(2PB3/5)	
		ガラス玉	N-2	4. 25	4. 13	2. 00	1. 13			藍(2PB3/5)	
2号墳	33 - 138	ガラス玉	N-2	4.38	4. 25	2.00	1.13			藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-2	2. 13	2.00	1. 13	1.00	1.75		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-2	4. 38	4. 25	2.00		2. 25		藍(2PB3/5)	
		ガラス玉	N-3	2. 13	2.00	1.50		1. 75		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 13	4. 00	2. 13	1. 25	2. 25		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	5. 25	4. 75	1. 75		3. 13		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-2	3. 75	3. 63	1.00		2. 25		花浅葱(684.5/6)	
2 号墳 2 号墳		ガラス玉	N-2 N-3	4. 38	4. 00	1.38		2. 75		納戸(4B4/6) 乾(2DR3/5)	
2 号墳 2 号墳		ガラス玉 ガラス玉	N-3	4. 13	4. 00 3. 88	1. 38		2. 25 2. 75		藍(2PB3/5) 藍(2PB3/5)	
2 ヶ頃 2 号墳		ガラス玉	N-3	4. 38	4. 25	2. 00		2. 75		藍(2FB3/5) 藍(2PB3/5)	
2 号墳		ガラス玉	N-3	4. 25	4. 25	2. 13		2. 50		藍(2PB3/5)	
		ガラス玉	N-3	4. 00	3. 88	1.00		2. 75		藍(2PB3/5)	
2 号墳	00 100										

\#.## <i>[7</i>	EMIL NO	1 4 Dil	0: .1	径(mm)	孔径	(mm)	原よ (*****)	壬貝(二)	A. =0	±± 55
遺構名	図版NO.	種別	Grid	長径	短径	長径	短径	厚さ(mm)	重量(g)	色 調	材質
2号墳		ガラス玉	N-2	4. 13	4.00	1.50	1.13			藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 13	4.00	1.63		2.50		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	S-3	4. 50	4. 25	1.50		2.50		藍(2PB3/5)	
2 号墳	33 - 155		N-3	3. 75	3.63	1.75	1.38	2. 25		納戸(4B4/6)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 50	4. 50	2. 13		2. 38		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-2	4. 63	3. 25	1.63		2.00		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 00	3.88	1.50	1. 13			藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 13	3. 75	1. 25	1. 25			藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 50	4. 25	2. 00		2. 75		マリンブルー(5B3/7)	
2 号墳 2 号墳		ガラス玉	N-2	3. 63	3. 38	1. 25		2. 75		納戸(4B4/6) 港(ODD2/5)	
2 号墳		ガラス玉 ガラス玉	N-3 N-2	3. 75 3. 88	3. 63 3. 63	1. 38		1. 75 2. 63		藍(2PB3/5) 藍(2PB3/5)	
2 号墳		ガラス玉	N-3	4. 25	4. 25	1. 50		2. 50		藍(2PB3/5)	
2 号墳			N-3	4. 13	4. 00	1. 50		2. 50	0.06	藍(2PB3/5)	
2 号墳	33 - 166		N-3	4. 13	4. 13	1. 50		2. 38		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	2. 38	2. 25	1. 25		1. 88		藍(2PB3/5)	
2 号墳		ガラス玉	N-3	4. 50	4. 13	1. 75		2. 50		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4.00	4.00	2. 25		2. 25		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	3. 75	3.75	1.63		2.50	0.05	藍(2PB3/5)	
2号墳	33 - 171	ガラス玉	N-3	5. 50	5. 25	2. 13	2.00	3. 38	0.13	ピーコックブルー(10BG4/8.5)	
2 号墳		ガラス玉	N-3	3.88	3.63	1.88	1.38	2.50	0.05	藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	3.63	3.63	1.00		2. 38		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-2	3. 63	3.38	1.50		2.63		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	3.63	3.50	1.38		2.38		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	3. 75	3.75	1.63		1. 75		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4.00	3.88	1.50		2.50		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 88	4. 13	2. 13		2. 75		納戸(484/6)	
2号墳		ガラス玉	N-3	3. 63	3.63	1. 25		2.00		藍(2PB3/5)	
2号墳	33 - 180		N-3	1. 55	1.55	1.63		2. 75		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-2	4. 13	4. 13	1. 63		2. 38		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-2	4. 25	4. 13	1. 50		2. 63		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-2	4. 25	4. 25	1. 75		2. 50		藍(2PB3/5)	
2 号墳 2 号墳		ガラス玉 ガラス玉	N-3 N-2	3. 50	3. 38	1.00		2. 13		藍(2PB3/5) 納戸(4B4/6)	
2 号墳		ガラス玉	N-2	4. 00 4. 25	4. 13	1. 50 2. 00		2. 13 2. 25		藍(2PB3/5)	
2 万頃 2 号墳		ガラス玉	N-3	3. 63	3. 63	1.00		2. 63		新戸(4B4/6)	
2 号墳		ガラス玉	N-3	4. 00	4. 00	1. 88		2. 00		納戸(484/6)	
2 号墳		ガラス玉	N-3	3. 63	3. 25	1. 25		2. 25		藍(2PB3/5)	
2 号墳	33 - 190	ガラス玉	N-3	4. 13	3. 88	1. 50		2. 63	0.05	温(21 B67 67 褐返し(7. 5B2/3)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 38	4. 38	1. 75		2. 75		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 25	4. 25	2. 00		2. 25		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 25	4. 25	2. 00		2. 13		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-2	4. 25	4.00	1. 75		2. 75		納戸(484/6)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 25	4. 25	1.38		2.63		藍(2PB3/5)	
2号墳	33 - 196	ガラス玉	N-2	4.00	3.88	1.50	1. 25	3. 13	0.07	藍(2PB3/5)	
2号墳	33 - 197	ガラス玉	N-2	4.38	4.38	1.75	1.25	2.50	0.07	藍(2PB3/5)	
2号墳	33 - 198	ガラス玉	N-3	4.00	3.75	1.25	1.00	2.63	0.04	納戸(4B4/6)	
2 号墳		ガラス玉	N-3	3.88	3.88	1.00		2.50		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 13	4.00	1.50	1. 25			藍(2PB3/5)	
2号墳			N-2	4. 13	4. 13	2.00	1. 38			藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	3. 88	3. 88	1.88		2. 63		藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 25	4. 25	1. 25	1. 13			藍(2PB3/5)	
2 号墳 2 号墳		ガラス玉 ガラス玉	N-2	3. 88	3.88	1. 38	1. 13			納戸(4B4/6) 納戸(4B4/6)	
2 号墳		ガラス玉	N-2 N-2	4. 13 3. 63	4. 00 3. 63	1. 00 1. 50		2. 50 2. 25		納戸(484/6)	
2 号墳		ガラス玉	N-2	4. 38	4. 25	1. 25	1. 25			藍(2PB3/5)	
2 号墳	34 - 1	ガラス玉	N-2	4. 13	4. 13	1. 38		2. 38		藍(2PB3/5)	
2 号墳	34 - 2	ガラス玉	N-2	3. 88	3. 63	1. 38		2. 50		藍(2PB3/5)	
2 号墳		ガラス玉	N-2	3. 63	3. 50	1. 25		1. 75		藍(2PB3/5)	-
2 号墳	34 - 4	ガラス玉	N-2	4. 00	3. 75	1. 63		2. 50		藍(2PB3/5)	
2 号墳	34 - 5	ガラス玉	N-2	4. 38	4. 25	1.63		2. 25		藍 (484/6)	
2号墳	34 - 6	ガラス玉	N-2	3. 88	3.88	1.63	1.00			納戸(4B4/6)	
2号墳	34 - 7	ガラス玉	N-2	4. 25	4.00	2.00	1. 13		0.06	藍(4B4/6)	
2号墳	34 - 8	ガラス玉	N-2	3.88	3.75	1. 25	1.00	2.75	0.06	藍(4B4/6)	
2号墳	34 - 9	ガラス玉	N-2	3. 75	3.75	1.63	1.13		0.05	藍(484/6)	
2 号墳	34 - 10	ガラス玉	N-2	3. 75	3.75	1.00	1.00			藍(4B4/6)	
2号墳		ガラス玉	N-2	4. 25	4. 13	1.38	1.38	2.38		藍(4B4/6)	
2号墳		ガラス玉	N-2	3. 75	3.50	1. 25		2. 38		藍(4B4/6)	
2号墳		ガラス玉	N-2	3. 88	3. 75	1. 25	1.00			藍(484/6)	
2号墳		ガラス玉	N-2	3. 50	3. 25	1. 13	0.88			納戸(484/6)	
2号墳		ガラス玉	N-2	3. 63	3. 38	1.50	1.00			納戸(4B4/6) 赤色含有物あり	
2号墳		ガラス玉	N-2	3. 88	3. 75	1. 38	1.00			納戸(484/6)	
2号墳	34 - 17	ガラス玉	N-2	5. 00	4. 75	1. 50	1. 13			茄子紺(7.5P2.5/2.5)	
2号墳	34 - 18	ガラス玉	N-2	4. 50	4. 50	2. 25	1. 13			藍(2PB3/5)	
2 号墳 2 号墳	34 - 19	ガラス玉 ガラス玉	N-2	3. 88	3.88	1. 25		2.50		納戸(4B4/6) 乾(2DB3/5)	
2 号墳 2 号墳	34 - 20 34 - 21		N-2 N-2	4. 25 3. 75	4. 25 3. 63	1. 75		2.50		藍(2PB3/5) 納豆(4B4/6)	
2 号墳 2 号墳		ガラス玉 ガラス玉		3. 75 4. 38		1. 25	0.88			納戸(4B4/6) 乾(9B3/5)	
2 号墳 2 号墳	34 - 22 34 - 23	ガラス玉	N-2 N-2	4. 38	4. 38	1. 50 1. 50	1. 13			藍(2PB3/5) 藍(2PB3/5)	
2 号墳		ガラス玉	N-2	4. 13	3. 88	1. 38	1. 13			監(2FB3/5) 納戸(4B4/6)	
2 号墳	34 - 25	ガラス玉	N-2	4. 25	4. 00	1. 75	1. 13			藍(2PB3/5)	
ロクタ	04 40	// / ハエ	11 4	1.40	1. 00	1.10	1.10	2.20	0.00	III. \21 D0/ 0/	

ven 1++ An	- III	75 D.I	0	径(mm)	孔径	(mm)	= \(\(\)	~ B / \	m	11 22
遺構名	図版NO.	種別	Grid	長径	短径	長径	短径	厚さ(mm)	重量 (g)	色調	材質
2号墳	34 - 26	ガラス玉	N-2	4.00	4.00	1.50	1.00	2.50	0.06	藍(2PB3/5)	
2 号墳	34 - 27	ガラス玉	N-2	4. 25	4.00	2. 25	1.00	2.38	0.06	藍(2PB3/5)	
2 号墳	34 - 28	ガラス玉	N-2	4.00	4.00	1.25	1.00	2.38	0.06	藍(4B4/6)	
2 号墳	34 - 29	ガラス玉	N-2	4.75	4. 25	1.25	1.00	2.75	0.08	藍(4B4/6)	
2号墳	34 - 30	ガラス玉	N-2	3. 75	3.38	1.50	1.00	2.38	0.05	藍(4B4/6)	
2号墳	34 - 31	ガラス玉	N-2	3.63	3.50	1. 75	1.25	2. 13	0.04	藍(4B4/6)	
2号墳	34 - 32	ガラス玉	N-2	3. 75	3.50	1. 75	1.00	3.00	0.07	藍(4B4/6)	
2号墳	34 - 33	ガラス玉	N-2	4.38	4. 25	1.88	1.25	2.88	0.07	納戸(4B4/6)	
2 号墳	34 - 34	ガラス玉	N-2	3. 75	3. 75	1.00	1.00	2.75	0.06	藍(4B4/6)	
2号墳	34 - 35	ガラス玉	N-2	3.88	3.88	1.63	1.25	2.75		藍(4B4/6)	
2号墳	34 - 36	ガラス玉	N-2	4. 25	3.88	1.50	1.00	2.88	0.08	藍(484/6)	
2号墳	34 - 37	ガラス玉	N-2	4. 00	3. 88	1.50	1.00	2. 88	0.06	藍(484/6)	
2号墳	34 - 38	ガラス玉	N-2	4. 50	4. 25	1. 25	1. 25	2. 88	0.88	藍(484/6)	
2号墳	34 - 39	ガラス玉	N-2	3. 75	3. 63	1.00	1.00	2. 63	0.05	藍(484/6)	
2号墳	34 - 40	ガラス玉	N-2	4. 50	4. 13	1. 25	1.00	2. 63	0.07	藍(4B4/6)	
2号墳	34 - 41	ガラス玉	N-2	3. 88	3. 75	1.63	1.00	2. 88		藍(2PB3/5)	
2 号墳 2 号墳	34 - 42	ガラス玉	N-2	4. 25	4. 25	1.00	1.00	3. 00	0.07	藍(2PB3/5)	
2 号墳	34 - 43	ガラス玉	N-2	4. 25	4. 00	2.00	1.50	2. 25		納戸(4B4/6) 乾(9DB2/5)	
2 号墳	34 - 44 34 - 45	ガラス玉 ガラス玉	N-2	4. 50	4. 38	1. 75	1. 25	2. 50	0.07	藍(2PB3/5) 納戸(4B4/6)	
2 号墳			N-2	4. 25	4. 25	1.63	1. 25	2. 88	0.07	納戸(484/6)	
2 号墳	34 - 46 34 - 47	ガラス玉 ガラス玉	N-2 N-2	3. 88 5. 25	3. 50 5. 05	1. 38	1. 00	2. 13	0.04	献(2PB3/5)	
2 号墳	34 - 47	ガラス玉	N-2	4. 00	3. 88	1. 75	1. 38	2. 25		監(2PB3/5) 藍(2PB3/5)	
2号墳	34 - 49	ガラス玉	N-2	3. 88	3. 63	1. 63	1. 00	3. 00	0.06	藍(2PB3/5)	
2 号墳	34 - 49	ガラス玉	N-2	4. 00	3. 88	1. 75	1. 25	2. 50	0.05	監(2PB3/5) 赤色含有物あり	
2 号墳	34 - 51	ガラス玉	N-2	4. 38	4. 13	1. 25	1. 25	2. 13	0.09	<u>監(2PB3/5)</u> が巴呂有物のり 藍(2PB3/5)	
2 号墳	34 - 51	ガラス玉	N-2	3. 50	3. 25	1. 13	1. 25	2. 13		監(2FB3/5) 納戸(4B4/6)	
2 号墳	34 - 53	ガラス玉	N-2	4. 00	3. 75	1. 50		2. 25	0.05	藍(2PB3/5)	
2 号墳	34 - 54	ガラス玉	N-2	3. 75	3. 75	0.88	0.88	2. 25	0.05	藍(2PB3/5)	
2号墳	34 - 55	ガラス玉	N-2	4. 00	3. 75	1. 50	1. 13	2. 63	0.05	納戸(484/6)	
2号墳	34 - 56	ガラス玉	N-2	3. 75	3. 75	1. 50	1.00	2. 75	0.06	藍(2PB3/5)	
2号墳	34 - 57	ガラス玉	N-2	4. 50	4. 25	1. 50	1.00	2. 50	0.06	藍(2PB3/5)	
2号墳	34 - 58	ガラス玉	N-2	4. 75	4. 00	1. 13	1. 13	2. 25	0.06	藍(2PB3/5)	
2号墳	34 - 59	ガラス玉	N-2	4. 25	4. 00	1. 13	1.00	2.88	0.07	藍(2PB3/5)	
2号墳	34 - 60	ガラス玉	N-2	4. 00	3. 63	1. 63	1.00	2. 75	0.05	藍(2PB3/5)	
2号墳	34 - 61	ガラス玉	N-2	4. 38	4. 25	1. 88	1. 25	2. 25	0.06	藍(2PB3/5)	
2号墳	34 - 62	ガラス玉	N-2	4. 13	4. 00	1.00	0.88	2. 75	0.06	藍(2PB3/5)	
2号墳	34 - 63	ガラス玉	N-2	4. 38	4. 25	1. 75	1.25	2. 25	0.05	藍(2PB3/5)	
2号墳	34 - 64	ガラス玉	N-2	4. 13	3.88	1.50	1.00	2.63	0.06	藍(2PB3/5)	
2号墳	34 - 65	ガラス玉	N-2	4. 25	4. 13	1.75	1.25	3.00	0.08	納戸(484/6)	
2号墳	34 - 66	ガラス玉	N-2	4. 13	4.00	1.25	1.25	2. 13	0.05	褐返し(7.5B2/3)	
2号墳	34 - 67	ガラス玉	N-2	4.63	4.38	1.88	1.25	2.75	0.08	褐返し(7.5B2/3)	
2号墳	34 - 68	ガラス玉	N-2	3.88	3.75	1.00	1.00	2.88	0.06	褐返し(7.5B2/3)	
2号墳	34 - 69	ガラス玉	N-2	4.50	4.38	2.00	1.25	2.75	0.07	藍(2PB3/5)	
2号墳	34 - 70	ガラス玉	N-2	4. 75	4.38	1.88	1.25	2.75	0.07	藍(2PB3/5)	
2号墳	34 - 71	ガラス玉	N-2	4.38	4.38	1.75	1.13	2.50	0.06	藍(2PB3/5)	
2号墳	34 - 72	ガラス玉	N-2	4.00	3.88	1.25	1.25	3. 13	0.06	納戸(4B4/6)	
2号墳	34 - 73	ガラス玉	N-2	4. 13	4.00	1.25	1.25	2.25		藍(2PB3/5)	
2 号墳		ガラス玉	N-2	4. 25	4. 13	1.25	1.25			藍(2PB3/5)	
2号墳		ガラス玉	N-2	4. 25	4. 13	1.25	1.00	2.50		納戸(4B4/6)	
2号墳	34 - 76	ガラス玉	N-2	2.63	2.63	1. 25	1.00	2. 25		納戸(4B4/6)	
2号墳	34 - 77	ガラス玉	N-2	3. 75	3. 75	1. 25	1.00	2.63		納戸(484/6)	
2号墳	34 - 78	ガラス玉	N-2	4.00	3. 75	1.00		2. 25		納戸(4B4/6)	
2号墳	34 - 79	ガラス玉	N-2	4. 50	4. 00	2.00	1.50	2. 25		藍(2PB3/5)	
2号墳	34 - 80	ガラス玉	N-2	4. 25	4. 13	1. 13		2. 50		藍(2PB3/5)	
2号墳	34 - 81	ガラス玉	N-2	4. 38	4. 25	1. 75	1. 25	2. 50		藍(2PB3/5) 規長1 (7 5P2/2)	
2号墳	34 - 82 34 - 83	ガラス玉	N-2	4.00	2.00	1.63	1.00	2. 25		褐返し(7.5B2/3) 夢(2DD2/5)	
2 号墳 2 号墳		ガラス玉 ガラス玉	N-2	3.88	3.88	1. 25	1. 25	2. 25	0.05	藍(2PB3/5) 藍(2PB3/5)	
2 号項 2 号墳	34 - 84 34 - 85		N-2	4. 25	4. 13	1. 63	1.00	2. 50		藍(2PB3/5) 褐返し(7.5B2/3)	
2 号墳 2 号墳		ガラス玉 ガラス玉	N-2 N-2	4. 00	3. 88 4. 25	1. 25 1. 63	1. 25 1. 25	2. 63		徴返し(7.5B2/3) 藍(2PB3/5)	
2 号墳	34 - 86	ガラス玉	N-2 N-2	4. 25	3. 88	1. 13		3. 00		監(2PB3/5) 藍(2PB3/5)	
2 号墳	34 - 88	ガラス玉	N-2	4. 38	4. 25	1. 63		2. 63		藍(2PB3/5) 藍(2PB3/5)	
2 号墳	34 - 89	ガラス玉	N-2	4. 38	4. 25	1. 50	1. 25	2. 75		藍(2PB3/5) 藍(2PB3/5)	
2 号墳	34 - 90	ガラス玉	N-2	4. 38	4. 25	1. 63	1. 25		0.08	藍(2PB3/5) 藍(2PB3/5)	
2 号墳	34 - 91	ガラス玉	N-2	4. 38	4. 13	2. 00	1.50	2. 38		監(2FB3/3) 納戸(4B4/6)	
2 号墳	34 - 92	ガラス玉	N-2	3. 88	3. 88	1. 00		3. 13		納戸(484/6)	
2号墳		ガラス玉	N-2	4. 38	4. 25	2. 00	1. 25	2. 50		藍(2PB3/5)	
2 号墳	34 - 94	ガラス玉	N-1	4. 25	4. 25	2. 00	1. 25	2. 50		納戸(484/6)	
2号墳	34 - 95	ガラス玉	N-2	4. 50	4. 38	2. 00	1. 38	2. 25		藍(2PB3/5)	
2号墳	34 - 96	ガラス玉	N-2	4. 25	4. 25	1. 88	1. 25	2. 50		藍(2PB3/5)	
2号墳	34 - 97	ガラス玉	N-2	4. 25	3. 88	2. 00	1. 38	2. 75		藍(2PB3/5)	
2 号墳	34 - 98	ガラス玉	N-2	4. 00	4. 00	1. 75	1. 25	2. 13		納戸(484/6)	
2号墳	34 - 99	ガラス玉	N-2	4. 50	4. 00	1. 75	1. 13	2. 00		納戸(484/6)	
2号墳		ガラス玉	N-2	4. 13	4. 00	1. 00	1. 00	2. 50		納戸(484/6)	
		ガラス玉	N-2	3. 75	3. 75	2. 00	1. 25	2. 25		納戸(484/6)	
			N-2	3. 88	3. 75	1. 38	1. 00	2. 88		藍(2PB3/5)	
2号墳		1カノヘエコ				1.00	1.00		0.00		
2 号墳 2 号墳	34 - 102				3, 88	1.63	1.00	2.38	0.05	納戸(4B4/6)	
2 号墳 2 号墳	34 - 102 34 - 103	ガラス玉	N-2	4. 00 3. 75	3. 88 3. 75	1. 63 1. 13		2. 38		納戸(4B4/6) 褐返し(7.5B2/3)	
2 号墳 2 号墳 2 号墳	34 - 102 34 - 103 34 - 104			4.00			1.00	2. 38 3. 25 2. 75	0.07		

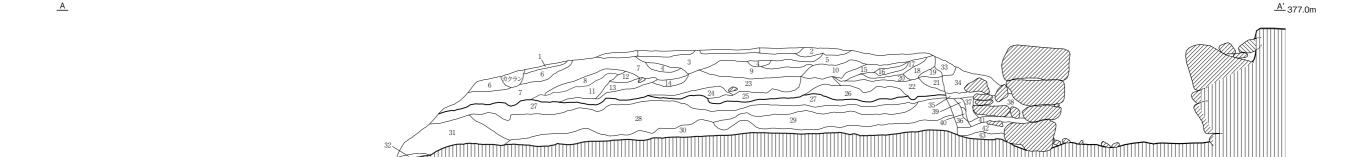
anto 144 A-				径(mm)	孔径	(mm)	_,,,				
遺構名	図版NO.	種別	Grid	長径	短径	長径	短径	厚さ(mm)	重量(g)	色調	材質	[
2号墳		ガラス玉	N-2	3.50	3.50	1.00		2. 25		藍(2PB3/5)		
2号墳		ガラス玉	N-2	3. 88	3. 75	1.00		2. 75		納戸(484/6)		
2 号墳 2 号墳		ガラス玉	N-2 N-2	3. 88	3. 75	1. 88 2. 00		2.38		褐返し(7.5B2/3) 納戸(4B4/6)		
2号墳		ガラス玉 ガラス玉	N-2	3. 63 3. 75	3. 75	1. 13		2. 00 2. 63		報返し(7.5B2/3)		
2号墳		ガラス玉	N-2	3. 75	3. 50	1. 00		1. 88		納戸(484/6)		
2号墳	34 - 113	ガラス玉	N-2	3. 50	3. 50	1.00		2. 38		藍(2PB3/5)		
2号墳	34 - 114	ガラス玉	N-2	3.88	3.75	1.00		2.75	0.05	褐返し(7.5B2/3)		
2号墳		ガラス玉	N-2	3. 75	3.50	1.50		2.75		藍(2PB3/5)		
2号墳		ガラス玉	N-2	3. 63	3. 63	1.00		2. 38		褐返し(7.5B2/3)		
2 号墳 2 号墳		ガラス玉 ガラス玉	N-2 N-2	2. 00 4. 50	2. 00 4. 25	1. 00		1. 50 3. 25		褐返し(7.5B2/3) 赤墨(5R2/1)		
2号墳		ガラス玉	N-2	3. 88	3. 75	1. 25		2.00	0. 03	ピーコックグリーン(7.5BG4.5/9)		
2号墳		ガラス玉	N-2	3. 75	3. 63	0.88		3. 00		褐返し(7.5B2/3)		
2号墳		ガラス玉	N-2	3.63	3.50	-	-	2. 25		褐返し(7.5B2/3)		
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 13	4.00	1. 88		2. 25		藍(2PB3/5)		
2号墳		ガラス玉	N-3	3. 75	3. 75	1. 50		2. 50		褐返し(7.5B2/3)		
2 号墳 2 号墳		ガラス玉 ガラス玉	N-3	4. 25 4. 00	4. 00 3. 88	1. 50 1. 25		2. 75 2. 75		藍(2PB3/5) 褐返し(7.5B2/3)		
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 00	3. 88	1. 00		2. 13		褐返し(7.5B2/3)		
2号墳	34 - 127	ガラス玉	N-3	3. 88	3.88	1. 50		2. 75		藍(2PB3/5)		
2 号墳		ガラス玉	N-3	3.88	3.88	1.63	1.13	2.75	0.05	藍(2PB3/5)		
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 00	3. 88	1. 25		2. 25		藍(2PB3/5)		
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 25	4. 13	1. 13	1. 13			褐返し(7.5B2/3)		
2 号墳 2 号墳		ガラス玉 ガラス玉	N-3	3. 88 4. 50	3. 75 4. 13	1. 63 1. 50		2. 50 2. 75		褐返し(7.5B2/3) 藍(2PB3/5)	 	
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 13	3. 88	1. 50		2. 88		藍(2PB3/5) 藍(2PB3/5)	+	
2号墳		ガラス玉	N-3	3. 88	3. 75	1. 50	0. 75			納戸(484/6)		
2号墳	34 - 135	ガラス玉	N-3	4. 25	4.13	1. 75	1.00	2. 38	0.06	藍(2PB3/5)		
2号墳		ガラス玉	N-3	3. 75	3.75	1.50	1.00			藍(2PB3/5)		
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 38	4. 38	1. 75	1. 13			藍(2PB3/5)		
2 号墳 2 号墳		ガラス玉 ガラス玉	N-3	4. 00 4. 25	3. 88 4. 13	1. 50	1. 13	2. 38		褐返し(7.5B2/3) 藍(2PB3/5)		
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 13	4. 13	1. 88		2. 13		納戸(484/6)		
2号墳		ガラス玉	N-3	3. 75	3. 75	1. 00		2. 63		藍(2PB3/5)		
2号墳		ガラス玉	N-3	3. 75	3.63	1.63		2. 75		納戸(484/6)		
2号墳		ガラス玉	N-3	3. 75	3.75	1.63		2.50		褐返し(7.5B2/3)		
2号墳		ガラス玉	N-3	3. 88	3. 63	1.00		2.88		褐返し(7.5B2/3)		
2 号墳 2 号墳		ガラス玉 ガラス玉	N-3	4. 00	3. 75 4. 00	1. 88 1. 25		2. 00 2. 25		褐返し(7.5B2/3) 藍(2PB3/5)		
2号墳		ガラス玉	N-3	3. 88	3. 88	1. 20		2. 25		監(27B3/3) 褐返し(7.5B2/3)		
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 00	3. 75	1. 75	1. 13			褐返し(2PB3/5)		
2号墳		ガラス玉	N-3	3. 75	3.50	1. 75		1.75	0.03	藍(2PB3/5)		
2号墳		ガラス玉	N-3	4.00	3.75	1. 13		2. 38		藍(2PB3/5)		
2号墳		ガラス玉	N-3	3. 88	3.88	1.00		2. 75		褐返し(7.5B2/3)		
2 号墳 2 号墳		ガラス玉 ガラス玉	N-3	3. 50 3. 88	3. 38	1. 75	1. 25 1. 13	2. 75 3. 00		納戸(4B4/6) 藍(2PB3/5)		
2号墳		ガラス玉	N-3	3. 75	3. 63	1. 50 1. 75	1. 13			<u>新</u> (4B4/6)		
2号墳		ガラス玉	N-3	3. 88	3. 88	1. 50	1. 00			納戸(484/6)		
2号墳		ガラス玉	N-3	3. 63	3. 63	1. 38	1. 13			藍(2PB3/5)		
2号墳		ガラス玉	N-3	4.00	4.00	1. 13	1.00			褐返し(7.5B2/3)		
2号墳		ガラス玉	N-3	3. 75	3. 63	1. 88	1. 25			藍(2PB3/5)		
2 号墳 2 号墳		ガラス玉 ガラス玉	N-3	3.50	3.38	1.38	1. 00 1. 00			藍(2PB3/5) 藍(2PB3/5)		
2号墳		ガラス玉	N-3	3. 50 4. 13	3. 25 4. 00	1. 50	1.00			藍(2PB3/5) 褐返し(7.5B2/3)		
2号墳		ガラス玉	N-3	3. 75	3. 50	1. 50	1. 13			納戸(484/6)		
2号墳	34 - 163	ガラス玉	N-3	3. 75	3. 63	1. 25	0.88	2.50	0.04	藍(2PB3/5)		
2号墳		ガラス玉	N-3	3. 75	3. 75	1.63	1. 25	2.50		褐返し(7.5B2/3)		
2号墳		ガラス玉	N-3	3. 88	3. 75	1.00		2. 13		納戸(4B4/6)		
2 号墳 2 号墳		ガラス玉 ガラス玉	N-3	3. 38 3. 50	3. 25	1. 00	0. 75 1. 13			藍(2PB3/5) 納戸(4B4/6)		
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 50	3. 88	1. 75	1. 13			報返し(7.5B2/3)		
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 25	4. 25	1. 50	1.00			納戸(484/6)		
2号墳	34 - 170	ガラス玉	S-1	4.38	4. 25	1.50	1.50	3. 25	0.09	ピーコックブルー(10BG4/8.5)		
2号墳		ガラス玉	S-1	3. 50	3. 38	1.00		2. 25		藍(2PB3/5) 赤色含有物あり		
2号墳		ガラス玉	S-1	3. 88	3.50	1.00		2. 13		藍(2PB3/5)		
2 号墳 2 号墳		ガラス玉 ガラス玉	S-2	3. 75	3. 63	1.38		2.63		藍(2PB3/5) 知豆(4P4/6)		
2 号墳		ガラス玉	S-2 S-2	3. 63 3. 75	3. 63 3. 75	1. 38		3. 00 2. 50		納戸 (4B4/6) 納戸 (4B4/6)		
2号墳		ガラス玉	S-2	4. 13	4. 13	1. 50		2. 13		藍(2PB3/5)		
2号墳	34 - 177	ガラス玉	S-2	3. 63	3. 50	1. 38		2. 25		褐返し(7.5B2/3)		
2号墳		ガラス玉	S-2	3. 75	3. 75	1.88	1.38			納戸(4B4/6)		
2号墳		ガラス玉	S-2	3. 38	3. 38	1.00		1.63		藍(2PB3/5)		
2 号墳 2 号墳		ガラス玉 ガラス玉	S-2	4. 50	4. 38	1.00		2.00		納戸(4B4/6) 萨(2DD2/5)		
2号墳		ガラス玉	S-4 S-5	4. 00	3. 88 4. 00	1. 50 1. 75	1. 13 1. 25	2. 63		藍 (2PB3/5) 藍 (2PB3/5)		
2号墳		ガラス玉	S-5	4. 00	4. 00	1. 88		2. 25		<u>塩(21B3/3)</u> 褐返し(7.5B2/3)		
2号墳	34 - 184	ガラス玉	N-3	4. 75	4. 63	-	1.00		0.06	藍(2PB3/5)		
2号墳		ガラス玉	N-3	4. 38	4. 38	2. 25	1.50			褐返し(7.5B2/3)		
2号墳		ガラス玉	N-3	[4. 25]	[4. 25]	[1.88]	[1. 25]			藍(2PB3/5)		
2 号墳	34 - 187	ガラス玉	N-2	[4.5]	-	[1.75]	_	2.50	0.03	藍(2PB3/5)	<u> </u>	

遺構名	図版NO.	種別	Grid	径(mm)		孔径(mm)		厚さ(mm)	ま 导 (≈)	色調	材質
				長径	短径	長径	短径	厚さ()	重量(g)	巴利	14 貝
2号墳	34 - 188	ガラス玉	N-3	[4.25]	-	[1.63]	[1.50]	2.38	0.02	藍(2PB3/5)	
2 号墳	34 - 189	ガラス玉	N-2	[4.00]	-	[1.25]	[1.00]	2.75	0.03	藍(2PB3/5)	
2号墳	34 - 190	ガラス玉	N-3	[3.88]	-	[1.50]	-	2.00	0.02	褐返し(7.5B2/3)	
2号墳	34 - 191	ガラス玉	N-2	[3.75]	[3.75]	[1.38]	[1.25]	2.75	0.04	藍(2PB3/5)	
2号墳	34 - 192	ガラス玉	N-2	-	-	[1.38]	-	2.50	0.03	藍(2PB3/5)	
2号墳	34 - 193	ガラス玉	N-3	-	-	[1.50]	-	2.25	0.02	納戸(4B4/6)	
2号墳	34 - 194	ガラス玉	N-1	-	-	-	-	2.25	0.02	納戸(4B4/6)	
2 号墳	34 - 195	ガラス玉	N-3	-	-	-	-	2.25	0.02	藍(2PB3/5)	
2 号墳	34 - 196	ガラス玉	N-2	-	-	[1.63]	[1.50]	2.38	0.03	藍(2PB3/5)	
2 号墳	34 - 197	ガラス玉	N-2	[3.75]	-	[1.00]	-	2. 13	0.02	褐返し(7.5B2/3)	
2 号墳	34 - 198	ガラス玉	N-2	[4.63]	[4.63]	[1.63]	[1.00]	1.75	0.02	藍(2PB3/5)	
2号墳	34 - 199	ガラス玉	N-2	-	-	-	-	1.63	0.01	藍(2PB3/5)	·
2号墳		ガラス玉	N-2	[3.50]	-	[1. 25]	-	2.00	0.02	藍(2PB3/5)	·
2号墳	34 - 201	ガラス玉	N-2	-	-	-	-	2. 25	0.02	納戸(4B4/6)	·



第6図 1号墳平面図

(1:80)





- 1号A-A'土層
 1層 暗褐色砂質土層(10YR3/3) 0.5cm大の礫と赤褐色粒子を多く含む。
 2層 黒褐色砂質土層(10YR2/3) 1cm大の礫を少量と黄褐色土ブロックを多く含む。
 3層 暗褐色砂質土層(75YR3/4) 黒色ロームと褐色土ブロックを多く、炭化物を少量含む。
 4層 黒褐色砂質土層(10YR2/3) 褐色土小ブロックと黒色土小ブロックを僅かに含む。
 5層 暗褐色砂質土層(10YR3/4) ロームブロックと黒色土ブロックを冬含む。

- 5層 暗物色砂質土層(10YR4/4) 黄褐色粒子を多く、白色粒子を少量含む。 褐色砂質土層(10YR4/4) 黄褐色粒子を多く、白色粒子を少量含む。 7層 暗褐色砂質土層(10YR3/4) 褐色土ブロックを多く、黒色土ブロックおよび0.5cm大の礫を少量含む。 8層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/3) 黒色土ブロックとロームブロックを少量含む。 9層 黒褐色砂質土層(7.5YR2/2) 黄褐色粒子を少量とロームブロックを僅かに含む。 10層 黒褐色砂質土層(10YR2/2) 赤褐色粒子を少量とロームブロックを僅かに含む。 10層 黒褐色砂質土層(10YR2/2) 赤褐色粒子を少量とロームブロックを運かに含む。 10層 黒褐色砂質土層(10YR2/2) 赤褐色粒子を増かに含む。層の上部は赤褐色の色調が強い。
- 10層 無陽色砂質土層(7.5YR2/3) 赤陽色は7.1日とは7.生成がよりた80分割。 11層 隔積色砂質土層(7.5YR2/3) 黄褐色粒子と黒色土ブロックを少量合む。

- 12層 無褐色砂質土層(7.518.2/3) 貞褐色粒子と黒色土プロックを少量さび。
 13層 黒褐色砂質土層(7.518.2/3) 黄褐色粒子と黒色土プロックを少全く含む。
 14層 極暗褐色砂質土層(7.518.2/3) 黄褐色粒子と黒色土プロックを少量、および赤褐色粒子を僅かに含む。
 15層 黒褐色砂質土層(1018.2/3) 褐色粒子と赤褐色粒子、および0.5cm大の礫を少量含む。
 16層 黒色砂質土層(7.518.1.7/1) 赤褐色粒子と黄色粒子を少量含む。

- | 10 | 無色砂質土層(10 YR2/3) | 褐色粒子を多く含む。 | 18 | 黒褐色砂質土層(10 YR2/3) | 褐色土ブロックを多く含む。 | 19 | 極暗褐色砂質土層(7.5 YR2/3) | 褐色土ブロックを多く含む。
- 20層 黒褐色砂質土層(10YR2/3) (03cm大の礫と赤褐色粒子を多く含む。 21層 黒褐色砂質土層(10YR2/3) 褐色粒子と黒褐色土ブロックを多く含む。

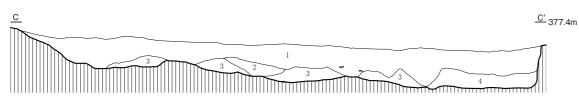
- 22層 暗褐色砂質土層(10YR3/4) 褐色土ブロックを多く、赤色粒子および0.5cm~1cm大の礫を少量含む。 23層 黒褐色砂質土層(10YR2/3) 褐色土ブロックと黒褐色土ブロック、およびカーボンを少量含む。 24層 暗褐色砂質土層(10YR3/3) 0.5cm~1cm大の礫と黒褐色土ブロックを少量含む。

- 24層 暗褐色砂質土層(10YR3/3) 3~5cm大の礫と褐色土ブロックを少重さむ。
 25層 暗褐色砂質土層(10YR3/3) 3~5cm大の礫と褐色土ブロックを含え
 26層 黒褐色砂質土層(10YR2/3) 0.5cm~1cm大の礫を少量と褐色土ブロックを多く含む。
 27層 黒褐色砂質土層(75YR2/1) 黒色粒子と褐色粒子、および赤褐色粒子を多く含む。0.5cm大の礫を少量含む。(旧表土層)
 28層 黒褐色砂質土層(75YR2/2) 万褐色土ブロックを多く、カーボンを僅かに含む。しまり強い。
 29層 極暗褐色砂質土層(75YR2/3) 0.5cm~1cm大の礫を少量と赤褐色粒子を含む。
 30層 黒褐色砂質土層(75YR3/2) 3cm大前後の礫を多く、ローム粒を少量含む。

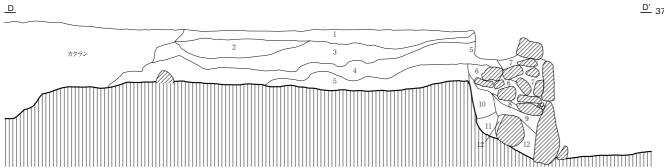
- 31層 暗褐色砂質土層(10YR3/4) 褐色土ブロックと黒褐色粒子を少量含む。
- 32層 褐色砂質土層(10YR4/4) 黄褐色土ブロックを少量含む。 33層 黒褐色砂質土層(10YR2/3) 褐色土ブロックを多く含む。

- 33層 黒褐色砂質土層(10YR2/3) 褐色土プロックを多く含む。
 34層 黒褐色砂質土層(10YR2/3) 褐色土プロックを多く含む。
 35層 黒褐色砂質土層(10YR2/3) 褐色土プロックを多く含む。
 36層 暗褐色砂質土層(10YR3/3) 褐色土プロックを少量と黒褐色土プロックを多く含む。
 37層 暗褐色砂質土層(10YR3/4) 黄褐色粒子を含む。
 38層 暗褐色砂質土層(10YR3/4) 褐色土パブロックと量と赤褐色粒子を僅かに含む。
 39層 暗褐色砂質土層(75YR2/3) 黒色土小プロックと褐色土小プロックを少量含む。
 40層 極暗褐色砂質土層(75YR2/3) 黒色土小プロックと褐色土小プロックを少量含む。

- 42層 監視色砂質土層(10YR2/3) 0.5cm~1cm大の碟と白色粒子を含む。ややしまりあり。
- 43層 暗褐色砂質土層(10YR3/4) 0.3cm~0.5cm大の礫を少量と、ローム粒および(10YR8/2)灰白色粒子を多く含む。



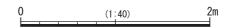
- 1号C-C'土層
- 2層 黒褐色砂質土層(7.5YR2/2) 粒子の粗い褐色砂質土を含む。しまりゆるい。



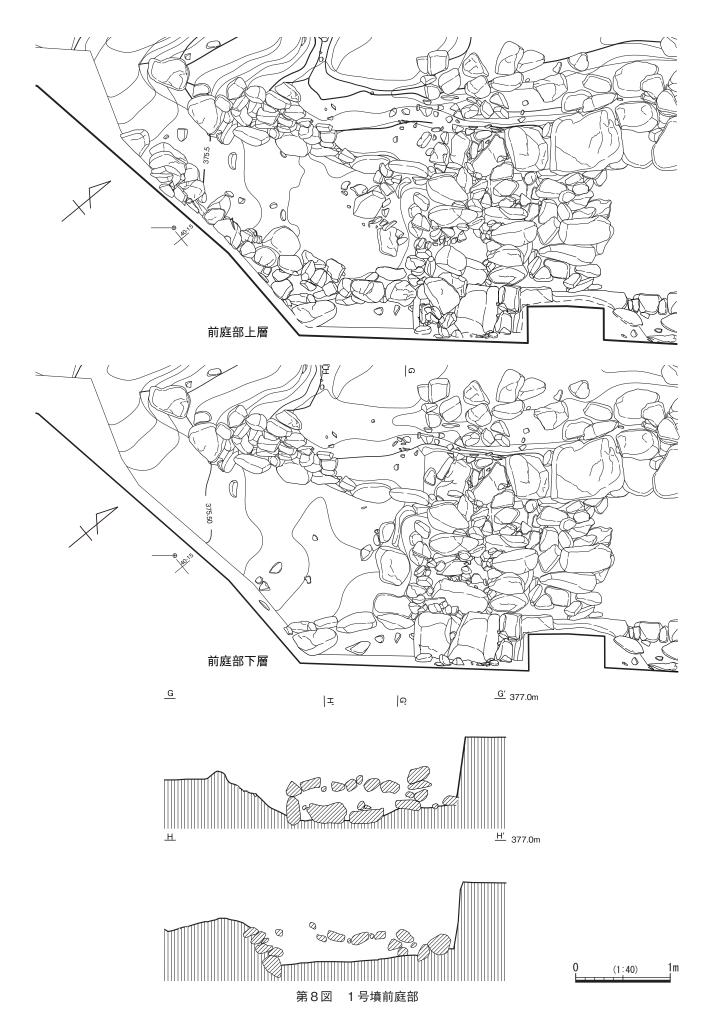
D' 377.0m

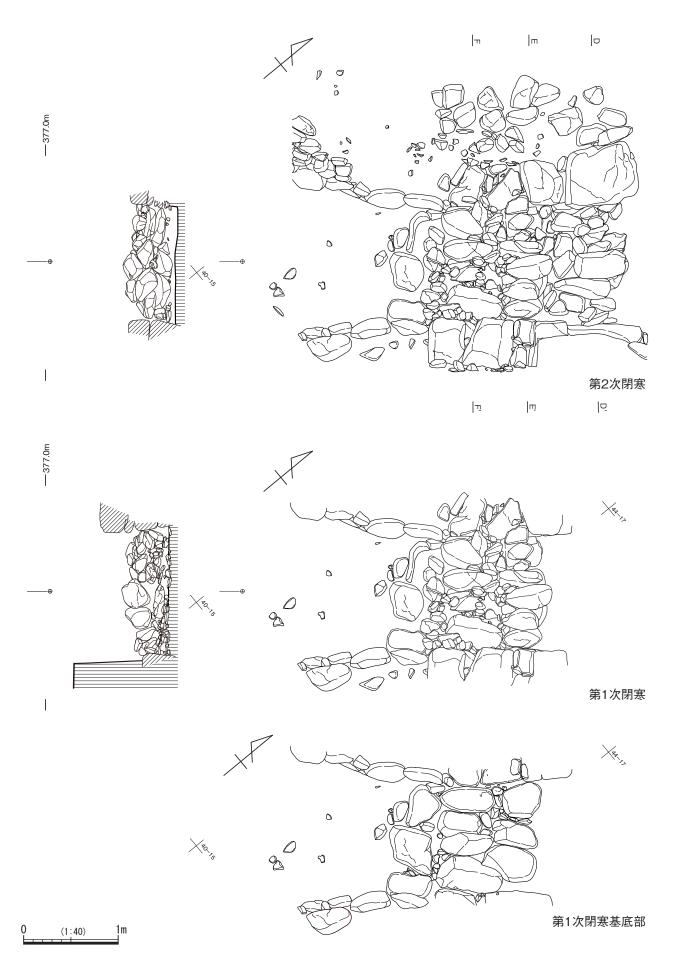
- 1号D-D'土層
 1層 黒褐色砂質土層(10YR2/3) 2~3cm大の碟を少量と白色粒子を僅かに含む。
 2層 黒褐色砂質土層(10YR2/3) 1~2cm大の碟を少量と暗褐色土ブロックを含む。
 3層 黒褐色砂質土層(10YR2/3) 褐色粒子を多く、黄褐色粒子を少量含む。
 4層 黒褐色砂質土層(10YR4/3) 極略褐色土小ブロックを多く、褐色土ブロックを少量含む。
 5層 褐色砂質土層(10YR4/6) 褐色土ブロックを少量と(10YR6/1)褐灰色土ブロックおよび白色粒子を含む。
 6層 褐色砂質土層(10YR4/6) 褐色土ブロックと層下部にやや粘性のある黒褐色土含む。
 7層 黒褐色砂質土層(10YR3/1) 課層。1~5cm大の礫と増化り、(10YR4/3)にぶい黄褐色粒子を多く含む。しまりゆるい。

- / 僧 黒陶巴砂貞工僧[IUYR3/1] 味噌。1~3cm人の味を非品・多く、(IUYR4/3)にあい 8層 暗褐色砂質土層[IUYR3/4] 褐色土小ブロックと白色粒子を多く含む。 10層 黒褐色砂質土層[IUYR3/2] 1~2cm大の礫を型と貴褐色粒子を僅かに含む。 11層 暗褐色砂質土層(IUYR3/2) 1~3cm大の咪と褐色土イブロックを少量を含む。 12層 暗褐色砂質土層(IUYR3/4) 2~3cm大の咪と褐色土小ブロックを少量含む。

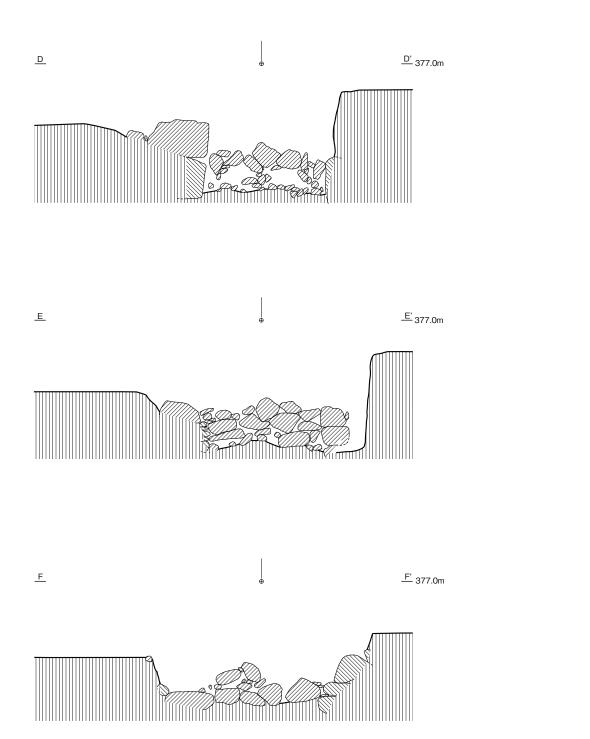


第7図 1号墳墳丘・周溝セクション図





第9図 1号墳閉塞石



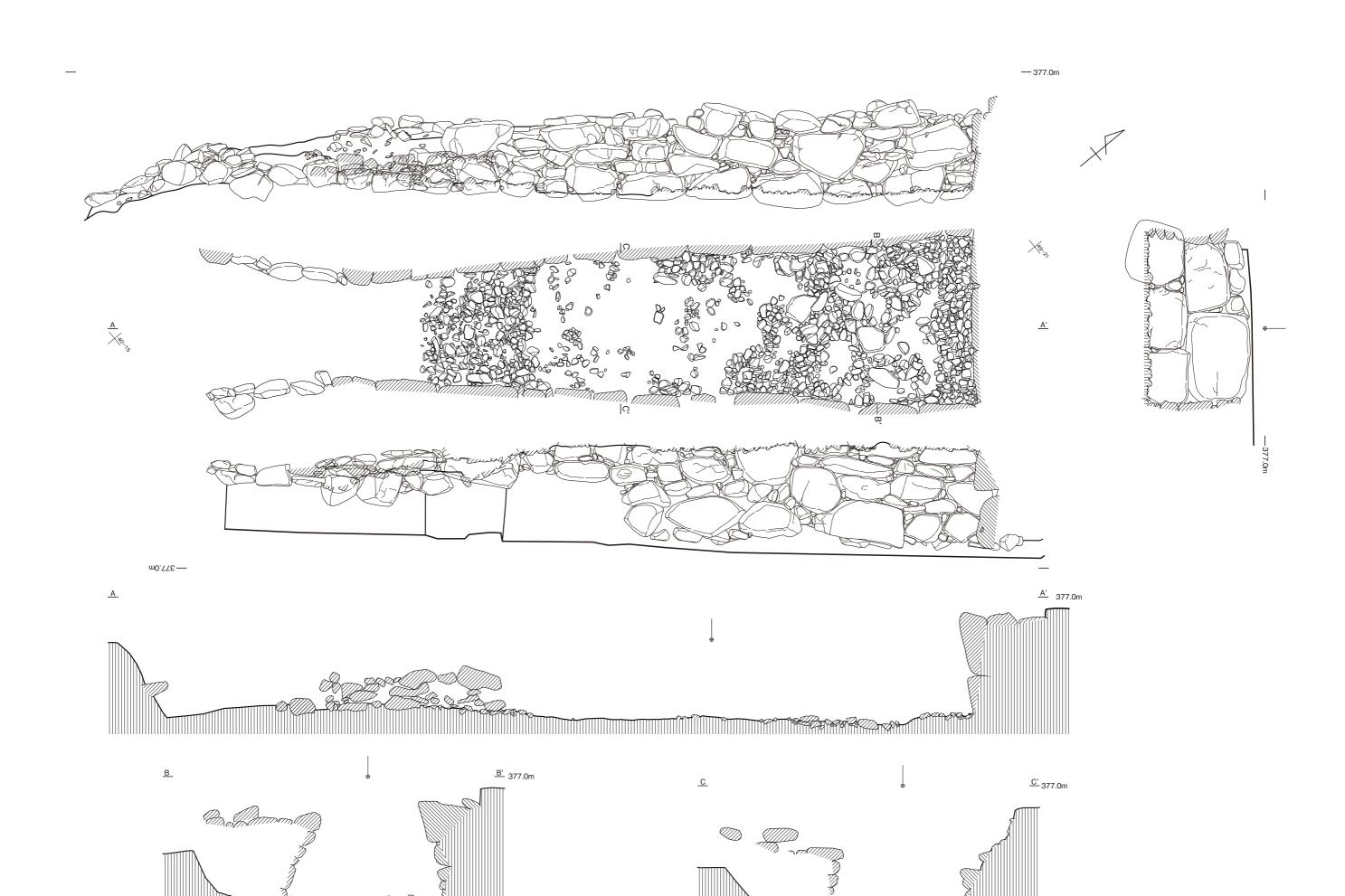
第10図 1号墳閉塞石断面図

1 m

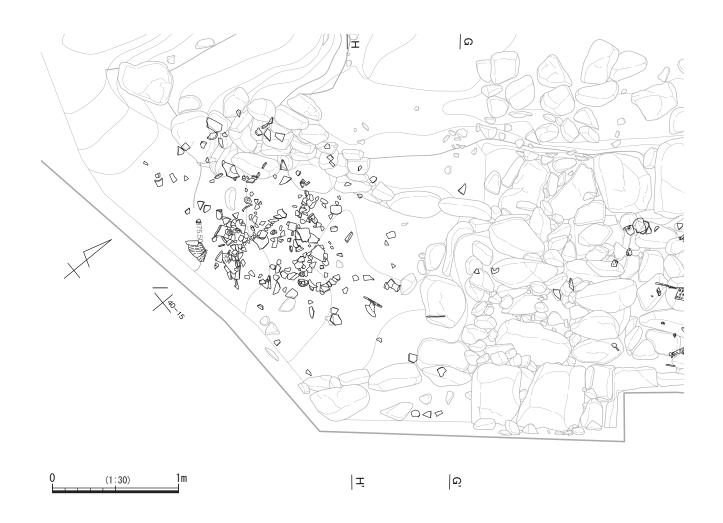
(1:40)

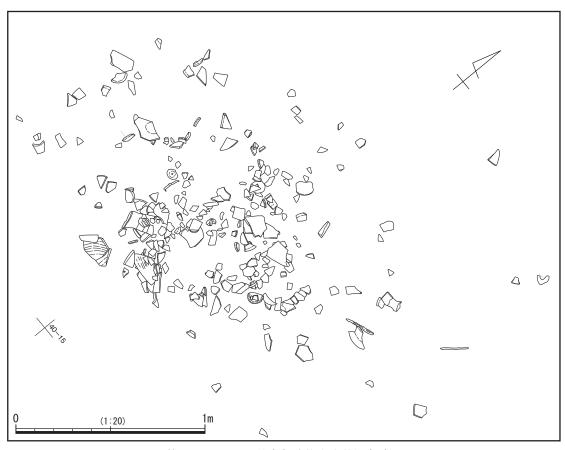


第11図 1号墳掘り方



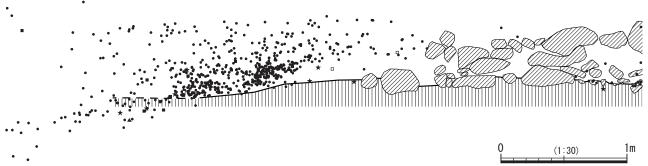
第12図 1号墳石室展開図



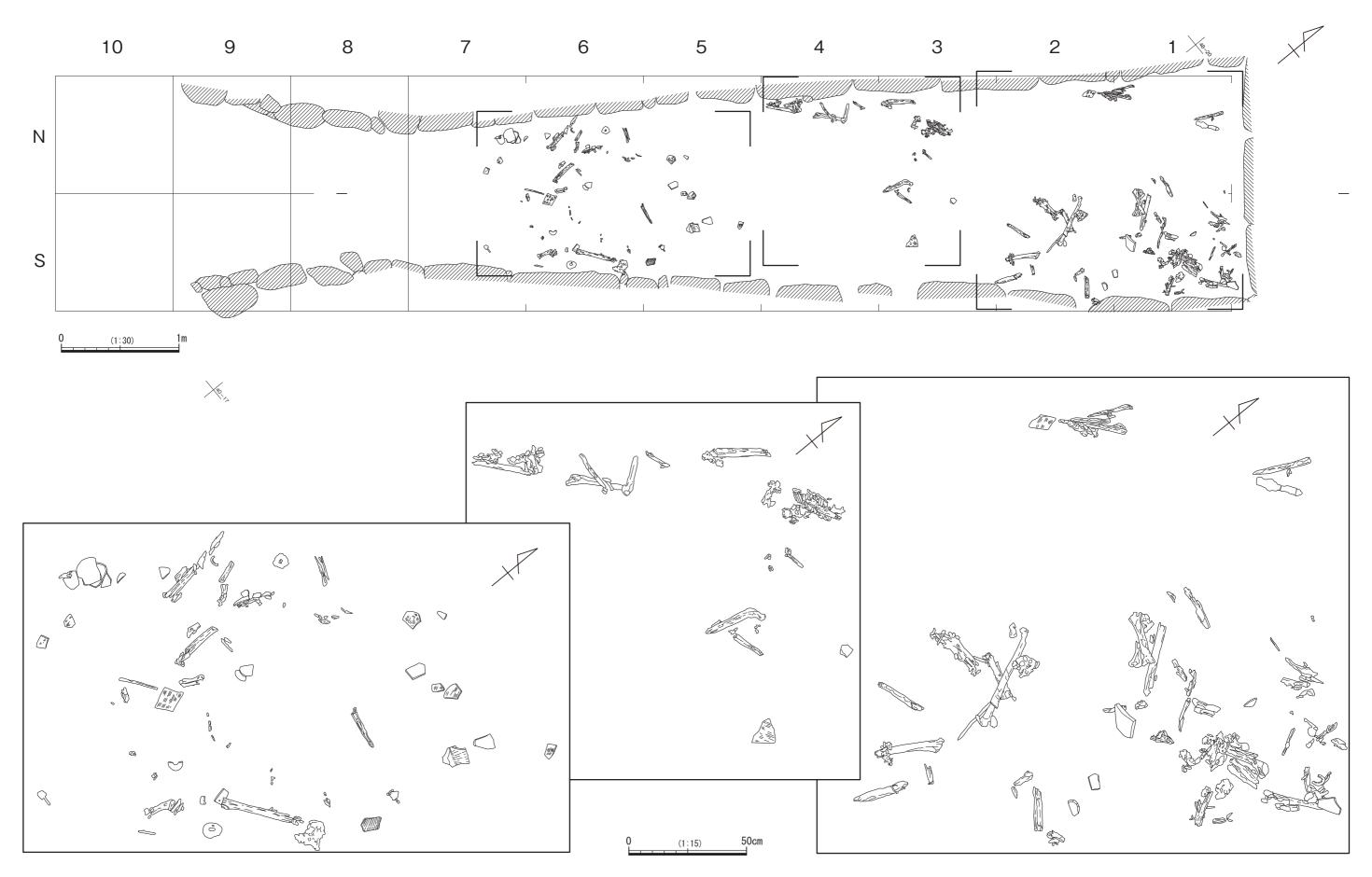


第13図 1号墳前庭部遺物出土状況(1)

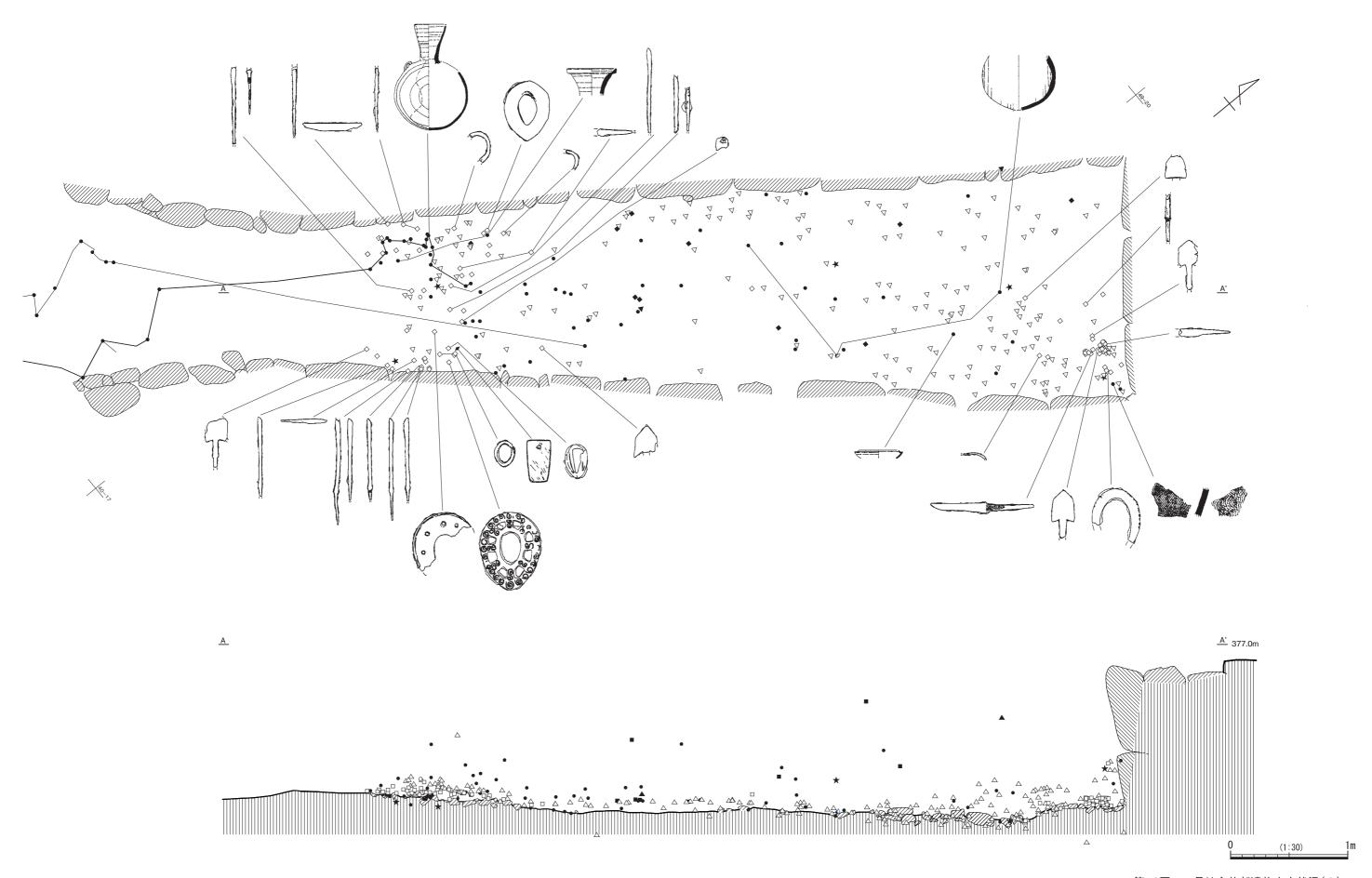




第14図 1号墳前庭部遺物出土状況(2)



第15図 1号墳主体部遺物出土状況(1)



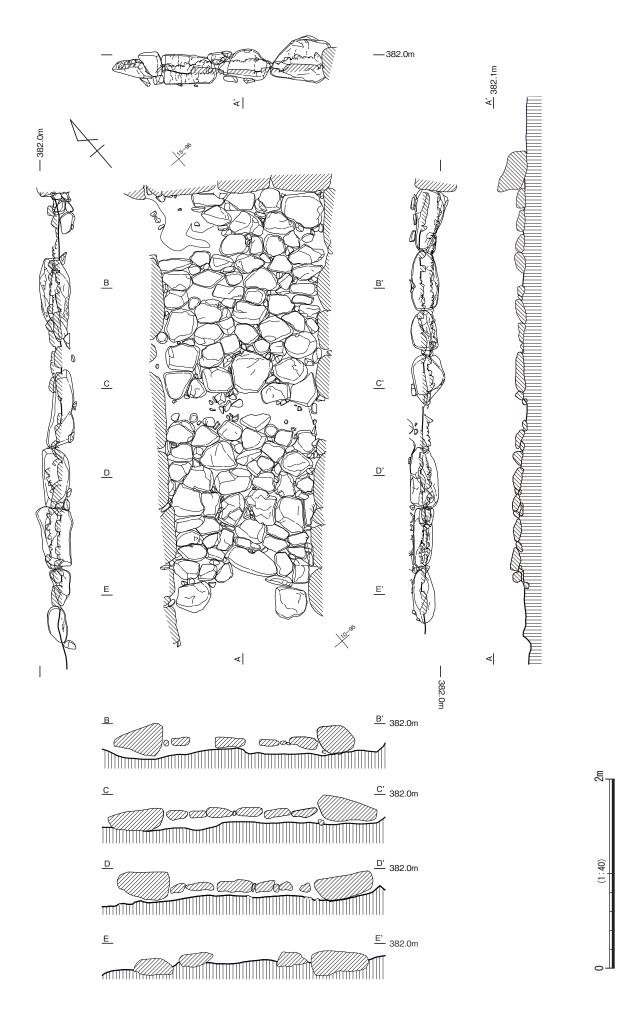
第16図 1号墳主体部遺物出土状況(2)

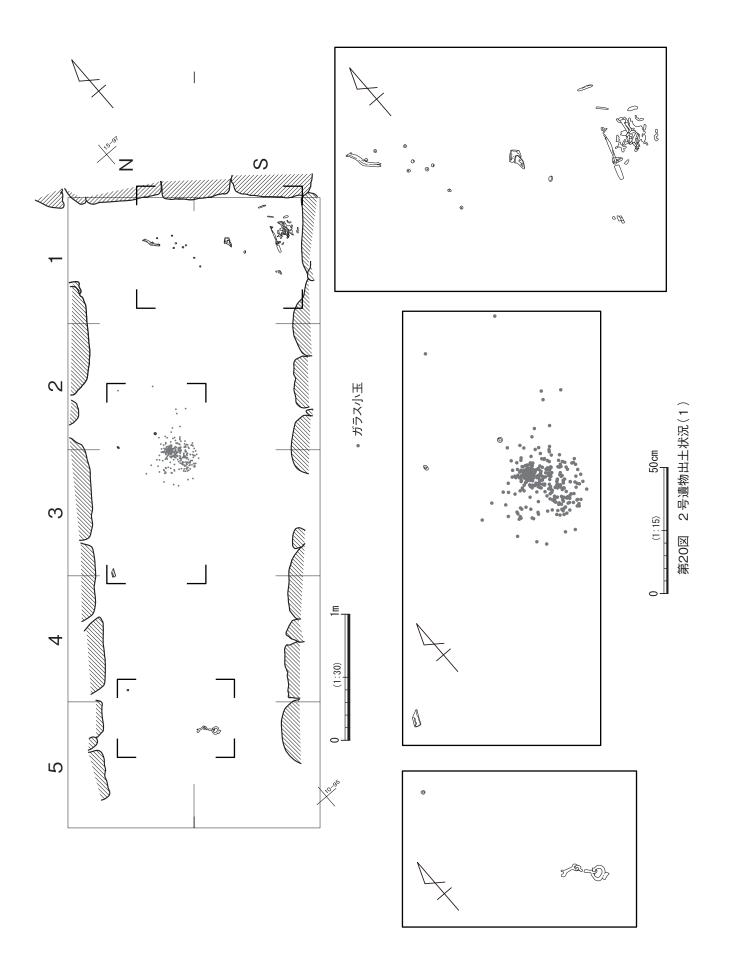
₽-

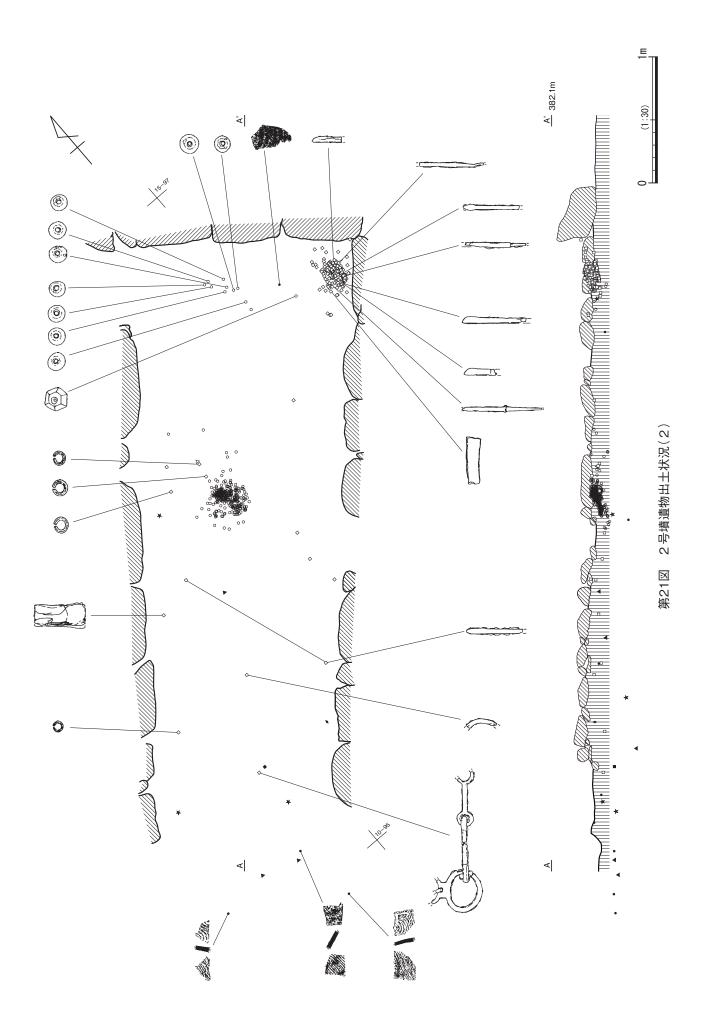
(1:80)



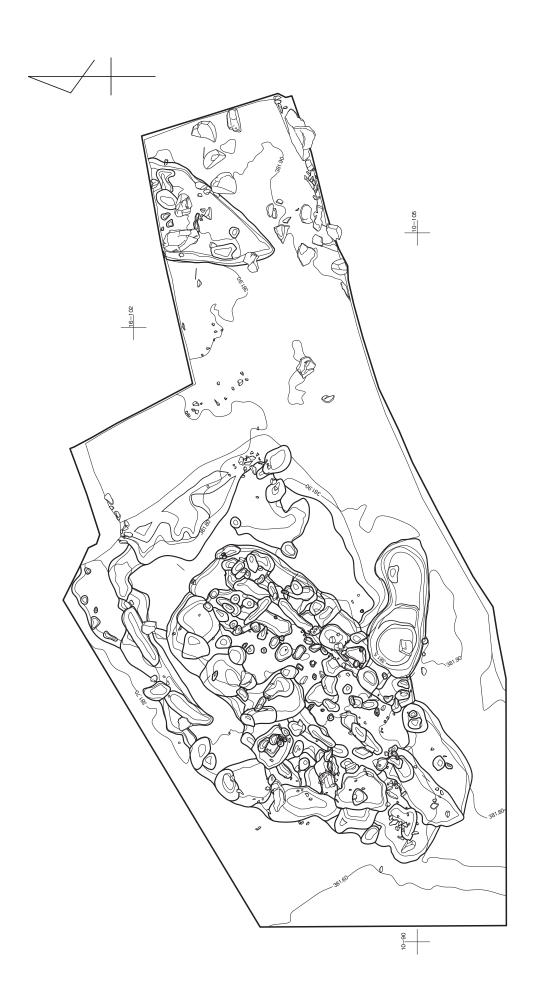


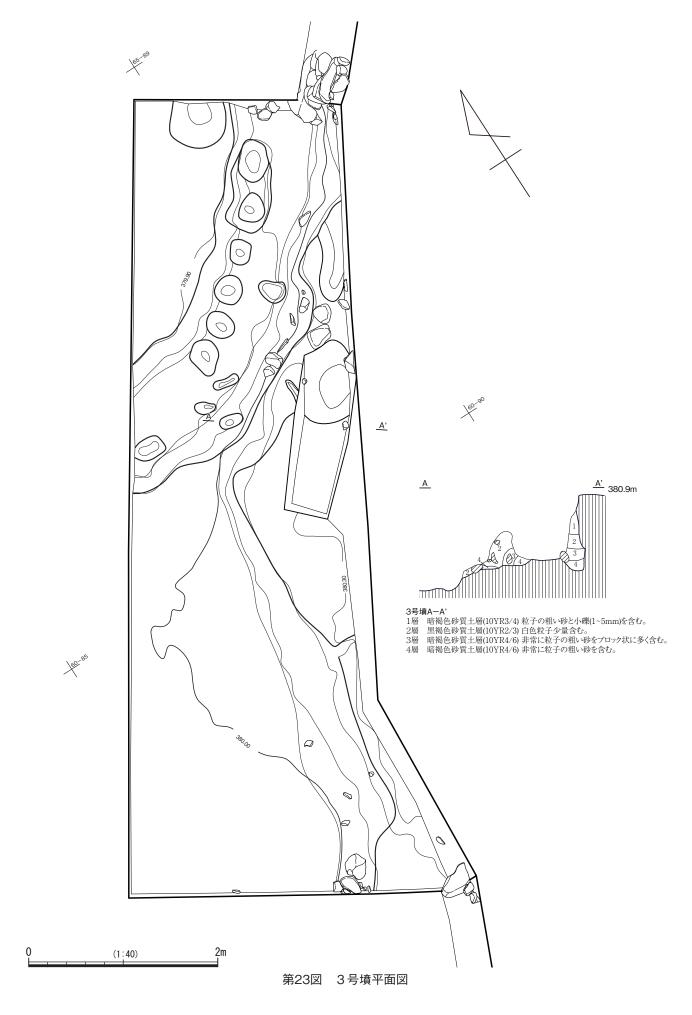




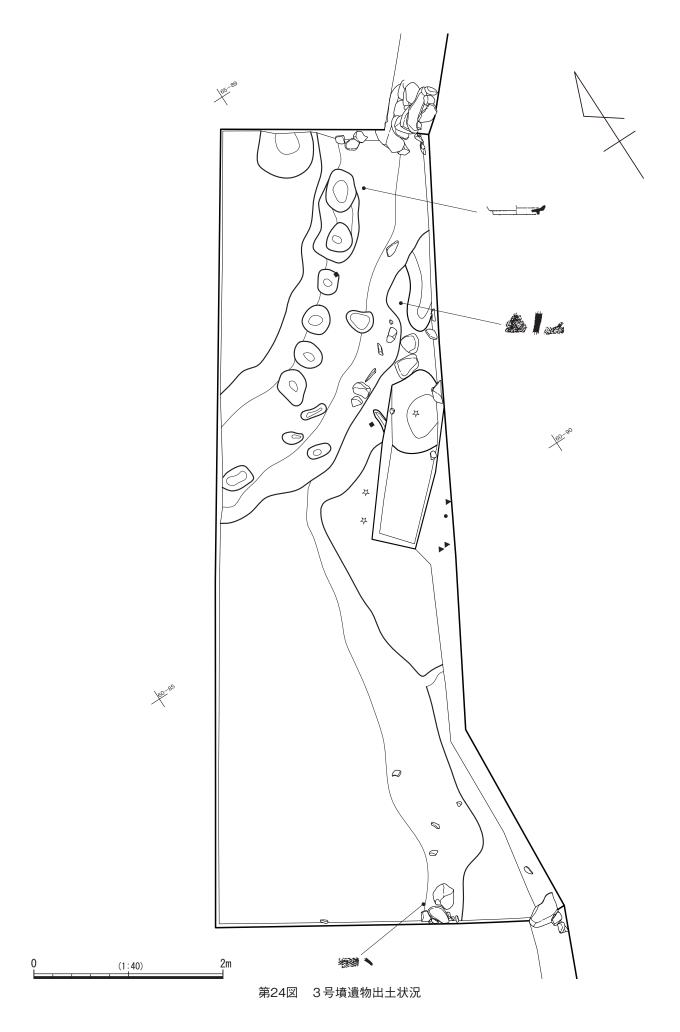


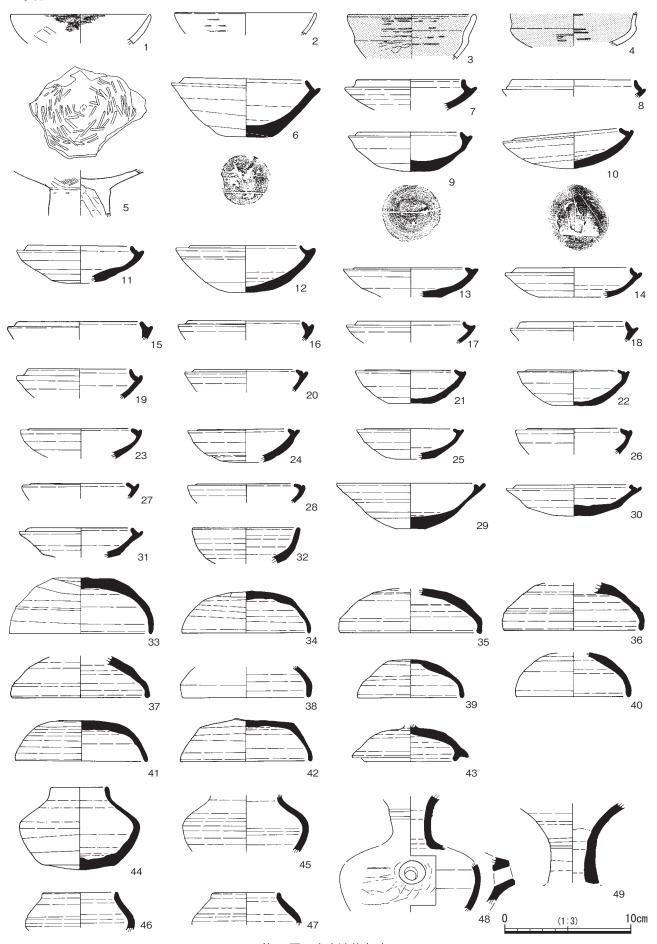
(1:80)



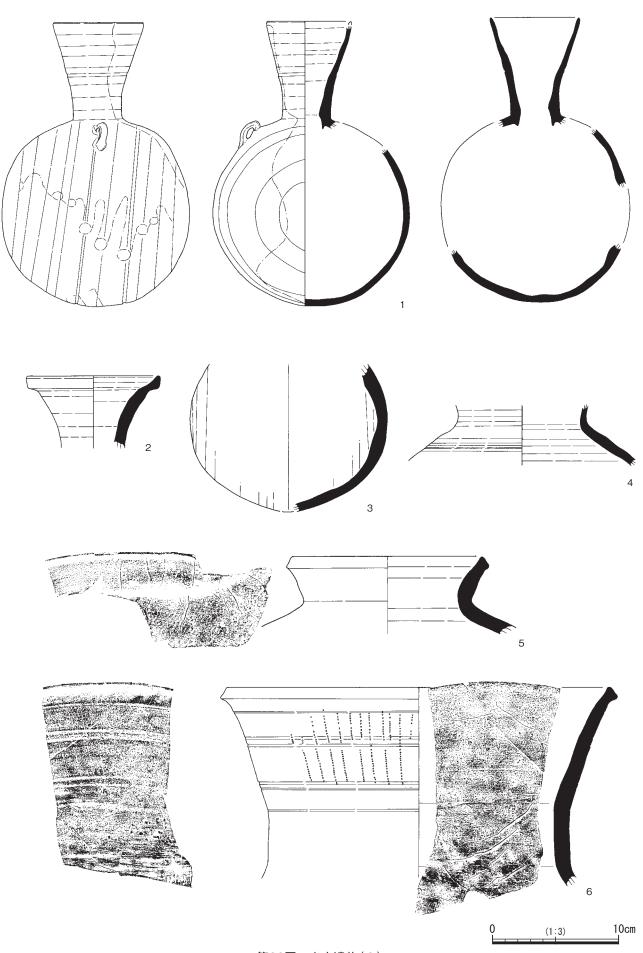


- 51 -

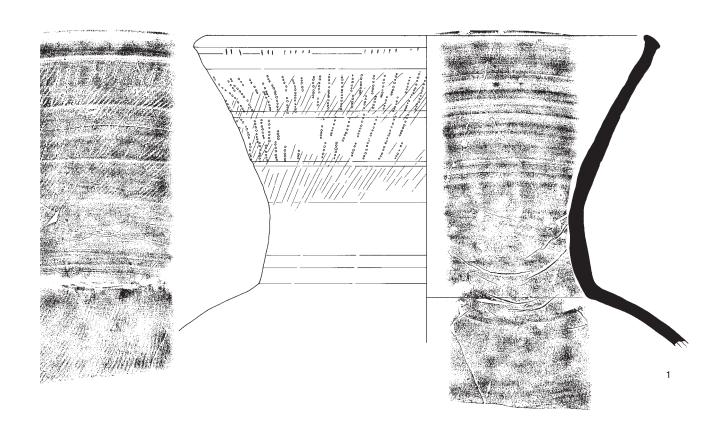


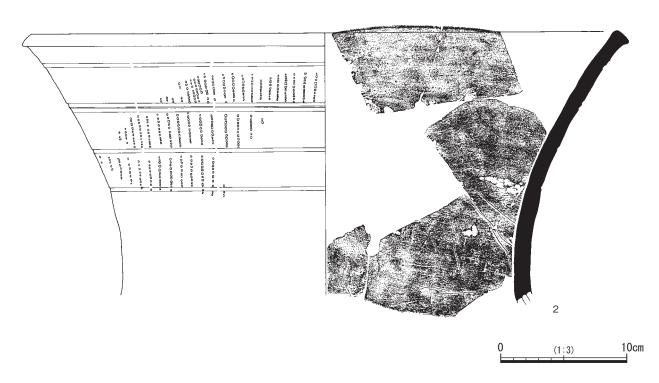


第25図 出土遺物(1)

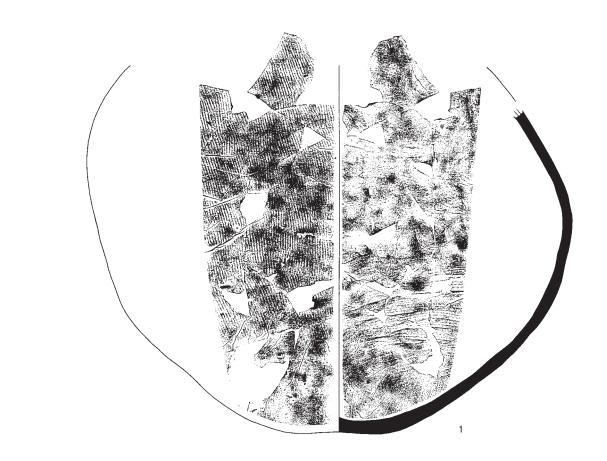


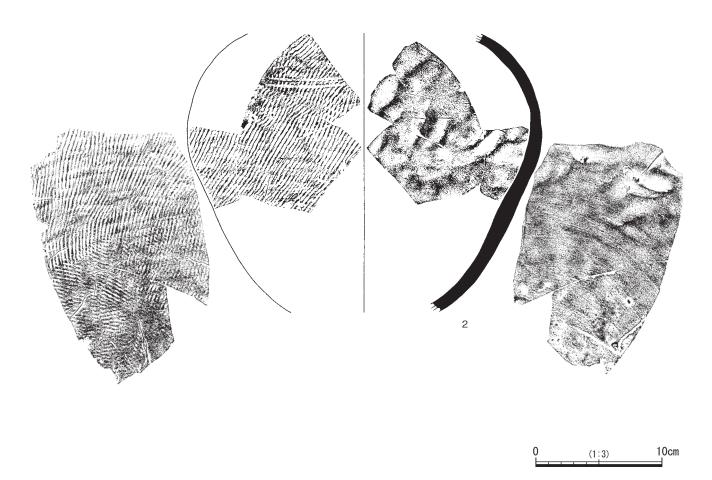
第26図 出土遺物(2)



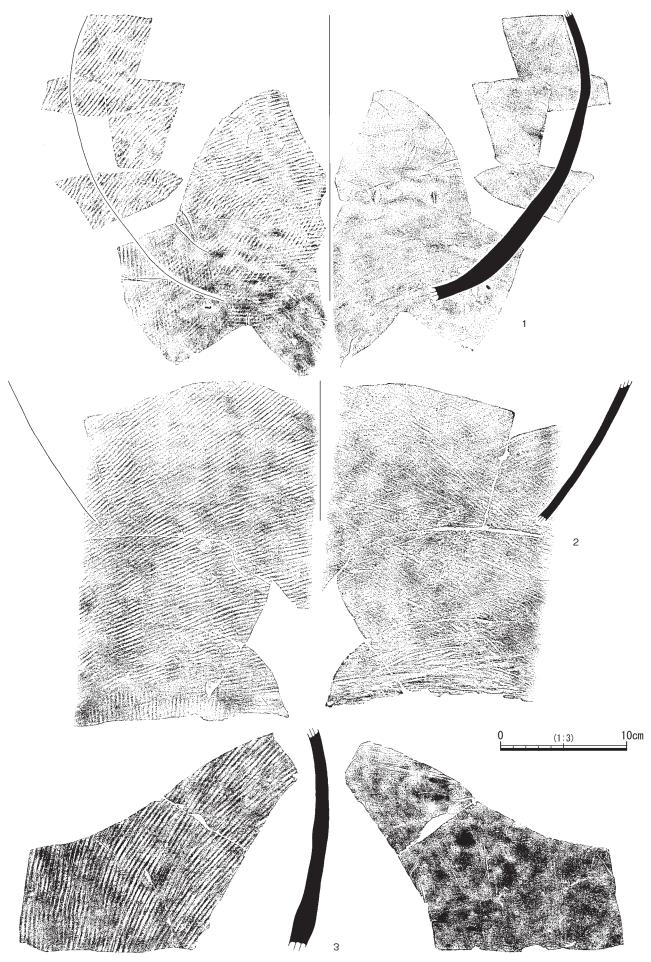


第27図 出土遺物(3)

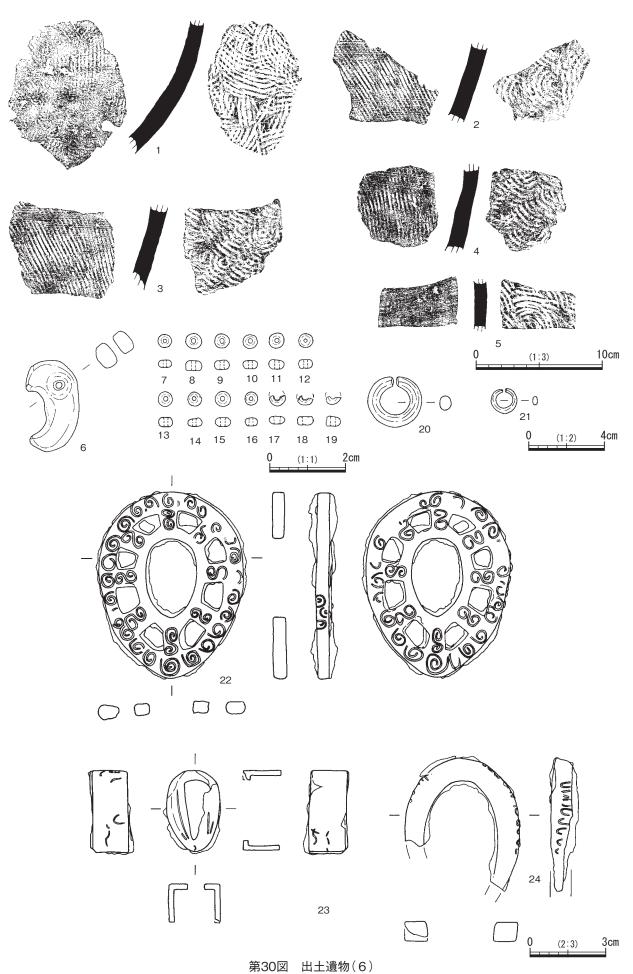


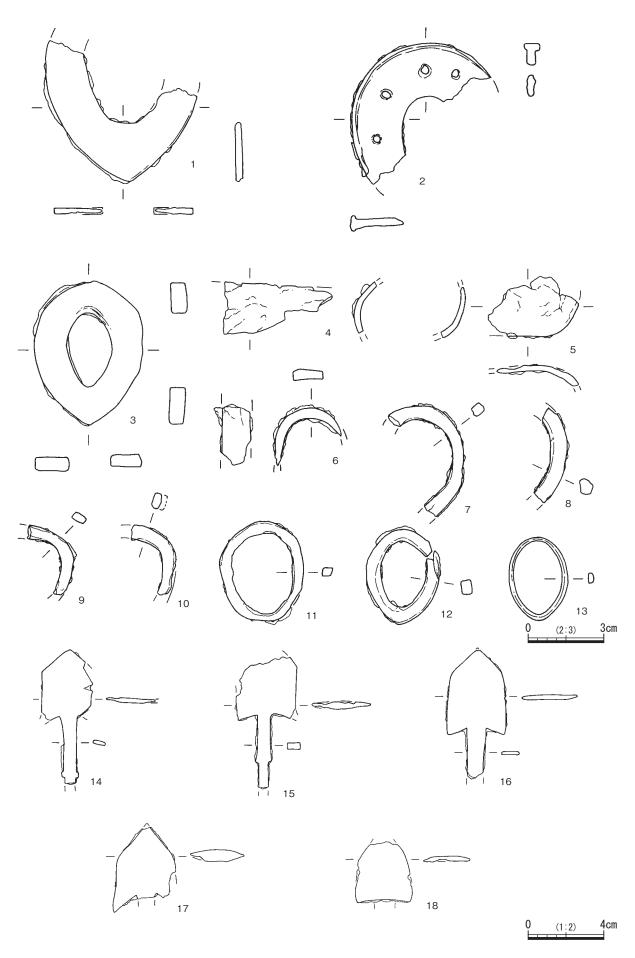


第28図 出土遺物(4)

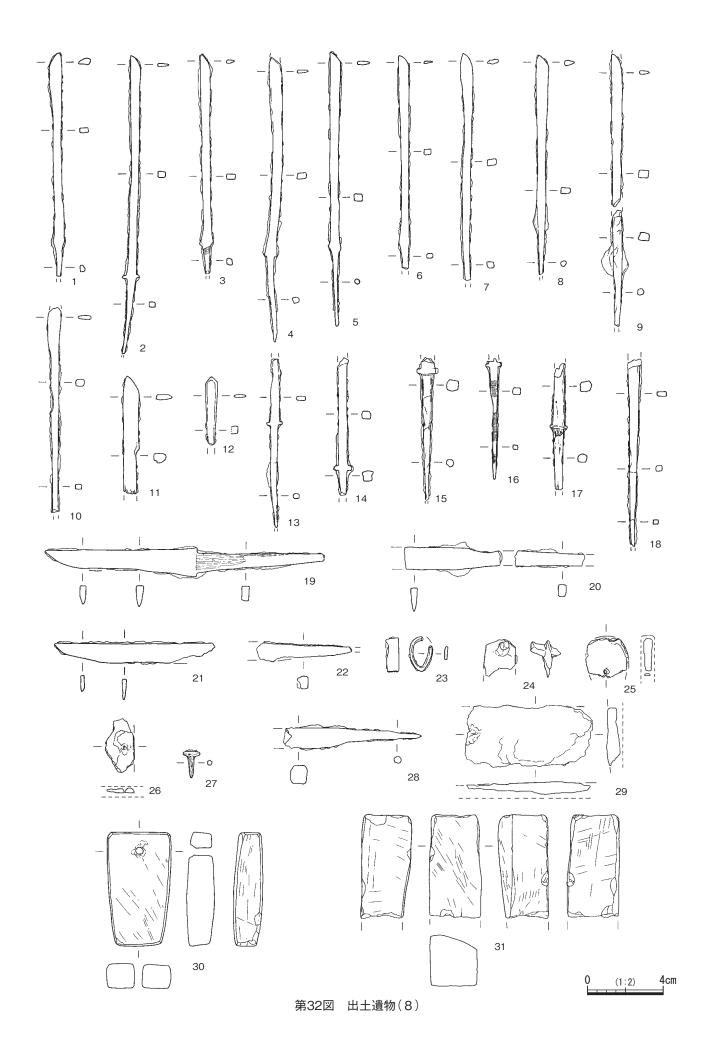


第29図 出土遺物(5)

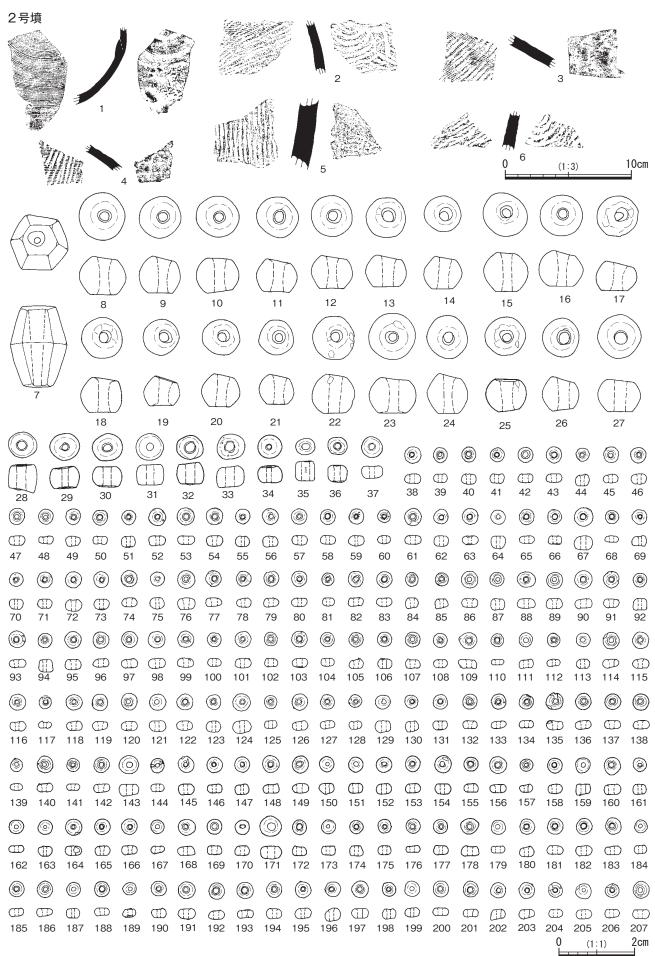




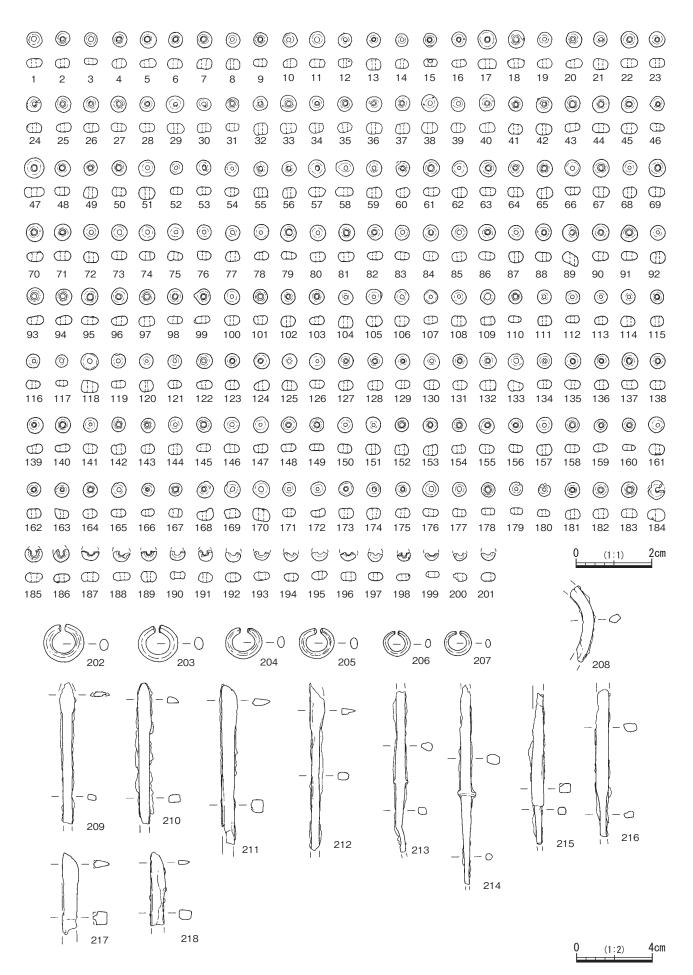
第31図 出土遺物(7)



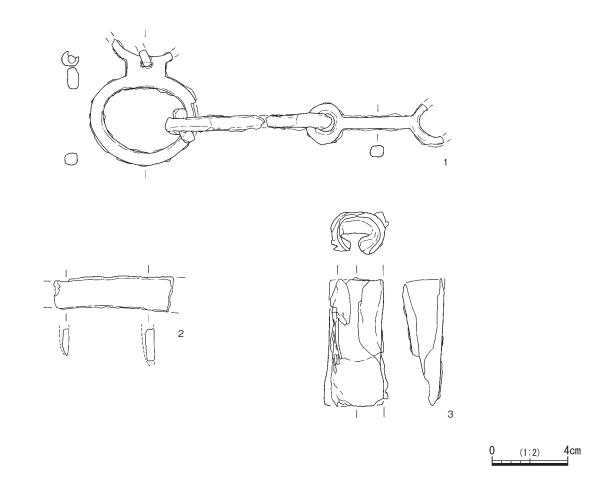
- 60 -



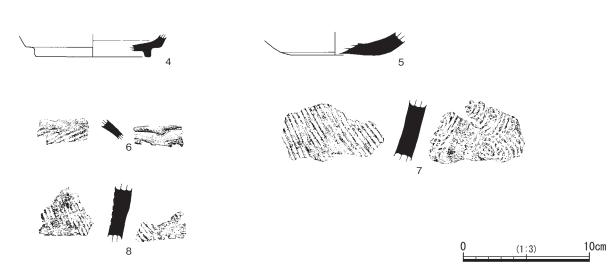
第33図 出土遺物(9)



第34図 出土遺物(10)



3号墳



第35図 出土遺物(11)

第4章 科学分析

第1節 竹居古墳群から出土したウマ遺体

植 月 学(山梨県立博物館)

1. 資料と方法

竹居古墳群1号墳の石室よりウマ1個体分の下顎骨が出土した。古墳は6世紀末~7世紀初頭の築造と考えられている。

下顎骨には M 3 を除く5 本の臼歯が植立している。骨の遺存状況は不良で、臼歯周辺部のみ現存する。特に舌側の風化が進む。臼歯はセメント質が遺存している部分も多く、比較的残りは良い。取り上げに際して補強のために樹脂(パラロイド B72)が塗布されていたが、計測のために、臼歯咬合面のみアセトンを使用して土を除去して露出させた。

計測は臼歯エナメル質の長さ、幅と高さを計測した。歯冠高は中心、および頬側と舌側を計測したが、顎骨に植立していることにより計測できなかった場合もある。歯冠高をもとに西中川・松元(1991)の推定式を用いて年齢推定をおこなった。推定には中心高を用い、計測できなかった場合は頬側や舌側を用いた。

なお、横穴式石室のため後世の資料が混入している可能性も排除できないとのことであったので、金沢大学覚張隆史氏に依頼して年代測定を試みた。臼歯の象牙質よりコラーゲンを抽出したが、測定に必要な量を得ることができなかった。

2. 結果

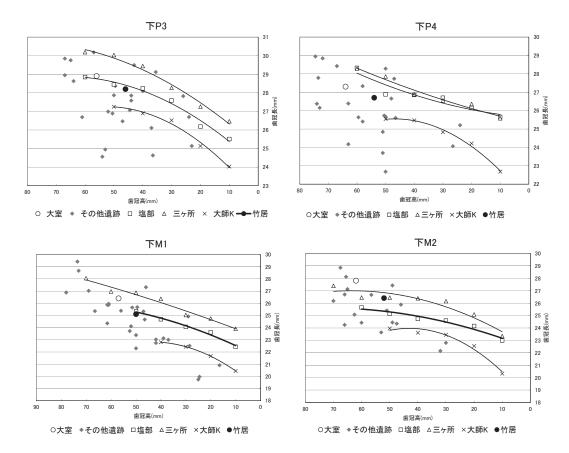
下顎骨は右側のみが出土した。P2 から M3 までの6本の臼歯すべてが残っている。推定年齢は歯種によりばらつきがあるが、おおむね7歳前後の個体と推定される。次に馬歯の大きさについて検討する。馬歯は加齢とともに大きさを減じる(植月 2011)。ここでは加齢の影響も考慮し、歯冠長と歯冠高のグラフにプロットした。筆者がこれまでに計測した東日本の古墳から中世馬の計測値と比較すると、おおむね中位の大きさに相当する。M2 はやや大形だが、その他3 歯種は同じ古墳時代に属する甲府市塩部遺跡の馬に近い(第36図)。中世遺跡の基準3標本の平均的な変化曲線との偏差により求めたLSI(Log Size Index)の値は4歯種の平均で0.007となり、平均をやや下回るサイズである。やはり塩部遺跡(0.008)に近く、東日本では最大級に属する長野市大室古墳群出土馬(0.022)よりはかなり小さい。

3. 考察

本墳から出土した馬歯は約7歳の個体のもので、比較的若い個体が埋葬(もしくは供犠)されるという古墳時代の一般的な傾向に合致する(植月2013)。歯の大きさは東日本の古墳~中世馬の平均よりやや小さかった。ただ、古墳時代でも大室古墳群のように大形の例もあれば、甲府市塩部遺跡のように平均的な例もある。馬歯の属性のみから時代を決定することはできない。本標本の遺存状態からすれば、左の下顎や上顎の歯が残っていないのは不自然である。また、共伴している人骨も遺存状態は不良だが、主要な四肢骨が同定できる程度には残っており、より大形の馬骨が完全に消滅することは考えにくい。したがって、元来ウマー体分が葬られたとは考えにくく、意図的な供儀のような状況を想定することは難しい。もっとも、人骨とされた標本の中に馬骨が混ざっている可能性もあり、今後精査する必要がある。

第6表 馬歯計測結果(mm)

	歯冠長	歯冠幅	_语 歯冠高			推定年齢	LSI
歯種	图心文	图 心 旧	舌側	中心	頬側	推進十脚	LSI
P2	32.3	14.4	植立	29	28	9.7	_
P3	28.2±	15.4	植立	46	植立	7.3	-0.002
P4	26.7	14.9	54	54	植立	6.2	-0.001
M1	25.1	13.9	植立	50±	植立	7.2	0.004
M2	26.4	破損	50	52	51	7.5	0.026
M3	30.3	13.4	52	54	植立	7.3	_
				平均		7.5	0.007
				標準偏差		1.16	0.0128



第36図 ウマの歯冠長・歯冠高の比較

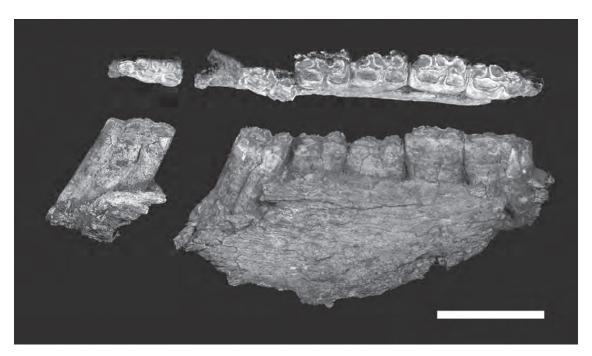
今回の分析結果からは馬歯が古墳時代に属するものである可能性は否定できないが、少なくとも本墳を築造した人々が意図的に馬骨を石室内に持ち込んだ痕跡は認めがたい。

引用文献

植月 学 2011「出土馬歯計測値の比較のための基礎的研究」『動物考古学』28:1-22

植月 学 2013「甲斐周辺における馬埋葬と頭骨埋納」『山梨県考古学協会誌』22:170-182

西中川 駿・松元光春 1991 「遺跡出土骨同定のための基礎的研究―とくに在来種および現代種の骨、歯の計測値の比較」『古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究』科学研究費成果報告書 pp.164-188



第37図 ウマ右下顎骨咬合面(上)と頬側面(下) 左よりM3,M2,M1,P4,P3,P2。スケールは5cm

第5章 総 括

第1節 竹居1~3号墳の築造年代

今回の発掘調査では、竹居古墳群のうち3基の古墳の調査を実施した。ここでは、それぞれの古墳について、出土遺物から年代を考えてみたい。

1号墳では、前庭部や墳丘をとりまく畑境の石垣裏込めより多量の須恵器が出土した。須恵器のうち、比較的変化が捉えやすい坏身・坏蓋を中心に分類とその編年的位置づけを試みたい。

本報告において図示した坏身は28点であるが、そのうち、かえりを有するもの27点、かえりを有さないもの1点である。

前者は、器径ならびにたちあがりや受部の形状から6種類に分類可能である。

第 38 図 $6 \sim 8$ は、器径 $10.6 \sim 11.3$ cmを測り、たちあがりも受部より $0.48 \sim 0.78$ cmほど突出している。同 $7 \cdot 8$ は、たちあがりも高く端部は直立傾向を示すが、同 6 は立ち上がりもやや小さく内傾しており、やや新相を呈する。これらのことから、前者を坏身 I 類、後者を坏身 I 類とする。

同 $9 \sim 12 \cdot 14$ は、第 I 類より概して小ぶりで、器径が 11.0cmとなるものもみられるが、多くは $9.7 \sim 10.8$ cmのもので、たちあがりはやや内傾し、受部より $2 \sim 3$ mm程度受部端より突出するものを一括する(坏身 II 類)。

同 $21 \sim 24$ は、かなり小形化しており、器径が 10cm以下となるものである。また、たちあがりはほぼ水平に延び内彎するものが多く、受部端より若干突出するかほぼ同じ高さになる(坏身IV類)。

同 $30\cdot 31$ は、坏身 \mathbb{N} 類よりやや大形であり、器径が 10cm前後となる。たちあがりは、斜め上方に立ち上がり、受部端より $2\sim 3$ mm突出する。腰には屈折部をもつ(坏身 \mathbb{N} 類)。

同29は、小さな底部から直線的に広がる口縁部をもつ。器径は大きく、11.7cmを測る。たちあがりは、 わずかに認められるだけで、受部端より突出しない(坏身VI類)。

同32は、かえりをもたな坏身である(坏身Ⅷ類)。

坏蓋も形態やかえりの有無によって数種類に分けることができる。同 33 は、半球形を呈し器径は 11.2cm と大きく、器高も高いものである (坏蓋Ⅱ類)。

同 $34 \sim 36$ は、坏蓋 II 類に比して、口径はほぼ同じであるが、器高が低くなりやや扁平なプロポーションを呈する。ただし、同 $35 \cdot 36$ は沈線文をもち、口縁部付近で垂直に垂下ししており、器径が小さくなる同 34 とは違いも認められる(坏蓋 II 類)。

同 39・40 は、器径が小さくなり、9 cm前後となる。器径に比して器高は高いが、天井部は小さくなる(坏 蓋 \mathbb{N} 類)。

同42は平坦な天井部から明瞭な屈折部をもち、口縁へと至るプロポーションを呈する(坏蓋 V類)。

同41は、扁平な半球形の体部をもち、口縁部は外反したまま終息する(坏蓋VI類)。

同43は、つまみをもつかえり蓋である(坏蓋Ⅷ類)。

坏身 I 類と II 類は先に触れたように I 類が古相を呈するが、それほどの時間差はないのかもしれない。これらに伴う坏蓋は II 類とした、器高が高く半球形の体部になるものであろう。

坏身Ⅲ類としたものには、器径にやや差異が認められるが、坏蓋Ⅲ類にも同様に器径の異なるものが存在することから、両者は伴うものと考えて良いであろう。

坏身Ⅳ類とした小ぶりな坏身には、同様に小ぶりな坏蓋Ⅳ類があり、両者の胎土が良く似ている。

坏身 V 類と組み合わせられるのは、坏蓋 V 類である。蓋・身ともに腰折れになる点が共通している。同 31 の坏身と同 42 の坏蓋は色調や焼成が類似しており、セットを成すものであろう。

坏身Ⅵ類としたものは、たちあがりをほとんど持たないものであり、大きさ的にも坏蓋Ⅵ類とセットになるものであろう。

坏身™類は、1号墳からの出土はほとんどみられず、かえりの付く坏蓋も1点のみ確認されただけである。

1号墳から出土した須恵器は、ほとんどが湖西産であり、提瓶が唯一猿投窯産であることから、遠江編年(山村ほか1966・鈴木2001)を用いて古墳の年代を考えてみたい。

坏身・坏蓋Ⅰ・Ⅱ類は、それほど時間差を考えることはできず、ほぼ同時期と考えてもよいであろう。これらの特徴をもつものは、遠江Ⅲ期後段階とされる時期に近いものと思われる。坏・蓋のⅢ類は、遠江Ⅲ期末段階、坏身・坏蓋のⅣ類とした小ぶりのタイプは、遠江Ⅳ期前段階に類例が多くみられる。坏身・坏蓋のⅤ類およびかえりが極端に縮小したⅥ類は、遠江Ⅳ期後段階にみられる。坏身と坏蓋が逆転した返り蓋と碗となるⅧ類の例は、遠江ではⅣ期前段階よりみられ、器径や器径に比して蓋の器高が高いことなどから、遠江Ⅳ期前段階のものとして考えておきたい。

遠江Ⅲ期後段階は6世紀末から7世紀初頭、 Ⅲ期末段階は7世紀前葉、Ⅳ期前段階は7世紀 中葉、Ⅳ期後段階は7世紀後葉にそれぞれ比定 されるものだと考えられる。

よって、1号墳の築造を6世紀末から7世紀初頭と考えたいが、坏身・坏蓋I・II類の出土量はきわめて少なく、7世紀前半の築造の可能性も高い。その後の多くの須恵器は、追葬ないし墓前祭祀によってもたらされたものである、7世紀後葉まで追葬が行われていたものと考えられる。

2号墳からは、装身具類(金環・切子玉・丸 玉・ガラス小玉)、工具(鉄斧)、馬具(轡)須 恵器が出土している。前庭部が削平されている ため、土器類の出土はほとんどなく、年代を決 定する資料は出土していない。石室内より発見

	坏 身	坏 蓋
I 類	8	
II 類	6	33
Ⅲ	9 10 11	34
	12	35
類	24	39
V 類	31	42
VI 類	29	41
VII 類	32	43 と対応する。

遺物番号は遺物図版番号と対応する。

第38図 竹居 1 号墳出土須恵器分類表

された轡は、鉸具立聞素環鏡板付轡であるが、おおよそ6世紀後半から7世紀後半代までみられる形態であるが、立聞に比べ鏡板が小さいことから、7世紀前半段階のものと考えられる。その他に2号墳の築造年代を推定するような資料はないことから、2号墳を7世紀前半の築造と考えておきたい。

3号墳からは、調査区内からの遺物の出土はわずかで、周辺から数点の須恵器片が採取されている。高台付坏(第35図4)は8世紀代になってからのものである。甕の破片には1・2号墳で出土している内面に青海波文を残したものがみられることから、1・2号墳に近い時期と考えることもできるが、古墳墳端かどうか断定できないため、ここでは3号墳の存在、時期を保留とする。

3基の古墳から出土した須恵器のうち、ほとんどのものは湖西産である。これは、笛吹市長田1号墳の様相とは異なるものである(笛吹市教育委員会 2014)。これは、長田1号墳が6世紀中頃の築造であるのに対し、調査された古墳が6世末から7世紀初頭に築造されたことによるものだと考えられる。おそら、6世紀末以降、湖西産須恵器が山梨県内へ大量に流通するという現象があったことが想定される。

その中にあって、胎土中に花崗岩類を多く、緑色変質火山岩類も含有する甕が数点みられる。この須恵器は、1号墳ばかりではなく、2・3号墳からも採集されている(第33図5・6、第35図7)。外面は並行タタキメ痕を内面には青海波文を明瞭に残している。焼成もややあまく、外面には無数の亀裂が確認できるやや粗悪品といえるものである。広く流通したものと考えるよりも、限定的に流通したものと考えられるものである。

山梨県は、古墳時代において窯業生産が低調な地域であり、窯跡は、笛吹市境川町に6カ所ほどが知られるのみであり(境川村1977・橋本1979)、その生産はきわめて限定的である。そのうち、出土遺物が明確なのは牛居沢窯跡、下向窯跡である。下向窯の製品は採集品が数点知られるだけであり、その様相は明らかではないが、TK209 段階の須恵器が確認されている。時期的にみれば近似した時期と考えることもできるが、本古墳群出土須恵器のような特徴をもつ遺物は出土していないようである。また、牛居沢窯跡は、発掘調査が実施され、7世紀後半代を中心とした窯跡が3基確認されている(山梨県教育委員会1990b)。発掘資料の中には、本古墳群出土の甕の特徴を有したような資料は確認できなかった。須恵器甕の胎土中に含有する花崗岩類、緑色変質火山岩類は、境川・八代地域が母岩地域であることから、この周辺において焼成・供給された可能性が指摘できる。

註

- (1) 浜松市博物館鈴木敏則氏のご教示による。
- (2) 新潟大学橋本博文氏、笛吹市教育委員会野崎進氏のご教示による。
- (3) 山梨県立考古博物館のご配慮により実見。

第2節 象嵌鍔について

竹居1号墳からは、4点の鍔が出土している。八窓の象嵌鍔、多円孔鍔、無窓鍔、小形無窓鍔である。また、刀装具として象嵌をもつ鎺、切羽などもみられる。

おそらく、八窓象嵌鍔、象嵌をもつ鎺、切羽がセットとなるものであり、八窓象嵌鍔・円孔鍔・無窓鍔を装着した太刀3振、小形の無窓鍔を装着した小刀1振分が副葬されていたものとみてよい。

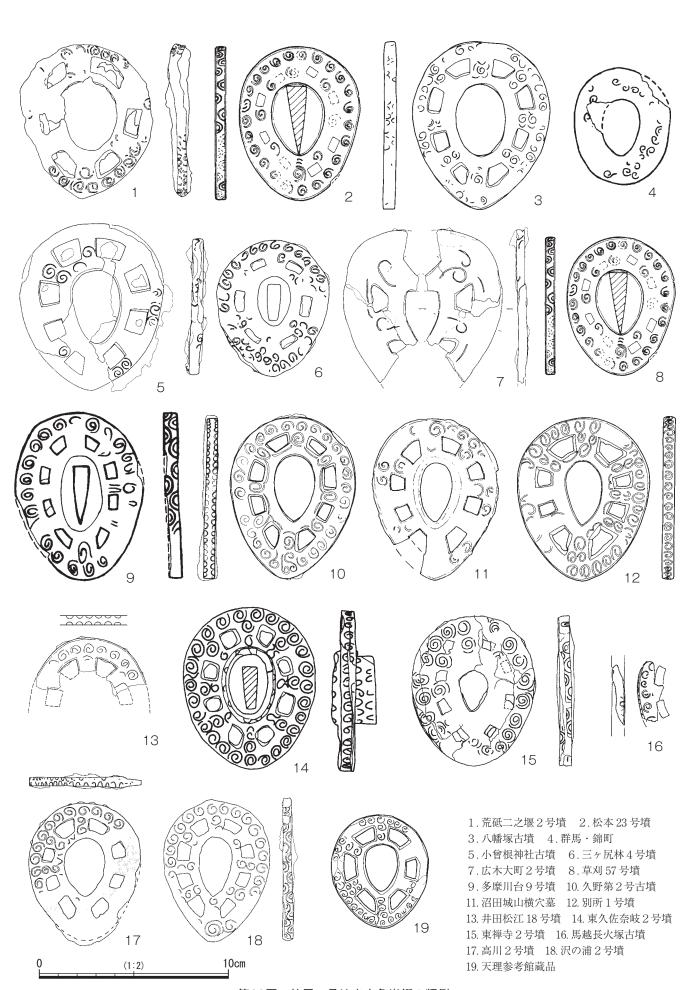
ここでは、象嵌装大刀に絞って位置づけを行ってみたい。

鍔の面に施される象嵌については、橋本博文氏の研究がある(橋本 1993)。橋本氏は、象嵌文様の系列を 唐草文様系列、C字文系列、ハート形文系列、渦文系列の4系列に分類し、それぞれの系列を5段階に分け、 変遷を明らかにしている。

竹居1号墳から出土した象嵌鍔は、面の外縁部に右巻きを主体とした渦巻文を巡らせ、八窓の透し孔間に は渦巻文が連結したS字状の文様を配している。

橋本氏の研究によれば、渦文系列は、C字文系列から6世紀第4四半期(第3段階)に分派して出現したとされる。第3段階の事例として天理参考館蔵例(第39図19)を、第4段階の事例として東禅寺2号墳例(同15)を、第5段階の事例として群馬・錦町(綜桐生市2号墳)(同4)例を挙げている。

天理参考館蔵例は面の縁辺にの字状の渦巻文を巡らせ、透し孔間に2~4個の渦文を配しているが、縁取りがないことから新相としている。東禅寺2号墳例は、八窓の透し孔が縮小、縁部および透し孔間の渦文は大きくなる。綜桐生市2号墳例は、小形の無窓鍔で渦巻文の配列に規則性はみられなくなる。渦巻文系列は、「新しくなるにつれ、透し孔間に充填される文様帯は大降りになり、かつ少なくなる傾向がある」と指摘される。



第39図 竹居1号墳出土象嵌鍔の類例

竹居1号墳の象嵌鍔は、台形の八窓の透し孔を穿ち、面の縁部に右巻きを主体とする渦巻文をもち、透し孔間には渦巻文が連結したものを1単位ずつ配して、側面には交互二重半円文を施している。このように、面に渦巻文をもち、側面に半円文を施す例として、大谷宏治氏によって22例が集成されている(大谷2012)。

竹居1号墳例の特徴的な文様は、透し孔間に配された渦巻文が連結したS字状文であろう。このような文様をもつ例に、兵庫県高川3号墳例(同17)がある。また、透し孔間ではないが、神奈川県久野第2号古墳例(同10)の外縁にみられ、C字文系列であるが静岡県東平1号墳出土の2点にもみられる。西澤正晴氏は、この東平1号墳の2例を橋本編年の3段階の新しいものとして位置づけている(西澤2002)。

面に渦巻文をもち、側面に交互二重半円文をもつ象嵌鍔は、福島県跡見塚古墳群・同鋤木田古墳、群馬県 松本23号墳(同2)、千葉県草刈57号墳(同8)、神奈川県多摩川台9号墳(同9)・愛知県東禅寺2号墳、 兵庫県沢の浦2号墳(同18)などの例がある。

その中で先にも触れたように、面の文様構成をみると、高川2号墳例が鍔の大きさ、透孔の形態、文様構成とも竹居1号墳例と類似する。また、沢の浦2号墳例は、面に渦巻文が連結した文様はみられないが、刃側の外縁部の渦巻文が大きくなる点は竹居1号墳例と同様である。

橋本氏が第4段階として例示した東禅寺2号墳例は、渦巻文が大きく巻き数が多くなり、渦巻文と渦巻文の間隔もやや広くなっている。八窓ではあるが、透し孔は小形化する。渦巻文の巻き数が多いのは、多摩川台9号墳例とともに竹居1号墳例と類似する。

竹居1号墳例は、面の文様構成、透し孔の形態などの比較検討から、高川2号墳、沢の浦2号墳例に類似し、渦巻文の巻き数は、東禅寺2号墳、東久佐岐2号墳、多摩川台9号墳例に類似する。巻き数が多くなるのが新相だとみれば、八窓でありながら透し孔が縮小する東禅寺2号墳、多摩川台9号墳例より古く、高川2号墳、沢の浦2号墳例より新しいと位置づけることができよう。

また、側面の文様については、滝瀬氏の論考がある。氏は、鍔の側面にのみ象嵌を施す資料について分析を行い、八窓鍔もしくは六窓鍔で交互(重)半円文が施されるものは、TK209型式期後半に相当するとしており、この変化は側面と両面に象嵌が施される象嵌装大刀においても、応用可能だとする(滝瀬・野中1995)。

前節において、1号墳の築造時期の検討を行い、出土した須恵器から6世紀末から7世紀初頭となる可能性を指摘した。象嵌鍔は、象嵌鎺、円孔鍔などとともに第2次閉塞石下から出土している。閉塞石下からは、提瓶(第26図1)の破片も出土している。提瓶は、球形の胴部に細長い単純な口縁部を付すもので、肩部には環状把手が付くものである。類例としては多くないが(池上1985)、群馬県奥原53号墳、宮城県小寺囲5号墳などに類例が知られる。おおよそ7世紀前半代のものといえるであろう。この遺物によって、閉塞部下の遺物の時期がある程度推定できる。閉塞石下の遺物は古墳築造時期に近いもので、6世紀末から7世紀前半段階が想定される。

沢の浦2号墳は、TK209形式期に比定されており、第2次閉塞石下より発見された竹居1号墳の象嵌鍔が、 上記のような想定が可能だとすれば、TK209形式期に副葬されたものといえ、鍔側面文様の研究成果と併せても、時間的な齟齬はないものと考える。

竹居1号墳からは、鍔が4点出土しているにもかかわらず、刀身は破片も含め全く確認されていない。このため、象嵌装大刀がどのような拵えであったのか不明であるが、類似した象嵌鍔をもつ兵庫県沢の浦2号墳、同高川2号墳、千葉県草刈57号墳例では、頭椎大刀の可能性が高いという(大谷2012)。とくに草刈57号墳例は出土状況から木製の頭椎大刀であったことが指摘されている(千葉県教育振興財団文化財センター2007)。竹居1号墳では、象嵌装鍔・鎺・切羽の存在から、上記の例のように頭椎大刀であった可能性が高いが、盗掘により石室内の状態が良好ではなかったため、頭椎が金銅製であったのか木製であったのか明らかにすることは出来ない。

竹居1号墳では、鍔および刀装具が多く確認されているにも関わらず、刀身がまったく確認されないこと

に関しては、本来刀身に装着されているはずの鍔をはじめとした刀装具が遺されていることから、盗掘時に 刀身だけが持ち出されたと考えるのは不自然である。鞘に付属する責金具も数点出土していることから、少 なくとも鞘は副葬されていたものと思われる。当初より刀装具だけ副葬したのか、副葬の際に刀装具を外し て副葬、追葬の際の片付けによって、刀身と刀装具が分離したなどが可能性として考えられる。別に副葬、 片付けしたものを刀身だけ持ち出されたことも想定される。このことについては、今後の調査事例の増加を 待って考えてみたい。

挿図出典

第39図1. 荒砥二之堰2号墳 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1985を改変。 2. 松本23号墳 村岡・関・徳江1998を改変。 3.八幡塚古墳 村岡・関・徳江1998を改変 4. 群馬・錦町 西山・李・山口1996。 5. 小曾根神社古墳 瀧瀬・野中1995。 6. 三ヶ尻林4号墳 瀧瀬・野中1995を改変。 7. 広木大町2号墳 瀧瀬・野中1995。 8. 草刈57号墳 千葉県教育振興財団文化財センター2007。 9. 多摩川台9号墳 西山・李・山口1996を改変。 10. 久野第2号古墳 小田原市教育委員会1996。 11. 沼田城山横穴墓 清水1994。 12. 別所1号墳 川江1992を改変。 13. 井田松江18号墳 戸田村教育委員会2000。 14. 東久佐奈岐2号墳 清水市教育委員会ほか1984を改変。 15. 東禅寺2号墳 松村1981を改変。 16. 馬越長火塚古墳 豊橋市教育委員会2012。 17. 高川2号墳 兵庫県教育委員会1991を改変。 18. 沢の浦2号墳 兵庫県教育委員会1987を改変。 19. 天理参考館蔵品 山内1988を改変

第3節 竹居古墳群の位置づけ

これまで浅川扇状地の古墳については、発掘調査が実施された事例はほとんどなく、第2章第2節で触れたように、耕作等によって荘塚古墳や古柳塚古墳から副葬品が偶然発見された程度である。竹居古墳群中の蝙蝠塚第1号墳が唯一の例といえる。蝙蝠塚第1号墳は、盗掘に遭ったためか古墳に伴う副葬品もほとんど出土しておらず、古墳の様相をうかがい知ることは出来なかった。

竹居1号墳も盗掘によって、石室内に副葬品はほとんど残っていなかったにもかかわらず、閉塞石の石室 内への追加行為によって、副葬品の一部が盗掘を免れたのは幸いであった。その中には八窓象嵌鍔、多円孔 鍔などが含まれている。

山梨県内から出土した象嵌遺物は、円頭柄頭・鍔を出土した甲府市稲荷塚古墳(山梨県教育委員会1988)、同米倉山出土の鍔(岡野 1994)、笛吹市古柳塚古墳の円頭柄頭(古柳塚古墳研究会 2004)、同梅沢無名墳出土の鍔(山梨県 1999)、同四ツ塚 26 号墳の縁金具(山梨県教育委員会 1999)、同境川町出土品(西山1986)、南アルプス市曽根遺跡出土の鍔(南アルプス市教育委員会 2011)などが知られるに過ぎない。その他に、個人所有(鍔)のものがあるが、出土地は不明である(末木 1998)。

これらのうち、古墳の内容が明らかになっているのは、稲荷塚古墳のみである。稲荷塚古墳は、全長82 m、玄室長6 m、羨道長22 mを測る自然石を用いた右片袖型の横穴式石室墳である。石室内からは、銀象嵌円頭大刀、鉄鏃、刀子、轡・鐙・飾金具・雲珠などの馬具、甲冑小札類、銅鋺、水晶製切子玉、土玉、金環、土師器、須恵器などが出土している。出土遺物などから、6世紀末頃に築造されたものであり、丘陵下に位置する博物館構内古墳に継続する中道地域の盟主墳であると考えられている。

古柳塚古墳は、主体部の規模等は不明であるが、透彫系心葉形鏡板付轡、金銅製辻金具、壺鐙など優秀な 遺物が伴出している。

四ツ塚 26 号墳は、全長 5.4 mほどの横穴式石室をもつ。盗掘による結果か、副葬品には勾玉、切子玉、ガラス小玉、鉄鏃などが知られるに過ぎない。四ツ塚古墳群中においてはそれほど規模的には大きいものではない。

竹居1号墳も石室全長7.4mを測り、山梨県内における後期群集墳中においては比較的規模の大きな古墳

であるといえ、竹居古墳群中においても大形墳に属することが想定される。しかしながら、古柳塚古墳の例などを引くまでもなく、八代地域における有力墳は浅川扇状地扇端部の平坦地に位置する古墳であった可能性が高い。

装飾大刀は、一部地方で製作されたという考えもあるが、畿内で製作されたものが畿内政権よって下賜された威信財であるとう考え方が大勢を占める。また、佩用者の性格については、6世紀後半代には地方有力豪族層であったのに対し、6世紀末から7世紀前半代にかけては地方でもさほど有力でない中流の豪族層にまで広がった(滝瀬1986)、もので、地域小首長ないし有力家父長層だとしている(橋本1986)。

このような考え方は、円頭太刀をはじめとする装飾大刀のみならず象嵌装大刀についても同様な性格を与えることも可能であることが指摘されている(滝瀬・野中1996)。

地域において最有力とは言えない、浅川扇状地扇央部に点在する古墳に象嵌装大刀が副葬されていた事実は、上記のような指摘を裏付けるものだといえよう。

竹居古墳群の上位に位置する御崎古墳は、長さ8m、幅1.5mほどの横穴式石室を有していたと推定されている。副葬品には須恵器、鉄釧、鉄鏃、馬具、丸玉、ガラス小玉がある。そのうち馬具は、鏡板、杏葉、辻金具、飾り金具、蛇尾金具、鞍金具などが出土している。これらの多くは金銅製で毛彫りが施された豪華なものである。この遺物は東国中心に分布し、蘇我氏の東国経営にかかわる東山道中心に配布された文物であるとされる(田中1980)。

以前、山梨県内出土の装飾大刀について、甲府盆地南東部地域出土例が多いことを指摘した(宮澤1989)。その後、竹居1号墳例も含め類例の増加はあるものの、その傾向には変わりはない。八代地域を含む甲府盆地南東部地域が、前期から中期にわたり有力古墳を築造した地域勢力が、後期に至っても有力な古墳を築造し続けた伝統的な地域であり、群集する古墳においてもこれらの副葬品がみられることは、地域勢力の強さを誇っていたことを物語るものといえる。

参考文献

池上悟 1985「古墳出土の須恵器について ~フラスコ形提瓶~」『立正大学人文科学研究所年報』23号 立正大学人文科学研究所

池上悟 2011「東国後期古墳出土大刀の様相」『大学院紀要』第27号 立正大学大学院文学研究科

岡野秀典 1994「米倉山出土の銀象嵌刀鍔」『丘陵』第14号 甲斐丘陵考古学研究会

大谷宏治 2003 「遠江・駿河・伊豆における古墳時代後期の鉄鏃の変遷とその意義」 『研究紀要』 第10号 (財静岡県埋蔵文化 財調査研究所

大谷宏治 2012「象嵌装大刀の拵えについて」『馬越長火塚古墳群』 豊橋市埋蔵文化財調査報告書 第120集 豊橋市教育委 員会

小田原市教育委員会 1996『久野第2号墳』

小野正文 1999a「御坂町井之上の陶棺」『山梨県史』資料編2 原始・古代2 山梨県

小野正文 1999b「御坂町井之上の陶棺」『國學院大學考古学資料館紀要』第15輯 国学院大学考古学資料館

折原洋一 1997「房総地域における有窓(孔)鍔について」『生産の考古学』 倉田芳郎先生古希記念会

角南聡一郎・田部剛士 2002「古墳出土砥石の基礎的研究 ―近畿地方の事例―」『奈良大学大学院研究年報』Vol.7 号 奈良 大学大学院

川江秀孝 1992「飾大刀」『静岡県史』資料編3 考古3 静岡県

古柳塚古墳研究会 2004「古柳塚古墳の研究」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第12集 帝京大学山梨文化財研究所 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985『荒砥二之堰遺跡』 昭和55年度県営圃場整備事業荒砥南部地区に係る埋蔵文化 財発掘調査報告書

境川村役場企画室 1978『境川村誌』 境川村役場

坂本美夫 1985『馬具』 考古学ライブラリー34 ニュー・サイエンス社

鹿野塁 2006「古墳出土の砥石」『財団法人大阪府文化財センター・日本民家集落博物館・大阪府立弥生文化博物館・大阪府 立近つ飛鳥博物館 2004年度 共同研究成果報告書』 財団法人大阪府文化財センター

清水市教育委員会ほか 1984『東久佐奈岐古墳群 (3・4・6号墳・宮平 I 遺跡発掘調査報告書)

清水久男 1995「多摩川台古墳群出土の銀象嵌装大刀」『大田区立郷土博物館紀要』第5号 大田区立郷土博物館

鈴木敏則 2001「古墳時代須恵器編年の再構築」『須恵器生産の出現から消滅』第5分冊 補遺・論考編

滝沢誠・西澤正晴 2000「井田松江 18 号墳出土の象嵌刀装具類について」『井田松江古墳群』 戸田村教育委員会

瀧瀬芳之 1986「円頭大刀・圭頭大刀の編年と佩用者の性格」『考古学ジャーナル』No.266 ニュー・サイエンス社

瀧瀬芳之・野中仁 1995「埼玉県内出土象嵌遺物の研究」『研究紀要』12 埼玉県埋蔵文化財事業団

田中新史 1980「東国終末古墳出土の馬具」『古代探叢』 I

千葉県教育振興財団文化財センター 2007『千原台ニュータウン X VI - 市原市草刈遺跡 G 地区・古墳群 (P区)』 千葉県教育振興財団調査報告書第 567 集 独立行政法人都市再生機構千葉地域支社・財団法人千葉県教育振興財団

西澤正晴 2002 「遠江・駿河における鉄製板鐔の変遷と展開」『研究紀要』第9号 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 豊橋市教育委員会 2012 『馬越長火塚古墳群』 豊橋市埋蔵文化財調査報告書 第120集

西山要一・李牛憙・山口誠治 1996「日韓古代象嵌遺物の基礎的研究(1)」『青丘学術論集』第9集 財団法人韓国文化研究 振興財団

橋本博文 1979「甲斐の須恵器 (その1)」『丘陵』第6号 甲斐丘陵考古学研究会

橋本博文 1986「金銀装象嵌装飾円頭大刀の編年」『考古学ジャーナル』No.266 ニュー・サイエンス社

橋本博文 1993「亀甲繋鳳凰文象嵌大刀再考」『翔古論集』 久保哲三先生追悼論文集刊行会

兵庫県教育委員会 1987 『沢の浦古墳群』

兵庫県教育委員会 1991『高川古墳群』

笛吹市教育委員会 2014『長田1号墳』 笛吹市文化財調査報告書 第30集

戸田村教育委員会 2000『井田松江古墳群』

松村冬樹 1981「名古屋市守山区東禅寺 2 号墳出土の銀象嵌遺物について」『名古屋市博物館研究紀要』第5巻 名古屋市博 物館

水野敏典 2003「鉄鏃にみる後期古墳の諸段階」『シンポジウム 後期古墳の初段階』 第8回東北・関東前方後円墳研究会大会発表要旨資料

南アルプス市ほか 2011 『曽根遺跡 (第2地点)』 南アルプス市埋蔵文化財長さ報告書第28集

宮澤公雄 1989「後期古墳から観た甲府盆地の様相」『山梨考古学論集』Ⅱ 山梨県考古学協会

村岡泰子・関邦一・徳江秀夫 1998「邑楽町松本23号墳出土の象嵌大刀」『研究紀要』15 群馬県埋蔵文化財調査事業団

森幸彦 2003「福島県内出土の象嵌資料」『研究紀要』2003 福島県文化財センター白河館

八代町 1975『八代町誌』

八代町教育委員会 1972『蝙蝠塚第1号墳の発掘』

八代町教育委員会 1988『山梨県東八代郡八代町遺跡詳細分布調査報告書』 八代町埋蔵文化財調査報告書 第7集 山梨県 1999『山梨県史』資料編2 原始・古代 考古(遺構・遺物)

山梨県教育委員会 a 1990『稲荷塚古墳』 山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第38集

山梨県教育委員会 b 1990『山梨県生産遺跡分布調査報告書』 山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第51 集

山梨県教育委員会 1999『南西田遺跡・西林遺跡・四ツ塚古墳群』 山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第162集

山内紀嗣 1988「天理参考館所蔵の鉄地銀象嵌頭椎把頭」『天理参考館報』創刊号 天理参考館

行田裕美 1997「有孔砥石考」『年報 津山弥生の里』第4号(平成7年度) 津山弥生の里文化財センター

おわりに

今回の竹居古墳群の発掘調査において、2基の横穴式石室墳の調査を実施した。古墳の残存状況は良好ではなかったものの、さまざまな発見があり、これまで不明であった竹居地区に点在する後期古墳群の実体の一端ではあるが明らかにすることができた。

とくに、1号墳から発見された銀象嵌刀装具類は多くの問題を提起した。八窓象嵌鍔は、威信財として畿 内政権が製作、配布した遺物であると考えられている。八代地域が古墳時代前期以来、甲府盆地内で有力な 地域で有りつづけた結果、竹居地区の古墳も畿内政権と接点を持つことができたと考えられる。1号墳の被 葬者は地域における有力家長層であったのだろうか。

また、盗掘の憂き目に遭っているとはいえ、副葬品中に鍔が4点も発見されているにもかかわらず、刀身が全く確認できなかったことについては、今後検討しなければならないであろう。

発掘調査は、平成26年11月6日より開始し、年末年始を挟み1月30日まで実施した。天候不順な年の瀬であり、幾度となく降雨があり、年が明けてからは数度の降雪にも見舞われた。調査期間も十分に確保できなかった厳寒期の発掘調査であり、微細なガラス小玉の検出や散乱する人骨に足の踏み場もない狭い石室内での作業であったにもかかわらず、工期内に調査を完了することができたのは、調査に参加されたスタッフの協力によるところが大きい。また、発掘調査報告書刊行に向けた整理作業においてもさまざまな方々のご協力、努力があったことにより、ここに調査報告書を刊行することができました。

最後になりましたが、発掘調査ならびに発掘調査報告書刊行にあたり、ご参加、御協力いただいた方々に 御礼申し上げます。



1. 1号墳モザイク写真



1. 1号墳石室全景



2. 1号墳石室



1.1号墳調査開始前



2. 1号墳調査開始前(除草後)



3. 1 号墳奥壁



4.1号墳右側壁



5.1号墳左側壁



6.1号墳閉塞石



7.1号墳閉塞石内側



8.1号墳前庭部



1.1号墳前底部右石列



2.1号墳前庭部石列(上層)



3.1号墳前庭部礫検出状況(1)



4.1号墳前庭部礫検出状況(2)



5.1号墳第1次閉塞石内側



6.1号墳第1次閉塞石基底部



7.1号墳遺物出土状況(1)



8.1号墳遺物出土状況(2)





2.1号墳遺物出土状況(4)



3.1号墳遺物出土状況(5)



4.1号墳人骨検出状況(1)



5.1号墳人骨検出状況(2)



6.1号墳人骨・馬の歯検出状況



7.1号墳第2次閉塞石下遺物出土状況(1)



8.1号墳第2次閉塞石下遺物出土状況(2)



1.1号墳第2次閉塞石下遺物出土状況(3)



2. 第2次閉塞石下遺物出土状況(4)



3.1号墳第2次閉塞石下人骨検出状況



4.1号墳前庭部遺物出土状況(1)



5.1号墳前庭部遺物出土状況(2)



6.1号墳前庭部遺物出土状況(3)



7.1号墳西側墳丘



8. 1号墳西側周溝



1.1号墳墳丘西側断面



2.1号墳奥壁裏断面



3.1号墳敷石除去状況



4.1号墳掘り方



5.1号墳出土人骨保存処理状況



6.1号墳調査風景(1)



7.1号墳調査風景



8. 竹居古墳群遠景



1. 2号墳モザイク写真



1. 2号墳礫床検出状況



1. 2号墳完掘



1.2号墳調査開始前



2.2号墳調査開始前(除草後)



3.2号墳閉塞石除去状況



4.2号墳遺物出土状況(1)



5.2号墳遺物出土状況(2)



6.2号墳遺物出土状況(3)



7.2号墳遺物出土状況(4)



8.2号墳遺物出土状況(5)









3.2号墳遺物出土状況(8)

4.2号墳遺物出土状況(9)





5. 2号墳遺物出土状況(10)

6.2号墳床石除去状況





7.2号墳掘り方

8.2号墳調査風景



1. 3号墳モザイク写真



2.3号墳調査開始前



3.3号墳調査開始前(除草後)



4.3号墳完掘



8.3号墳墳丘セクション



出土遺物(1)



出土遺物 (2)

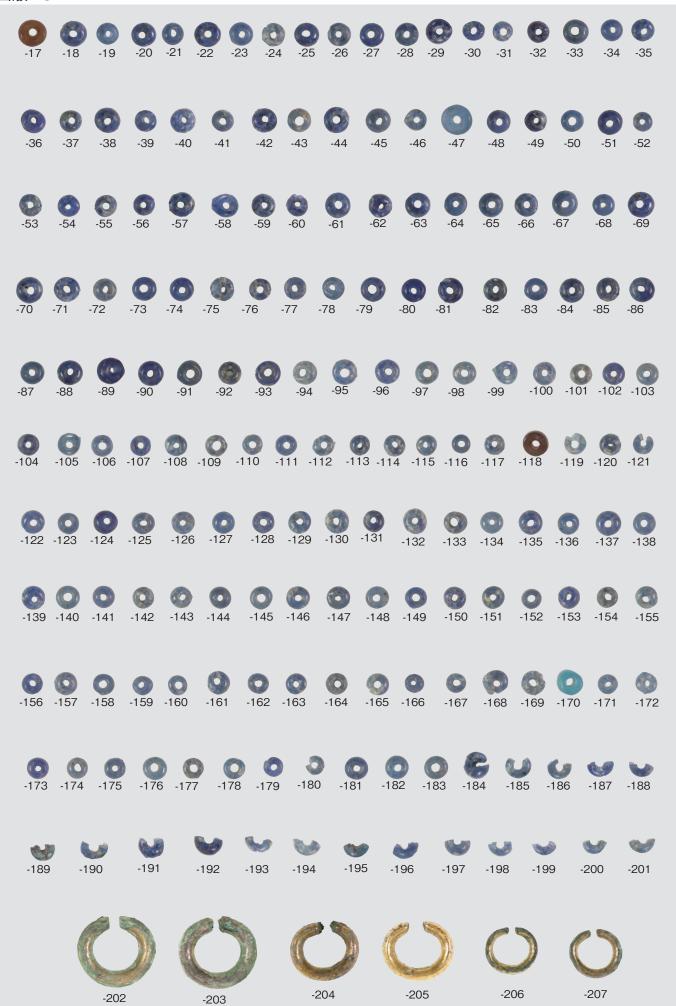


出土遺物(3)



出土遺物(4)









出土遺物(7)

竹居古墳群発掘調查報告書抄録

			1
؞ڿ	りが	な	たけいこふんぐん
書		名	竹居古墳群
副	書	名	中山間地域総合整備事業八代地区竹居2工区 ほ場整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シ	リーズ	名	笛吹市文化財調査報告書
シ	リーズ番	号	植月 学、宮澤公雄
著	者	名	33
発	行	者	山梨県峡東農務事務所 笛吹市教育委員会 公益財団法人山梨文化財研究所
編	集機	関	公益財団法人山梨文化財研究所
住	所・電	話	〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場1566-2 TEL055-263-6441
印	刷	H	2016年 3 月 24日
発	行	H	2016年 3 月28日
所	在	地	山梨県笛吹市八代町竹居1630番地外
地	図	名	25,000 分の 1 地形図 石和
位		置	北緯35度397分18秒、東経138度39分07秒
標		高	376m
市町村コード			19211
調	査 原	因	中山間地域総合整備事業八代地区竹居2工区ほ場整備工事
調	査 期	間	2014年11月6日~2015年1月30日
調	査 面	積	298m²
遺跡概要	主な時	代	古墳時代
	主な遺	構	横穴式石室墳 2 基
	主な遺	物	土器(土師器・須恵器)、武器(刀装具・鉄鏃)、農工具(鉄斧・刀子) 馬具(轡・飾り金具)、装身具(金環・勾玉・切子玉・丸玉・ガラス小玉) 象嵌刀装具(鍔・鎺・切羽)

竹居古墳群

一中山間地域総合整備事業八代地区竹居2工区ほ場整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2016年3月24日 印刷 2016年3月28日 発行

編集 公益財団法人山梨文化財研究所 山梨県笛吹市石和町四日市場1566-2 Tel 055-263-6441

発 行 山梨県峡東農務事務所 笛吹市教育委員会 公益財団法人山梨文化財研究所